

# 高井桃ノ木Ⅲ遺跡

元景寺南線(南新井前橋線)街路事業  
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2006

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



調查研究館1F保管



# 高井桃ノ木Ⅲ遺跡

元景寺南線(南新井前橋線)街路事業  
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2006

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



## 序

県道元景寺南線（南新井前橋線）は前橋市北西部と北群馬郡榛東村を結ぶ県道として重要な路線であります。同路線沿線は高等学校2校をはじめ地元小中学校への通学路として多くの児童生徒が利用しております。また、近年は交通量が大幅に増加し慢性的な交通渋滞が発生し、その改善が強く望まれてきました。これを受けて歩道整備や道路拡幅が急がれておりました。

本事業はその県道元景寺南線（南新井前橋線）街路整備事業に伴い平成17年度に当事業団が発掘調査を実施したものです。

本遺跡の周辺には推定上野国府、上野国分寺・尼寺跡、山王廃寺跡、総社古墳群のような重要な遺跡が存在しております。また、周辺では関越自動車道、県道バイパス建設、土地改良工事などに伴って、数多くの発掘調査が行われてきました。それらの地域内にある本遺跡は当地域の歴史を究明する上で貴重な資料を提供してくれるものと考えられてきました。

今回の調査では、奈良・平安時代の集落に関連する遺構を発見しました。これらの発見した集落遺構は周辺での調査成果を補完する知見を与え、当地の古代史を究明する上で重要な資料となると確信しております。

本報告書の刊行にいたるまでには、群馬県県土整備局、前橋土木事務所、群馬県教育委員会、前橋市教育委員会の諸機関並びに地元関係者の皆様にご尽力を賜りました。心から感謝の意を表しますとともに、本書が広く活用され、郷土の歴史の解明に大いに役立つことを願い序とします。

平成18年9月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団  
理事長 高橋 勇 夫



# 例 言

1. 本書は平成17年度元景寺南線（南新井前橋線）街路事業に伴う高井桃ノ木Ⅲ遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。なお、遺跡名称については県教育委員会文化課と前橋市教育委員会との協議により決定している。

高井桃ノ木Ⅲ遺跡に隣接して平成10年度の都市計画道路大友西通線建設に伴って「高井桃ノ木遺跡」、平成13年度に元景寺南線街路整備に伴って「高井桃ノ木Ⅱ遺跡」が発掘調査されている。これらの遺跡は高井桃ノ木Ⅲ遺跡とは立地、遺構の内容などからも同一の遺跡である。

2. 遺跡の所在地は下記のとおりである。

前橋市総社町高井219-1、219-6、219-7、224-1、226-1、230-4、231-1、231-5

3. 事業主体 群馬県前橋土木事務所
4. 調査主体 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
5. 調査期間 平成17年10月1日～平成18年12月31日
6. 調査組織 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 理事長 高橋勇夫  
事務担当 木村裕紀、津金沢吉茂、西田健彦、関 晴彦、国定 均、矢崎俊夫、宮前結城雄、竹内 宏、石井 清、須田朋子、今泉大作、栗原幸代、吉田有光、佐藤聖行、清水秀紀、今井とも子、内山桂子、本間久美子、北原かおり、若田 誠、武藤秀典
7. 調査担当 神谷佳明 小高哲茂
8. 整理期間 平成18年4月1日～平成18年6月30日
9. 整理組織 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 理事長 高橋勇夫  
事務担当 木村裕紀、津金沢吉茂、中東耕志、国定 均、萩原 勉、笠原秀樹、石井 清、須田朋子、今泉大作、栗原幸代、斉藤恵利子、柳岡良宏、佐藤聖行、今井とも子、内山桂子、本間久美子、北原かおり、若田 誠、武藤秀典
10. 整理担当 神谷佳明
11. 報告書作成関係者 編集責任 神谷佳明  
本文執筆 神谷佳明、小林 正  
遺構写真撮影 調査担当者 遺物写真撮影 佐藤元彦  
石材同定 飯島静男 遺物観察 神谷佳明  
保存処理 関 邦一、土橋まり子、小材浩一、森田智子、津久井桂一、多田ひさ子  
整理補助 島崎敏子、田中のぶ子、松井さえ子、菅井和枝、細井美栄子  
遺物機械実測 田所順子、伊東博子、岸 弘子
12. 協力者 発掘調査、整理作業・報告書刊行にあたり多くの方々から有益な御指導、御教示、ご助力をいただいた。ここに記して感謝の意を表する。(敬称略)  
群馬県前橋土木事務所、群馬県教育委員会、前橋市教育委員会、総社町高井自治会  
須賀工業株式会社、宮下工業株式会社、株式会社シン技術コンサル、技研測量設計株式会社、平形典一、田村 勉、井上慎也、川原秀夫、桐生直彦、角田慎也、常深 尚、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団諸氏

13. 記録図面、記録写真、出土遺物、その他記録類等は群馬県埋蔵文化財調査センターに保管している。
14. 高井桃ノ木Ⅲ遺跡の発掘調査では民家、民地への出入口確保のため一部調査不可能な地点が存在した。この地点については道路建設工事時に県教育委員会文化課によって工事立ち会いを行い、遺構等が確認されたときはその場で緊急的に発掘調査を実施している。なお、工事立ち会いについては県教育委員会文化課埋蔵文化財第1グループ小林 正文化財保護主事に対応している。

工事立ち会い地点・期日	下水道管敷設工事	1区～2区間	平成18年2月10日
		6区～7区間	平成18年2月24日
	道路建設工事	1区～2区間	平成18年5月8日
		6区～7区間	平成18年4月19日

## 凡 例

1. 高井桃ノ木Ⅲ遺跡の発掘調査は諸事情により1区から順次実施することができないため遺構NO.については区ごとに1から付与している。そのため堅穴住居、土坑等では1号が複数存在する。
2. 挿図中の方位は座標北、座標値は日本測地系を表示している。
3. 発掘調査における方位は測量委託した図面については座標北、それ以外は磁北を示している。
4. 本文中に使用した略称・略号は下記のとおりである。  
As-B 浅間山B軽石、As-C 浅間山C軽石、Hr-FP 榛名二ツ岳軽石、  
Hr-FA 榛名二ツ岳火山灰
5. 挿図中の遺構図縮尺は下記のとおりである。  
調査区全体図 1/100、堅穴住居 1/60、堅穴住居カマド 1/30、土坑 1/40、溝 1/40、畑 1/50  
その他、上記凡例に提示した以外は図中に表記し、スケールを貼付してある。
6. 挿図中の遺物図縮尺は下記のとおりである。  
土器 1/3、小型の石器 1/1または1/2、金属器 1/2
7. 遺構の挿図中に使用した記号は遺物の出土位置を表している。そして記号種類は下記のとおりである。  
● 土器、■ 金属器・金属製品、▲ 石器・石製品（縄文時代包含層遺物出土図は除く）
8. 挿図中に使用した地図は下記のとおりである  
1図 国土地理院 1/200,000（昭和58年横山衡器製作所創業100周年記念調整）  
2図 国土地理院 1/25,000（前橋・渋川）、陸軍省 1/20,000（群馬縣上野國西群馬郡金古駅）  
5図 前橋市都市計画図 1/2,500（24・25）  
6図 国土地理院 1/50,000（前橋・榛名山）  
8図 国土地理院 1/25,000（前橋・渋川）
9. 遺物観察表での語彙について下記のように省略している。  
出土位置 +表記は住居床面よりの高さを表す。  
残存率 □-□縁部、胴-胴部、底-底部  
計測値 □-□径、底-底径、高-器高、なお単位はcm、gである。
10. 遺物観察表での土器色調は農林水産省農林水産技術会議監修、財団法人日本色彩研究所 色票監修「新版標準土色帳」を参考にした。

# 目次

序	
例言	
凡例	
目次	
挿図目次	
表目次	
図版目次	

I 調査に至る経緯・経過	
1. 調査に至る経緯	2
2. 調査の経過	2
II 調査の方法	
1. 調査区の設定	5
2. 遺跡地の層序	6
III 遺跡地の周辺環境	
1. 地理的環境	8
2. 歴史的環境	10
IV 検出遺構と出土遺物	
1. 縄文時代	13
包含層	13
2. 奈良・平安時代	15
竪穴住居	18
土坑	38
溝	46
河道	47
遺構外出土遺物	50
3. 中世・近世	50
土坑	50
溝	53
畑	54
V 調査成果と課題	55

# 挿 図 目 次

1図	遺跡位置図 (1/200,000) .....	1	30図	6区2号住居遺物図 .....	32
2図	遺跡位置図 .....	3	31図	7区1号住居遺構図 .....	33
3図	発掘調査区区分図 .....	4	32図	7区1号住居遺物図 .....	33
4図	調査区設定図 .....	5	33図	7区2号住居遺構図 .....	34
5図	遺跡地の土層柱状図 .....	7	34図	7区2号住居遺物図 (1) .....	34
6図	遺跡地周辺の地形図 .....	9	35図	7区2号住居遺物図 (2) .....	35
7図	遺跡地付近の地質図 .....	9	36図	6～7区1号住居遺構図 .....	36
8図	周辺遺跡図 (S=1/25,000) .....	12	37図	6～7区1号住居遺物図 .....	36
9図	縄文時代調査区及び遺物出土状態図 .....	13	38図	6～7区2号住居遺構図 .....	37
10図	縄文時代調査区土層断面図、遺物図 .....	14	39図	1区1号、3～5号、8号、9号土坑遺構図・遺物図 .....	39
11図	1区調査区遺構全体図 .....	15	40図	4区1号土坑、6区2号、3号、5号、6号、10号、11号 土坑遺構図・遺物図 .....	40
12図	2区、3区調査区遺構全体図 .....	16	41図	6区7号、9号、14号、15号土坑遺構図・遺物図 .....	41
13図	4区、5区、6区調査区遺構全体図 .....	17	42図	6区13号、16～18号、20号土坑遺構図・遺物図 .....	42
14図	7区、6区・7区調査区遺構全体図 .....	18	43図	6区18号土坑遺物図 .....	43
15図	1区1号住居遺構図 (1) .....	19	44図	7区1～3号土坑遺構図・遺物図 .....	43
16図	1区1号住居遺構図 (2) .....	20	45図	7区4～7号土坑遺構図・遺物図 .....	44
17図	1区1号住居遺物図 (1) .....	20	46図	6区1号溝遺構図 .....	46
18図	1区1号住居遺物図 (2) .....	21	47図	7区1号溝遺構図 .....	46
19図	1区2号住居遺構図 (1) .....	22	48図	5区・6区河道平面図・断面図 .....	47
20図	1区2号住居遺構図 (2) .....	23	49図	5区・6区河道遺物図 (1) .....	48
21図	1区2号住居遺物図 (1) .....	23	50図	5区・6区河道遺物図 (2) .....	49
22図	1区2号住居遺物図 (2) .....	24	51図	遺構外出土遺物 .....	50
23図	1区2号住居遺物図 (3) .....	25	52図	1区2号、6号、7号、10～16号土坑遺構図 .....	51
24図	6区1号住居遺構図 (1) .....	27	53図	3区1～8号土坑遺構図 .....	52
25図	6区1号住居遺構図 (2) .....	28	54図	6区1号、4号、8号土坑遺構図 .....	53
26図	6区1号住居遺物図 (1) .....	28	55図	3区1号、2号溝遺構図 .....	53
27図	6区1号住居遺物図 (2) .....	29	56図	3区畑遺構図 .....	54
28図	6区1号住居遺物図 (3) .....	30			
29図	6区2号住居遺構図 .....	32			

# 表 目 次

1表	奈良・平安時代土坑 .....	38	6区2号住居出土遺物 .....	32
2表	中世・近世土坑 .....	50	7区1号住居出土遺物 .....	33
遺物観察表			7区2号住居出土遺物 .....	35
縄文時代包含層出土遺物 .....		14	6区～7区1号住居出土遺物 .....	36
1区1号住居出土遺物 .....	20	土坑出土遺物 .....	44	
1区2号住居出土遺物 .....	26	5区・6区河道出土遺物 .....	49	
6区1号住居出土遺物 .....	30	遺構外出土遺物 .....	50	

# 図 版 目 次

## PL 主 題

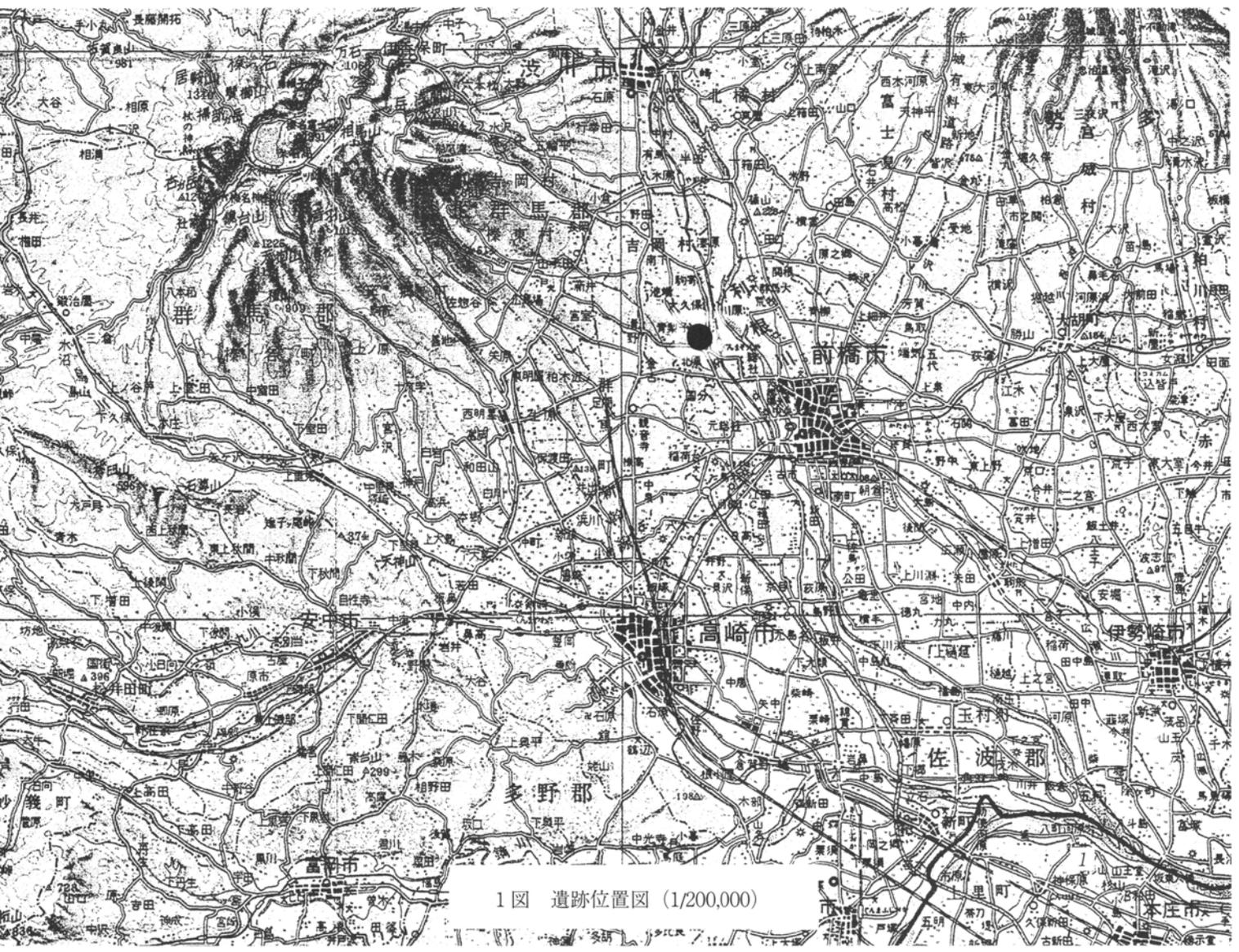
- 1 遺跡地周辺航空写真 (1947年米軍撮影)
- 2 遺跡地遠景
  - 発掘調査地調査前状況 東→
  - 発掘調査地調査前状況 南西→
  - 発掘調査地調査前状況 南東→
  - 発掘調査地調査前状況 西→
- 3 調査区全景 東→
  - 調査区全景 西→
  - 1区調査区全景 東→
  - 1区調査区全景 西→
- 4 2区調査区全景 西→
  - 3区調査区全景 東→
  - 4区調査区全景 西→
  - 5区調査区全景 北東→
  - 5区調査区全景 西→
- 5 6区調査区全景 東→
  - 6区調査区全景 西→
  - 7区調査区全景 西→
  - 7区調査区全景 北→
  - 7区調査区全景 東→
- 6 1区IV層下基本層序 北→
  - 2区地表下基本層序 東→
  - 3区V層下基本層序 北→
  - 5区地表下基本層序 東→
  - 6区V層下基本層序① 南→
  - 6区V層下基本層序② 南→
  - 7区地表下基本層序 南西→
- 7 1区縄文時代面遺物出土状態 東→
  - 1区縄文時代面遺物出土状態 南→
  - 1区縄文時代面遺物出土状態 北→
  - 1区1号住居全景 西→
  - 1区1号住居全景 北→
  - 1区1号住居埋没土堆積状態 東→
  - 1区1号住居遺物出土状態 北→
- 8 1区1号住居カマド全景 西→
  - 1区1号住居カマド土層断面 北→
  - 1区1号住居カマド遺物・礫除去後 西→
  - 1区1号住居カマド掘り方 西→
  - 1区1号住居掘り方 西→
  - 1区1号住居掘り方土層断面 東→
  - 1区1号住居工事立ち会い時調査状況 西→
  - 1区1号住居工事立ち会い時遺物出土状態 北→
- 9 1区2号住居全景 西→
  - 1区2号住居埋没土堆積状態 西→
  - 1区2号住居遺物出土状態 西→
  - 1区2号住居カマド廃棄状態 西→
  - 1区2号住居カマド天井部補強礫除去後 西→
  - 1区2号住居カマド掘り方 西→
  - 1区2号住居掘り方 西→
  - 1区2号住居掘り方 北→
- 10 6区1号住居全景 (拡張前) 西→
  - 6区1号住居全景 南→
  - 6区1号住居全景 南→
  - 6区1号住居遺物出土状態 南→
  - 6区1号住居貯蔵穴 北→
  - 6区1号住居カマド 南→
  - 6区1号住居掘り方 南→
  - 6区1号住居掘り方床下土坑 NO.2 北→

## PL 主 題

- 11 6区2号住居全景 (拡張前) 北東→
  - 6区2号住居全景 (拡張後) 東→
  - 6区2号住居埋没土堆積状態 北→
  - 6区2号住居掘り方 北→
  - 7区1号住居全景 北→
  - 7区1号住居カマド付近土層断面 東→
  - 7区1号住居カマド付近土層断面 北→
  - 7区1号住居掘り方 北→
- 12 7区2号住居全景 (床面のみ) 北→
  - 7区2号住居埋没土堆積状態 西→
  - 7区2号住居掘り方床下土坑 南→
  - 7区2号住居掘り方床下土坑土層断面 南→
  - 7区2号住居工事立ち会い時調査状況
  - 6区~7区間住居工事立ち会い時調査状況
  - 6区~7区間住居工事立ち会い時調査状況
  - 6区~7区間住居工事立ち会い時調査状況
- 13 1区1号土坑 東→
  - 1区1号土坑土層断面 南→
  - 1区4号土坑 北→
  - 1区4号土坑土層断面 西→
  - 4区1号土坑集石確認状態 西→
  - 4区1号土坑掘り方 西→
  - 4区1号土坑土層断面 南西→
  - 6区2号土坑 南→
- 14 6区3号土坑 南→
  - 6区5号土坑 南→
  - 6区6号土坑 北→
  - 6区7号土坑 北→
  - 6区7号土坑遺物出土状態 北→
  - 6区7号土坑土層断面 北→
  - 6区9号土坑 南→
  - 6区9号土坑土層断面 西→
- 15 6区10号土坑 北→
  - 6区10号土坑土層断面 北→
  - 6区11号土坑 南→
  - 6区13号土坑 北→
  - 6区13号土坑土層断面 南→
  - 6区14号土坑 西→
  - 6区14号土坑土層断面 北→
  - 6区15号土坑 東→
- 16 6区15号土坑土層断面 北→
  - 6区16号土坑 南→
  - 6区17号土坑 南→
  - 6区17号土坑土層断面 南→
  - 6区18号土坑・19号土坑 南→
  - 6区20号土坑 北→
  - 7区1号土坑 西→
  - 7区1号土坑土層断面 南西→
- 17 7区2号土坑 西→
  - 7区2号土坑土層断面 西→
  - 7区3号土坑 北→
  - 7区4号土坑 北→
  - 7区5号土坑 西→
  - 7区6号土坑 北→
  - 7区7号土坑 北→
  - 7区7号土坑土層断面 西→
- 18 6区1号溝土層断面 南→
  - 7区1号溝 北→

- PL 主 題
- 7区1号溝土層断面 北→
  - 7区1号溝土層断面 北→
  - 5区河道 西→
  - 5区河道 東→
  - 5区河道埋没土堆積狀態 西→
  - 5区河道埋没土堆積狀態 東→
  - 19 1区2号土坑 北→
  - 1区3号土坑 北→
  - 1区10号土坑 南→
  - 1区11号土坑~16号土坑 南→
  - 3区2号土坑 南→
  - 3区5号土坑 北→
  - 3区6号土坑 北→
  - 3区7号土坑・8号土坑 北→
  - 20 6区1号土坑 東→
  - 6区1号土坑土層断面 南→
  - 6区4号土坑 北→
  - 6区4号土坑土層断面 東→
  - 3区1号溝 北→
  - 3区畑 全景 東→
  - 3区畑 近景 東→

- 出土遺物
- PL 主 題
- 21 縄文包含層出土遺物
  - 22 縄文包含層出土遺物
  - 23 1区1号住居出土遺物
  - 24 1区1号住居出土遺物
  - 1区2号住居出土遺物
  - 25 1区2号住居出土遺物
  - 26 1区2号住居出土遺物
  - 27 1区2号住居出土遺物
  - 6区1号住居出土遺物
  - 28 6区1号住居出土遺物
  - 7区2号住居出土遺物
  - 29 7区2号住居出土遺物
  - 6区・7区1号住居出土遺物
  - 土坑出土遺物
  - 30 土坑出土遺物
  - 河道出土遺物
  - 31 河道出土遺物
  - 遺構外出土遺物



1 図 遺跡位置図 (1/200,000)

# I 調査に至る経緯・経過

## 1. 調査に至る経緯

元景寺南線（南新井前橋線）は、北群馬郡榛東村大字新井を起点とし、前橋市高井町で県道前橋伊香保線バイパスと交差し、同線と重用して前橋市荒牧町の終点に至る一般県道である。

この路線は、前橋市の環状線から放射状に伸びる幹線道路であり、ベッタウン化しつつある北群馬郡吉岡町・榛東村や観光地である渋川市伊香保町へアクセスする重要な路線である。近年、沿線に高等学校2校が新設されたことや前橋伊香保線バイパスが供用開始したことから交通量が伸びており、交通渋滞等を解消するために、地方特定街路整備事業として道路の拡幅や歩道の整備が行われることとなった。

## 2. 調査の経過

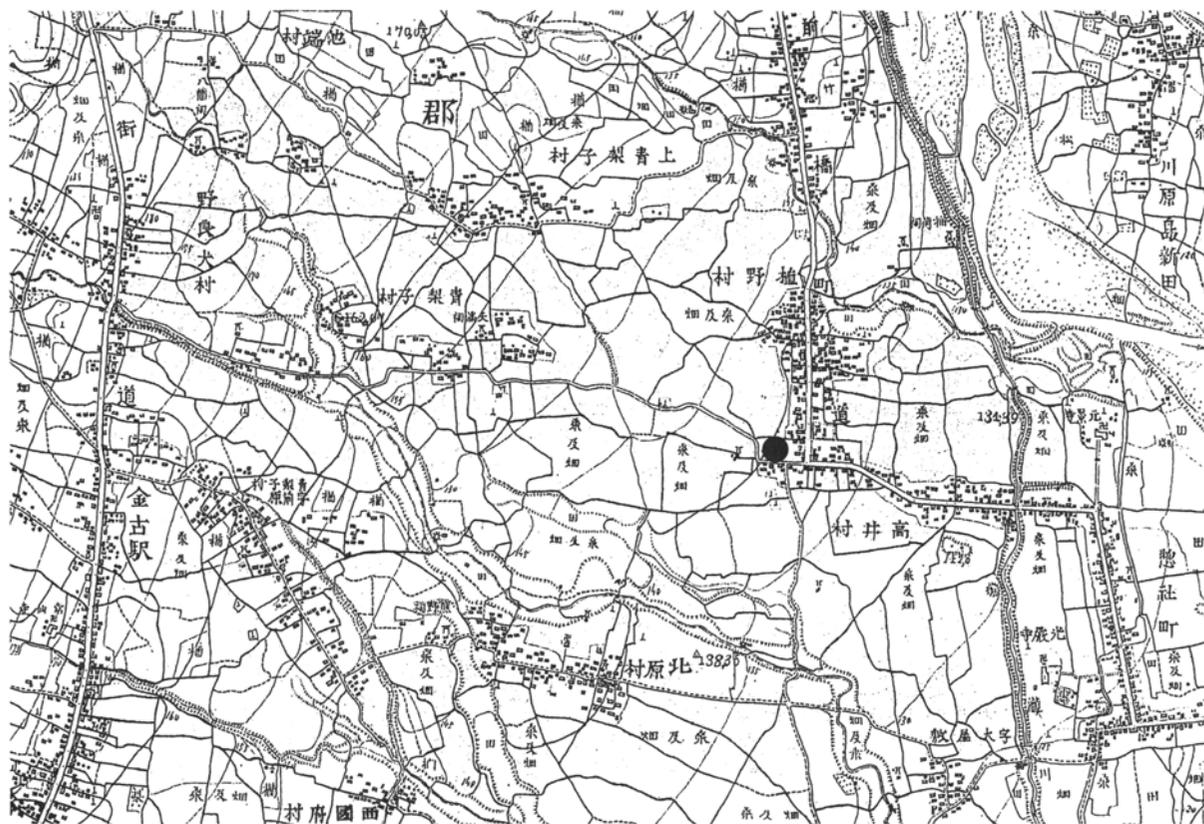
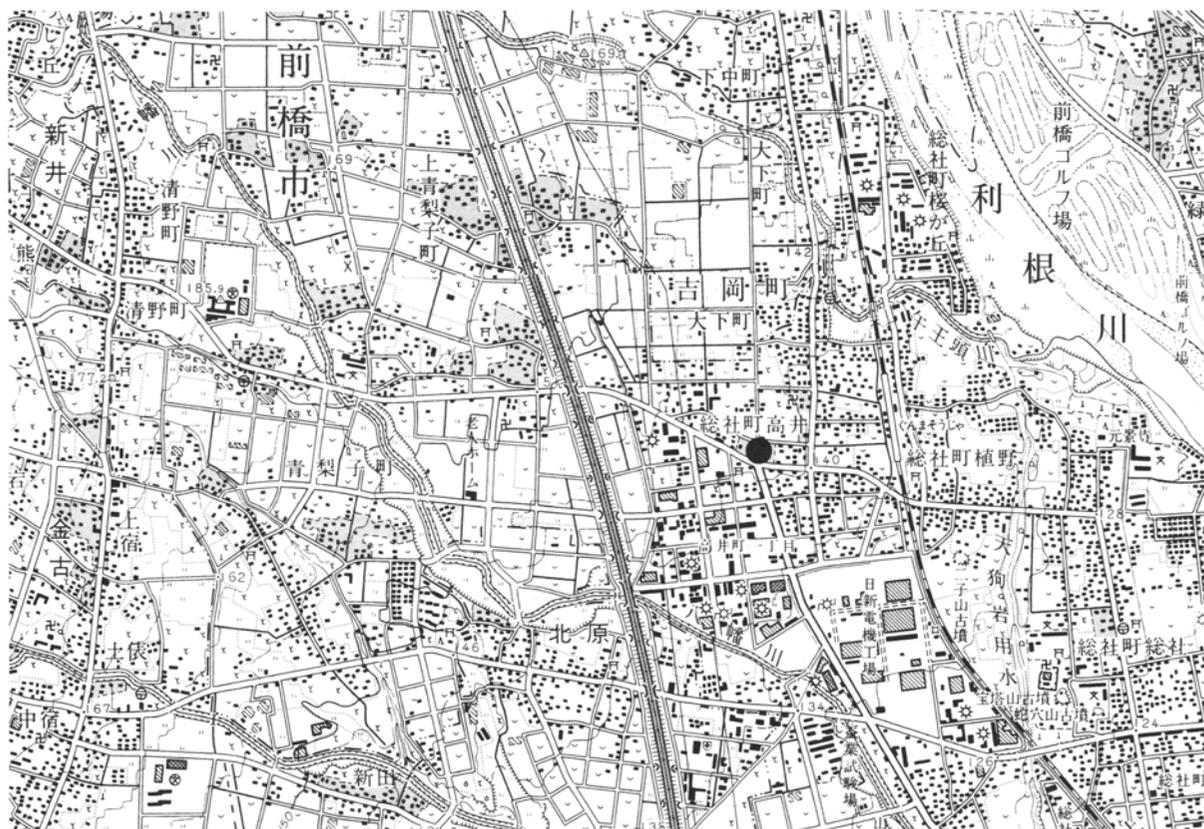
発掘調査は県道元景寺南線（南新井前橋線）は総社町高井地区で平成13年度に発掘調査が実施された高井桃ノ木Ⅱ遺跡（今回、発掘調査を実施した高井桃ノ木Ⅲ遺跡とは同一の遺跡であるが、県教育委員会文化課が前橋市教育委員会に遺跡名称を問い合わせた結果、高井桃ノ木Ⅱ遺跡と同様に「遺跡」の前にローマ数字を記して調査次を区分することになった。）と前橋市青梨子町寄りの歩道整備が終了した間までの未整備区間、全長170m、幅5m前後、面積720㎡の範囲が対象であった。発掘調査対象範囲は小規模であるが全長が長いので調査区に隣接して民家3軒、店舗を有する集合住宅2棟が建てられているため、調査時に出入口を確保する必要があった。そのため発掘調査範囲を7調査区に区分し、調査区名を東から1区、2区・・・7区と呼称した。各調査区間の間隔が広い部分については遺構の状態をみて調査を行うか否かを判断することにしたが、1区

事業予定地の周辺には高井桃ノ木遺跡や総社高井十郎Ⅱ遺跡が存在し、さらに高井桃ノ木Ⅱ遺跡（平成13年度に元景寺南線遺跡調査会（会長 川端達夫、下山 博）によって発掘調査、2003年に報告書刊行）が今回の事業地の東に隣接して存在することから、平成17年6月21日に群馬県教育委員会文化課が試掘調査を実施し、奈良・平安時代住居跡や土坑等の遺構を検出した。

中部県民局前橋土木事務所と県文化課で協議を行った結果、事業の実施が至急に迫っているため、同年10月より財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が発掘調査を実施することとなった。

と2区、3区と4区、6区と7区の間は民家や集合住宅の出入口確保のため調査は不可能であった。そのため1区と2区、6区と7区の間は道路工事の際に県教育委員会文化課による立ち会いを依頼した。工事立ち会いは1区と2区の間が平成18年2月10日、6区と7区の間が2月24日と4月19日に行われた。6区と7区の間では7区2号住居の未調査部分と新たな竪穴住居が確認されたため緊急調査が行われた。

発掘調査は土木事務所の発掘調査範囲の西側より実施してほしいとの要望で7区と4区・5区から開始し、1区・2区、3区・6区の順で実施した。調査は基本層序Ⅳ層上面で古墳時代以降の遺構について実施し、その後、Ⅳ層下層に存在する洪水堆積層下層の黒色土まで試掘調査を行い縄文時代の遺構、遺物の有無について調査を実施した。

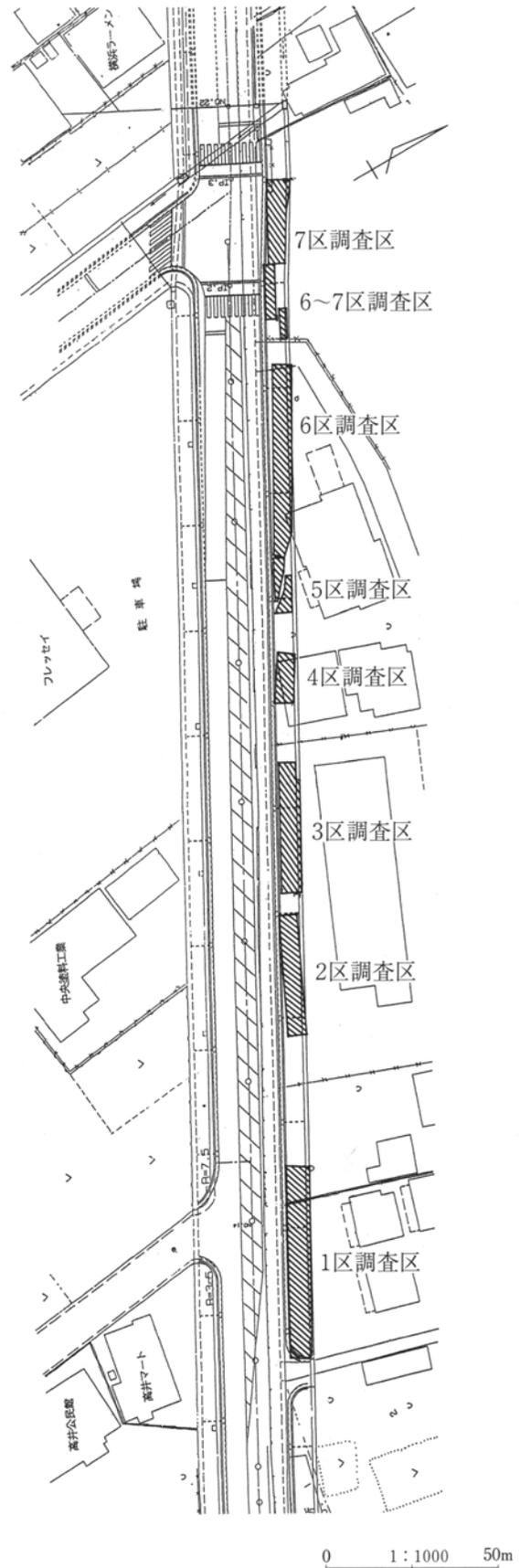


2 図 遺跡位置図 (1/25,000)

上 国土地理院 (前橋・渋川) 平成 9 年発行、下 陸軍省測量 明治18年発行 原図 1/20,000を80%縮小

高井桃ノ木Ⅲ遺跡調査日誌

10/3	月	発掘調査準備
10/4	火	周辺への調査開始説明
10/5	水	調査区設定準備
10/6	木	調査用杭設置
10/7	金	発掘調査に伴う工事打ち合わせ
10/10	月	発掘調査に伴う工事（コンクリートカッター工事等）
10/11	火	安全柵設置
10/12	水	表土掘削及びコンクリート等産業廃棄物処理
10/13	木	表土掘削／4区・7区遺構確認
10/14	金	表土掘削／4区・5区遺構確認
10/17	月	4区土層断面観察・測量、7区遺構掘削
10/18	火	4区・7区遺構掘削
10/19	水	4区・5区・7区遺構掘削
10/20	木	4区・5区・7区遺構掘削、遺構平面・断面等測量
10/21	金	5区・7区全景写真撮影、7区遺構掘削
10/24	月	5区・7区遺構掘削、1区・2区安全柵設置等
10/25	火	1区・2区表土掘削、4区・5区・7区埋戻
10/26	水	1区住居・土坑等遺構掘削
10/27	木	1区住居・土坑等遺構掘削、土層断面等測量
10/28	金	1区住居写真撮影、測量、遺物取上等
10/31	月	1区住居カマド調査、2区V層下調査
11/1	火	1区・2区全景写真撮影、2区V層下調査
11/2	水	1区遺構平面測量
11/4	金	1区住居カマド調査、2区V層下調査
11/7	月	1区住居掘方調査、2区V層下調査
11/8	火	1区住居掘方調査、2区埋戻
11/9	水	1区縄文時代面調査、3区・6区安全柵設置
11/10	木	1区縄文時代面調査、3区・6区表土掘削
11/11	金	1区縄文時代面調査、3区遺構掘削
11/14	月	1区埋戻
11/15	火	3区・6区遺構掘削
11/16	水	6区住居・土坑等遺構掘削
11/17	木	6区住居・土坑等遺構掘削、土層断面測量
11/18	金	3区・6区全景写真撮影
11/21	月	3区・6区遺構平面測量
11/22	火	3区・6区遺構平面測量
11/24	木	6区重複遺構調査
11/25	金	6区2号住居掘方調査
11/28	月	3区・6区V層下調査
11/29	火	3区・6区V層下調査
11/30	水	6区1号住居南拡張設定
12/1	木	3区・6区埋戻
12/2	金	3区・6区埋戻、5区～6区表土掘削
12/5	月	5区～6区住居・埋没河道等遺構掘削
12/6	火	5区～6区住居・埋没河道等遺構掘削
12/7	水	5区～6区住居・埋没河道等遺構掘削
12/8	木	6区1号住居全景写真撮影、平面等測量
12/9	金	6区1号住居貯蔵穴、掘方等調査
12/12	月	6区1号住居掘方調査
12/13	火	6区埋戻、遺構写真等基礎整理
12/14	水	遺構写真等基礎整理
12/15	木	遺構写真等基礎整理
12/16	金	遺構写真等基礎整理
12/19	月	遺構写真等基礎整理
12/20	火	遺構写真等基礎整理
12/21	水	遺構写真等基礎整理
12/22	木	遺物搬出
12/23	金	器材搬出
12/26	月	器材搬出
12/27	火	発見届け他事務処理
12/28	水	



3図 発掘調査区区分図

## II 調査の方法

### 1. 調査区の設定

発掘調査対象範囲は道路整備に伴うため全長170m、幅5m前後と細長く、幅の狭い限定された範囲であることと路線がN-62°-Wの方向に向いているため国家座標を直接使用するのは調査において不都合が生じるため路線に沿って調査区を設定することとした。調査区は調査対象範囲の幅が5m前後と狭いため南東から北東にかけて調査対象地を5mごとの輪切りにする状態でグリッドを設定した。

発掘調査対象地の最も東南の基準となる地点をAとし、0~5mの間をAグリッド、基準点から5mの地点をB、5m~10mの間をBグリッド、以下5mごとにC、Cグリッド・・・X、Xグリッド、120m地点をY、120m~125mの間をYグリッドとし、125m地点を2A、125m~130mの間を2Aグリッド、以下調査対象地の北西隅までの2I、2Iグリッドまで設定した。

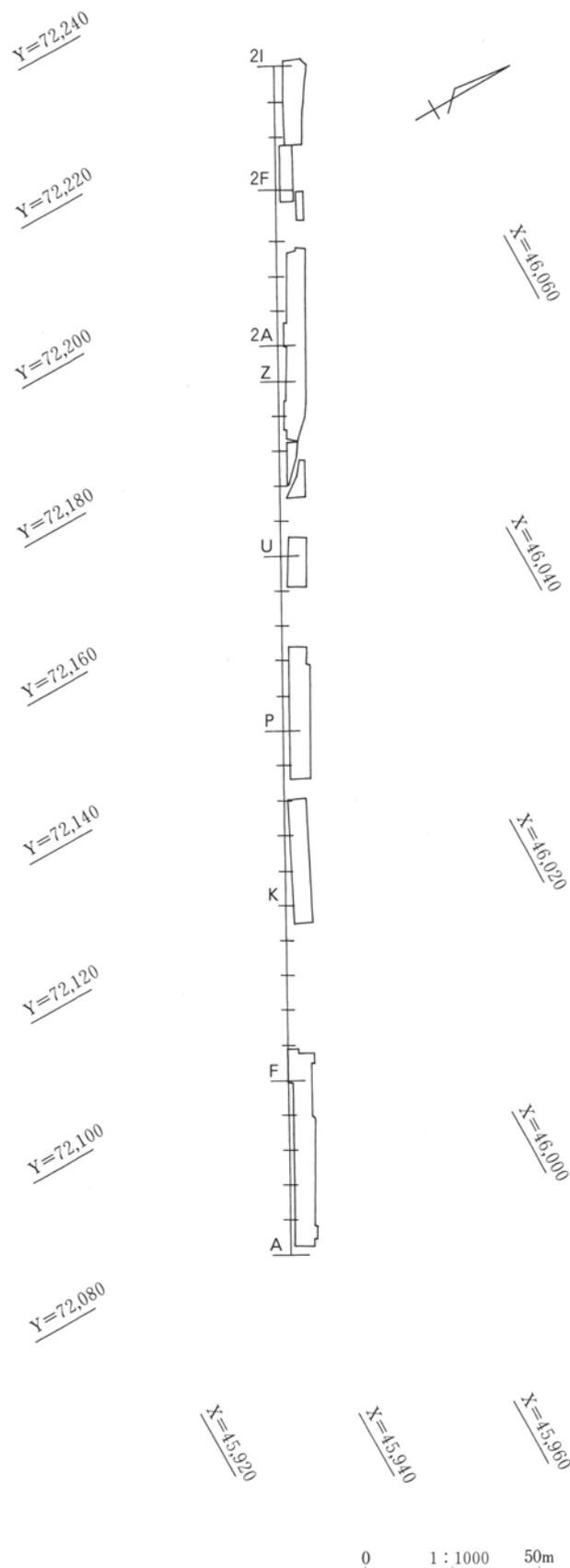
また、発掘調査中は南側の現道に接する部分は調査の安全を確保するため安全柵を設置するため調査区、調査区ポイントの使用を考慮して10mごとに調査区北側にポイントに直交する任意のポイント(「┌」で表記)を設置した。

発掘調査中に作業員による遺構測量はこの調査区ポイントを使用し、報告書作成時に国家座標に変換した。

なお、国家座標は世界測地系を使用している。

代表的なポイント座標値は下記のとおりである。

A	X = 45,990.866	Y = -72,184.793
E	X = 45,951.915	Y = -72,090.356
K	X = 45,966.170	Y = -72,116.751
P	X = 45,978.031	Y = -72,138.757
U	X = 45,997.032	Y = -72,178.341
2 A	X = 46,004.154	Y = -72,187.143
2 I	X = 46,023.153	Y = -72,222.344



4 図 調査区設定図

## 2. 遺跡地の層序

発掘調査区内の基本的な土層層序は高井桃ノ木遺跡、高井桃ノ木Ⅱ遺跡と同様である。この地域の堆積土層は利根川や榛名山、この地域を流れる河川洪水の影響により数層に区分される。その中には浅間山や榛名山の噴火による多くのテフラが含まれている。こうした堆積土層については早田 勉氏等によって明らかにされており、高井桃ノ木遺跡、高井桃ノ木Ⅱ遺跡の発掘調査では早田 勉氏によって堆積土層中の火山灰分析が報告されている。こうした土層区分を参考に今回の高井桃ノ木Ⅲ遺跡の発掘調査でも調査地の堆積土について区分を行った。その結果、この地域では畑地としての耕作や建物の建設などによって表土近くは攪拌、攪乱が激しい状態で地点によっては表土下の2～3層が確認できない地点もみられた。

発掘調査地での基本的な堆積土は以下のとおりであった。

I層 現在の耕作土である。色調は地点によって多少異なるが、概ね灰色や黄色を帯びた褐色（土色帳10YR4/3）を呈している。層位中には多くの浅間B軽石（以後As-Bと略す）を含む。そのため比較的粘質のないサラサラした土質である。また、上部は住宅地などの敷地であったため碎石などが堆積していた。

II層 As-Bを20～30%と地点によっては浅間C軽石（以後As-Cと略す）や榛名二ツ岳軽石（以後Hr-FPと略す）などの白色軽石（肉眼観察では区分は難しかった。）を1～5%含み、比較的サラサラした土層で色調は暗褐色（土色帳10YR3/3）を呈する。

III層 榛名二ツ岳火山灰が混入しているためかやや灰色を帯びた土層、色調は褐灰色（土色帳10YR4/1）または灰黄褐色（土色帳10YR4/2）を呈する。含有物にはAs-CやHr-FPを含む。

IV層 As-Cを10～20%含む黒色土（10YR2/2）、この層位上面で古墳時代以降の遺構確認を行った。

V層 IV層と同様の黒色土であるが、As-C降下以前のため含有物はほとんど観察されなかった。

VI層 洪水堆積土、灰褐色・黄褐色などの砂質土、砂、シルトの互層からなる。洪水堆積土であるため地点によって層位が異なり、径1～3cmほどの円礫を含む箇所も観察される。

VII層 縄文包含層である黒色土層、下層に含まれていたテフラから浅間六合軽石（As-Kn、約5,400年前噴出）が確認されている。

同じく黒色土層中から出土している炭化物の放射性炭素年代測定では4970年±60年前の値が計測されている。

VII層以下はにぶい黄色シルト土（土色帳2.5YR6/3）、黄灰色砂（土色帳2.5YR5/1）、灰色砂（土色帳5Y5/1）、褐灰色砂（10YR4/1）など水成堆積による土層が観察されている。

### 参考文献

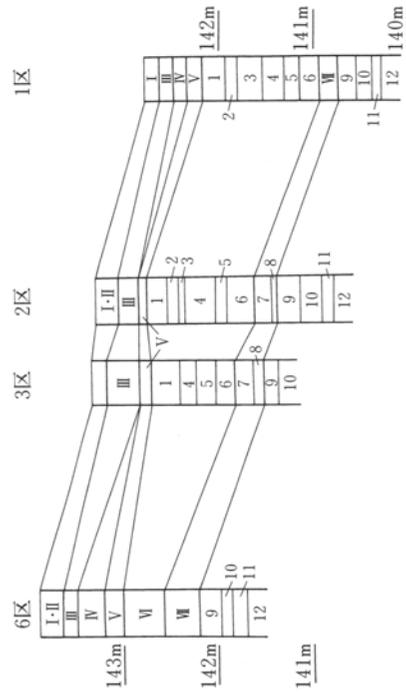
株式会社 古環境研究所「自然科学分析」『高井桃ノ木遺跡』大友町西通遺跡調査会 1999

株式会社 古環境研究所「自然科学分析」『高井桃ノ木Ⅱ遺跡』元景寺南線遺跡調査会 2003



1～6はⅥ層、7・8はⅣ層、9～11はⅢ層。細分化した層位は地点によって多少色調、含有物が異なる。

- 1 暗褐色土 (10YR3/4) やや砂質土、φ10mmの褐色軽石を含む 締まりあり。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) やや砂質土、φ20mmの礫とφ10mmの褐色軽石を含む。締まりあり。
- 3 暗褐色土 (10YR3/3) 4より礫多く、φ30mm、φ10mmの褐色軽石を含む。締まりあり。
- 4 暗オリーブ褐色土 (2.5Y3/3) 砂質土 (洪水堆積土)、φ10mmまでの礫を部分的に多くとφ10mmの褐色軽石を含む。締まりなし。
- 5 灰褐色土 (7.5Y4/2) シルト質、φ5mmの褐色軽石を若干とφ10mmの褐色軽石を含む。締まり、粘性あり。
- 6 灰黄褐色土 (10YR5/2) シルト、酸化鉄が多く沈着。締まり、粘性あり。
- 7 黒色土 (2.5Y2/1) Ⅶ層
- 8 黒褐色土 (10YR2/2) Ⅳ層-2 φ5mmまでの白色・褐色軽石 (As-kn) を含む。締まり、粘性あり。
- 9 オリーブ黒色土 (5Y3/2) シルト質、φ2mmの白色・褐色軽石 (As-kn) を含む。締まり、粘性あり。
- 10 黒色土 (10YR1.7/1) φ2mmの白色・褐色軽石 (As-kn) を含む。締まり、粘性あり。
- 11 黒褐色土 (2.5Y3/1) 砂質土、下部にφ15cm位の円礫を含む。よく締まり硬い。
- 12 褐灰色土 (10YR4/1) シルト質、灰色砂を10%含む。



5 遺跡地の土層柱状図

## III 遺跡地の周辺環境

### 1. 地理的環境

高井桃ノ木遺跡は群馬県前橋市総社町高井に所在する。遺跡は前橋市の西部に位置し、JR上越線群馬総社駅から西へ500mの所である。遺跡の所在する前橋市は群馬県南部のほぼ中央に位置し、その西よりには北から南へ縦断するように利根川が流れる。利根川左岸は赤城山南麓、右岸は榛名山東南麓から関東平野へ移行する地形が見られる。遺跡地はその榛名山東南麓に発達した相馬ヶ原扇状地の扇端から第四紀に形成された前橋台地までの移行地帯に立地する。

相馬ヶ原扇状地は榛名火山山麓に形成された裾野扇状地で形成に関わった河川は榛名火山体に源流を發する白川と午王頭川である。相馬ヶ原扇状地の範囲は明確ではないが次のような範囲が示されている。

扇頂は標高600m付近の白川と午王頭川で挟まれた榛東村上野原の山麓付近である。

扇端は標高110mの等高線。この付近は高崎市日高遺跡で見られるような微高地をはじめとする自然堤防状微高地が張り出しておりこの微高地を連ねたのが標高110m付近である。

扇側は南限が白川上流部から井野川のラインで井野川の右岸は白川扇状地である。北限は午王頭川から駒寄川のラインである。駒寄川の東側は前橋台地である。相馬ヶ原扇状地の形成は比較的短時間でほぼ終了し板鼻黄色軽石降下時(1.3~1.4万年前)にはすでに大部分が離水していたとされている。扇状地内は多くの河川により浸食され扇状地面と河床面では4~5mの比高差をもつ。こうした河川は約1km前後の間隔で存在しており、これらの河川には扇側にあたる井野川、午王頭川や八幡川、牛池川、染谷川がある。

5区調査区の埋没河川は榛名二ッ岳火山灰(Hr-FA)降下によって起きた土石流等で埋没している。洪水層は層の上面、及び下面から出土した遺物から奈良時代後半代から平安時代初期と推定される。このような状況が見られることから本来は扇状地内で見られるような浸食の進んだ河川が複数存在していたと推定される。

相馬ヶ原扇状地の形成後に扇状地からは前橋台地にかけて存在していた谷を洪水堆積物が埋戻し始めている。この洪水堆積物は概ね灰色砂層で「総社砂層」と呼ばれているものである。この砂層は板鼻黄色軽石と浅間C軽石との間で確認され、砂層の上位では縄文時代後期中期の称名寺式土器が出土している。こうしたことからこの砂層の形成は縄文早期頃から始まり前期から中期には部分的に自然堤防が形成されている。砂層の形成は、縄文前期から後期まで続いたとされている。

総社砂層の上位は基本土層で見られるように4世紀代の浅間C軽石(As-C)、6世紀初頭の榛名二ッ岳火山灰(Hr-FA)、6世紀前半代の榛名二ッ岳軽石(Hr-FP)、1108年(天仁元年)の浅間B軽石(As-B)などの火山噴出物が見られる。

遺跡地の北部の吉岡町地域では小規模な古墳に見える泥流丘が存在している。これらの泥流丘は「陣馬泥流丘」と呼称され相馬ヶ原扇状地の古期扇状地形成期の堆積物と考えられている。

#### 参考文献

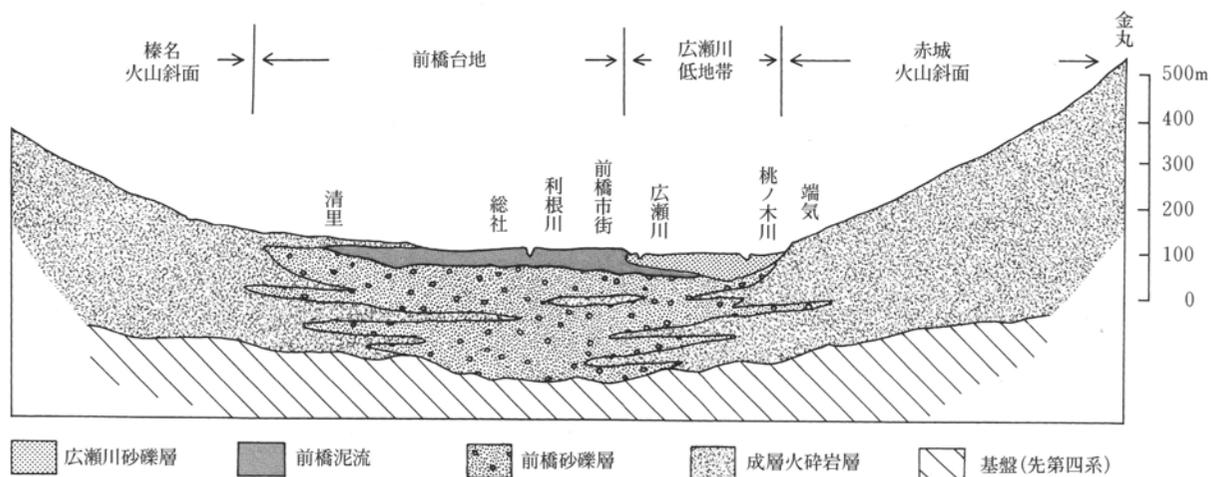
- 早田 勉「第1章 群馬県の自然と風土」『群馬県史 通史編1 原始古代1』群馬県史編さん委員会 1990  
 沢口 宏「第1章 地形・地質」『群馬町誌 資料編4 自然』群馬町誌編纂委員会 1995



- |  |            |  |            |
|--|------------|--|------------|
|  | 陣馬泥流丘      |  | 二ツ岳第二軽石堆積物 |
|  | 相馬ヶ原古期扇状地面 |  | 自然堤防および微高地 |
|  | 相馬ヶ原新扇状地面  |  | 後背低地       |

0 1:100000 5km

6 図 遺跡地周辺の地形図



7 図 遺跡地付近の地質図

## 2. 歴史的環境

高井桃ノ木遺跡周辺は、前橋市西部の工業地帯に所在しており、また近年開通した前橋伊香線パイパス沿線は一大商業地域として県内でも発展が著しい地域である。こうした地域であることから周辺では多くの発掘調査が行われ地域史の解明の一翼を担っている。本項では各遺跡での発掘調査成果を基に各時代ごとに概観することとする。

### 縄文時代

この地域は前項「地理的環境」で記載したように縄文時代前期まで度重なる洪水により冠水、離水が繰り返されており居住空間としては不向きな地域であった。そうした中で前橋市熊野谷遺跡では包含層中から早期押型文系土器、沈線文系土器の三戸・田戸上層式土器、条痕文系土器が出土しており注目される。しかし、熊野谷遺跡では早期の遺構が検出されていない。また、早期の土器は熊野谷遺跡以外での出土が確認されていないことから今後の熊野谷遺跡周辺での調査によってより詳細な状況説明が期待される。前期以降になると吉岡町沼南遺跡、高崎市（旧群馬町）上野国分僧寺・尼寺中間地域で諸磯式期の土坑がみついている。さらに中期になると遺跡数も増加し、沼南遺跡で中期中葉の環状集落、吉岡町長久保大畑遺跡で中期後半の配石遺構がみついている。また、この他にも吉岡町清里長久保遺跡では住居がみついている。後期ではまた遺跡が減少し、吉岡町大下遺跡で土坑がみついている程度である。そして晩期は遺構・遺物をほとんどみることとはできない。

### 弥生時代

この地域の弥生時代遺跡は井野川、染谷川流域に比べると少なく規模も小規模である。

中期では後半の竜見町式期の環状集落が吉岡町清里・庚申塚遺跡でみついている。後期では吉岡町新田入口遺跡や前橋市下東西遺跡や桜ヶ丘遺跡で竪穴住居や集落がみついているが、その規模は小規模なものである。

### 古墳時代

この地域では古墳群や多くの古墳の存在が知られているが、前期の古墳については確認されていない。中期から終末期にかけては県内でも有数の古墳群である前橋市総社古墳群が存在する。総社古墳群は5世紀後半に構築された遠見山古墳に始まり王山古墳、二子山古墳、愛宕山古墳、宝塔山古墳、蛇穴山古墳など大型の前方後円墳や方墳が存在し、5世紀から7世紀にかけての上毛野地域とヤマト政権の関係を知る上でも重要な古墳群である。

この他、遺跡地の北側では、吉岡町清里・長久保古墳群や吉岡町南下古墳群など終末期の古墳群が存在する。清里長久保遺跡では陣馬泥流丘を利用した6世紀～7世紀にかけての小規模な円墳が12基ほどみついている。こうした小規模な古墳群が存在する中で吉岡町三津屋古墳は八角形といった特殊な墳丘をもち、この古墳の被葬者とヤマト政権との関わりが注目されている。

集落では前期のものが国分寺上野国分僧寺・尼寺中間地域や前橋市元総社西川遺跡、前橋市稲荷塚道東遺跡、長久保大畑遺跡でみついているが、規模は弥生時代と同様に小規模な集落である。中期～後期では前橋市大屋敷遺跡、稲荷塚道東遺跡、下東西遺跡、高崎市（旧群馬町）国分境遺跡、長久保大畑遺跡、吉岡町金竹西遺跡、吉岡町熊野遺跡、吉岡町辺玉遺跡でみついている。集落規模も古墳群の様相と同様に拡大傾向がみられる。特に総社古墳群の北、山王廃寺の東に位置する大屋敷遺跡は古墳時代中期から平安時代にかけて継続的に集落が営まれ大型器台や台付長頸壺、円面硯などが出土しており古墳群造築や寺院建立、運営に関わった集落とみられる。しかし、現在までにみついている集落の状況は高崎市（旧群馬町）三ッ寺I遺跡や高崎市（旧群馬町）保渡田古墳群周辺でみついている集落様相から比較するとその規模、範囲は小規模な状態であり、総社古墳群造築や山王廃寺建立に至る経済的基

盤の把握解明がこの地域の課題でもある。

### 飛鳥・奈良・平安時代

遺跡地が存在する地域は古代律令期当初には上毛野国車評、後の上野国群馬郡に区分されていたと想定される。古代群馬郡には「和名類聚抄」によると長野、井出、小野、八木、上郊、畔切、鳥名、群馬、桃井、有馬、利刈、駅家、白衣などの郷が存在していたことが知られているが、このなかのどの里・郷に相当するかは現存する地名から推察することは困難である。古代群馬郡と推定される地域での地名による消去法や現存する古墳群や集落遺跡や推定国府跡、上野国分僧寺・尼寺などの存在から推察すると車評・群馬郡を代表する車里・群馬郷ではないかと推定される。

この地域には総社古墳群に代表されるように古代上毛野国有数の豪族が存在していたことが明らかである。この豪族は7世紀後半には伽藍配置をもった寺院を建立している。これが出土文字瓦などから高崎市山の上古墳脇の山の上碑にみられる「放光寺」と想定される前橋市山王廃寺である。山王廃寺は法起寺式伽藍配置をもち、石製鴟尾、根巻き石、塑像をはじめ多くの仏具などが出土している。また、寺院以前には掘立柱建物群が存在しており、豪族居宅、評衙ではないかと想定されている。このように総社周辺は上毛野国でも有力な豪族の拠点であったことから上野国府や上野国分寺、尼寺が設置されている。山王廃寺や国分僧寺・尼寺周辺には寺院を支えるための集落として国分境遺跡、上野国分僧寺・尼寺中間地域などの集落遺跡が形成されている。これらの集落は7世紀後半や8世紀代に形成され、大規模な集落を構成されていたことがわかっている。

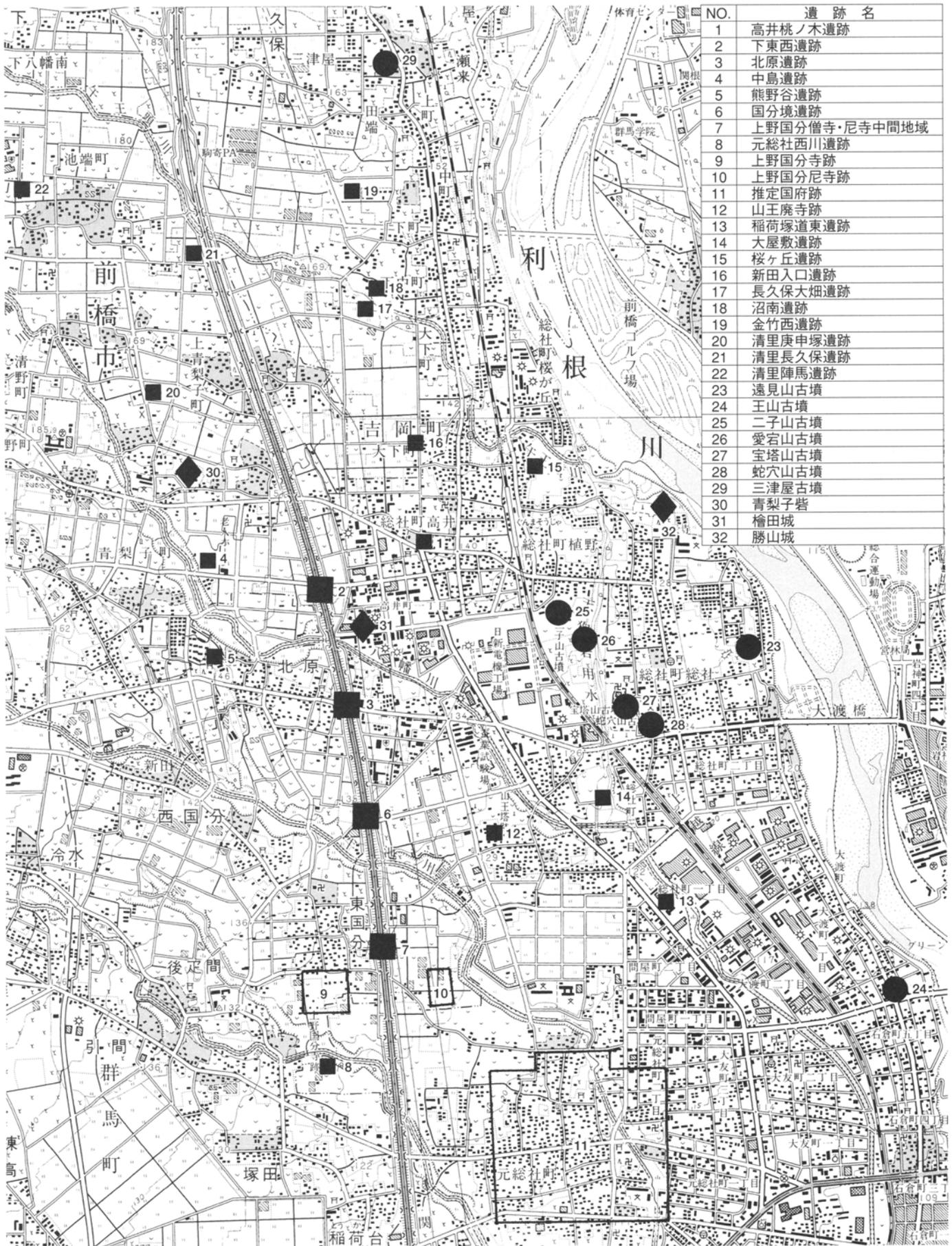
高井桃ノ木遺跡は総社古墳群の西部、山王廃寺の北側に位置しており、その地理的な条件から総社古墳群に被葬された豪族の支配下にあったとみられる。この地域では高井桃ノ木遺跡のような庶民的集落だけでなく、下東西遺跡で見つかっている掘立柱建物群が溝、柵で区画された施設や前橋市中島遺跡のように奈良三彩、円面硯、風字硯などを出土する

遺跡が存在することから豪族配下の首長層、富豪層の存在も知られている。

平安時代以降もこの地域は継続的に集落が営まれ多くの竪穴住居群の存在が確認されている。こうしたなかでも吉岡町清里・陣馬遺跡では大量の緑釉陶器、灰釉陶器と錠前の出土から『類聚三代格』にみられる「僞馬の党」による流通拠点の一つではないかとみられる。また、清里長久保遺跡で見つかった土壙墓はその掘り方形状から木棺による埋葬と緑釉陶器などの副葬品から平安京内で検出された貴族階層の土壙墓や長野県塩尻市吉田川西遺跡で検出された富豪層の土壙墓の状況と類似していることからこの土壙墓も「富豪の輩」に関わるものと推定される。こうした清里陣馬遺跡や清里長久保遺跡の状況から律令期当初は荒廃地であったこの地域に後の開発行為などによって新たな勢力の誕生したことが窺われる。

### 中世・近世

中世当初では13世紀・14世紀の遺物は下東西遺跡をはじめ多くの遺跡から出土しているが、明確な遺構は溝や土坑など限られたものしか存在しておらず、居住施設や城館などの施設はみられない。この地域で城館などの施設をみることができるのは16世紀以降、戦国時代になってからである。16世紀代では国府跡に上野国守護代長尾氏の居城である蒼海城が存在する他、高井桃ノ木遺跡の西側には青梨子の砦、南の八幡川縁に檜田城、東側の利根川縁には勝山城が存在している。また、城館以外では八幡川左岸に「東覚寺」という寺院が存在していたことが知られている。この寺院の梵鐘が長野県佐久郡白田町上宮寺に現存しており、梵鐘の銘に暦応元年の記念銘が鑄造されていることから古代から中世にかけてのこの地域の様相が窺える。



8 図 周辺遺跡図 (S = 1/25,000)

## IV 検出遺構と出土遺物

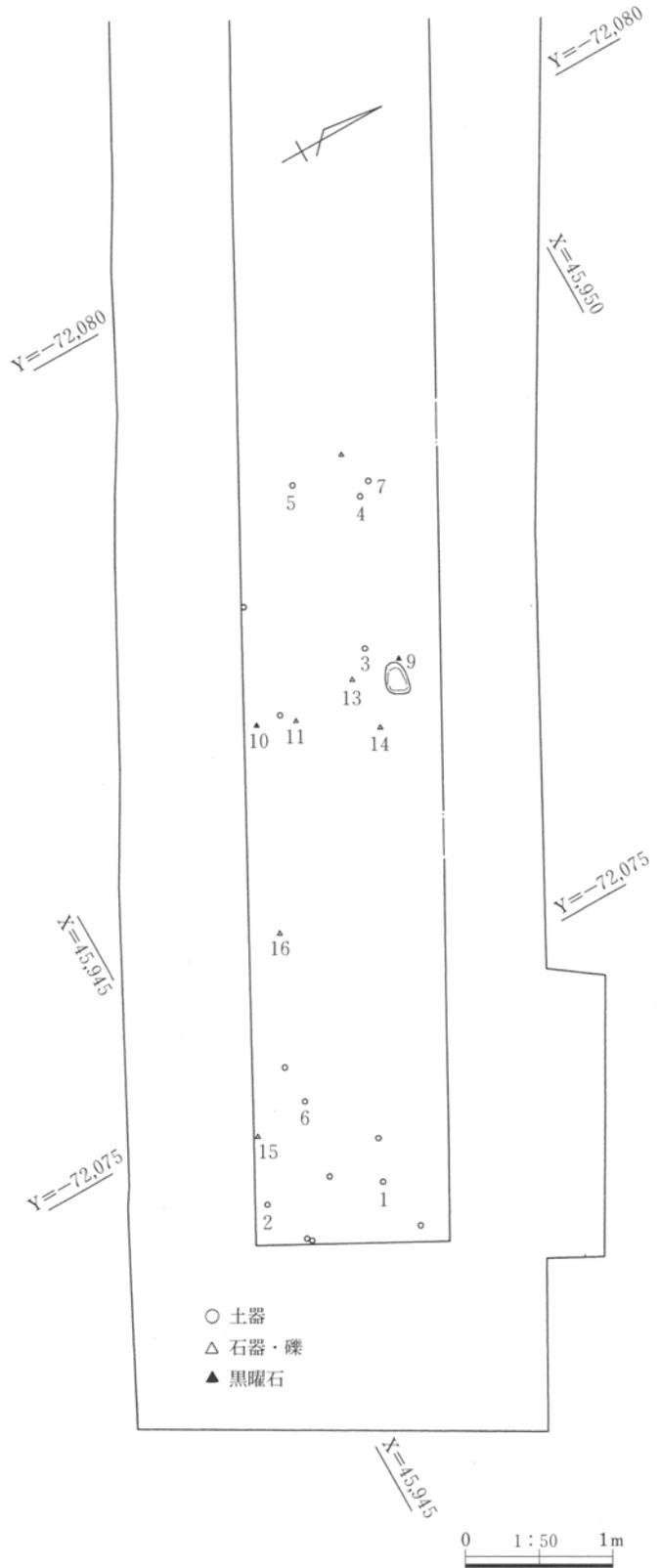
### 1. 縄文時代

#### 包含層

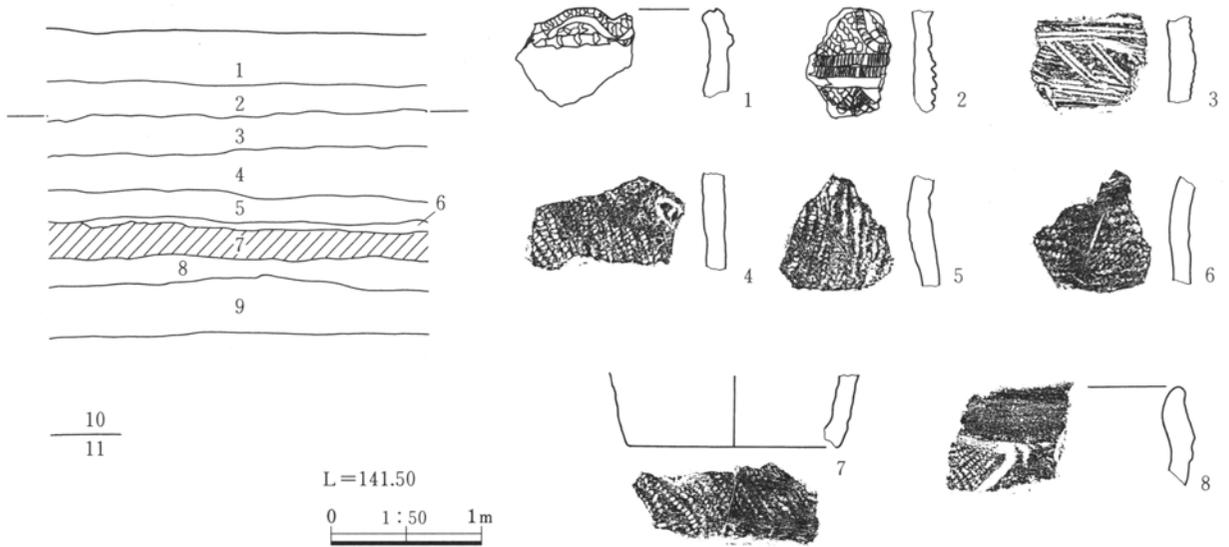
遺跡地はII-3に記述したように基本的な層序古墳時代以降の遺構確認面であるIV層下の洪水堆積土層下130cmほどで黒色土が確認された。この黒色土はこの地域で広範囲に確認されており、「高井桃ノ木遺跡」、「高井桃ノ木II遺跡」では縄文時代の遺物が出土している。縄文時代の遺物が出土する範囲は「高井桃ノ木II遺跡」によると今回の発掘調査での1区東30mほどが西側の限界と指摘されているが、古墳時代以降の調査終了後にIV層下に試掘調査を行ったところ1区東端、Y=72,079以東の洪水堆積土層下で確認された黒色土層中より縄文時代の土器、石器の出土が確認された。このため、地山掘削での安全を配慮しつつ可能な範囲で調査を行った。

その結果、黒褐色土上部より縄文時代前期後葉から中期にかけての土器片と石核、剥片、礫などが出土した。そのため、黒褐色土層中から出土する遺物の記録をとりながら遺構の検出に努めたが遺構の存在は確認されなかった。この状況は「高井桃ノ木遺跡」、「高井桃ノ木II遺跡」と同様であり、周辺地形からみると遺跡地の北西側微高地に集落などの遺構が存在することが想定され、その集落で使用されていた土器、石器が周辺に廃棄されたものが出土したものである。

この他、縄文時代の遺物は、1区1号住居や6区1号住居、5区河道などの遺構からも出土している。これらの遺構は洪水堆積土層より上層の遺構であり、こうした遺構から縄文時代の遺物が出土していることはこの洪水の起源が縄文時代の中で終了していることが想定される。しかし、こうした遺構からは土器の出土が確認されなかったことからより詳細な時期を把握することはできなかった。



9 図 縄文時代調査区及び遺物出土状態図



1区縄文包含層

- 1 オリーブ褐色土(2.5Y4/3) 砂質土、 $\phi$  3～5mmの亜角礫を5%含む。
- 2 黄褐色土(2.5Y5/4) 砂質土、 $\phi$  3～5mmの亜角礫を3%含む。
- 3 黄褐色土(2.5Y5/3) 砂質土、1に類似、1より亜角礫を多く含む。
- 4 暗灰黄褐色砂(2.5Y5/2)  $\phi$  2～3mmの亜角礫を3%含む。
- 5 暗灰黄褐色砂(2.5Y5/2) 4と同様であるが、 $\phi$  2～5mmの灰色砂礫を10%含む。
- 6 灰黄褐色シルト土(2.5Y6/2) 黄白色軽石を1～2%含む。
- 7 黒褐色土(2.5Y3/2) 黄白色軽石を5%含む。(遺物包含層)
- 8 にぶい黄色シルト土(2.5Y6/3) 黄白色軽石を1～2%含む。
- 9 黄灰色土(2.5Y4/1) 7に類似、7より淡い色調。微細な白色粒を1%含む。
- 10 黄灰色砂(2.5Y5/1)  $\phi$  3～5cmの円礫を3%含む。
- 11 灰色砂(5Y5/1)  $\phi$  3～5cmの円礫を5%含む。

10図 縄文時代調査区土層断面図、遺物図

包含層

No PL	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1 21	縄文土器 深鉢	1区包含層 口縁部小片		細砂粒/良好/ にぶい赤褐	口縁部は波状を呈し、口唇部は爪形文が施した粘土紐が貼付。胴部は縄文を施文。	十三善提式
2 21	縄文土器 深鉢	1区包含層 胴部小片		細砂粒/良好/褐	縄文を施文後、爪形文を施文した粘土紐を貼付。	十三善提式
3 21	縄文土器 深鉢	1区包含層 胴部小片		細砂粒/良好/ 黒褐	印刻文が施文。	五領ケ台式
4 21	縄文土器 深鉢	1区包含層 胴部小片		細砂粒/良好/ にぶい赤褐	R L縄文が施文。	
5 21	縄文土器 深鉢	1区包含層 胴部小片		細砂粒/良好/ にぶい赤褐	R L縄文が施文。	
6 21	縄文土器 深鉢	1区包含層 胴部小片		細砂粒/良好/ にぶい赤褐	R L縄文が施文。	
7 21	縄文土器 深鉢	1区包含層 底部片		細砂粒/良好/ にぶい赤褐	R L縄文が施文。	
8 21	縄文土器 深鉢	6区包含層 口縁部片		細砂粒/良好/ にぶい赤褐	口縁部を凹線で楕円状に区画。区画内に羽状縄文施文。	加曾利EⅢ式
9 21	石器 石核	1区包含層	長 2.8 幅 2.2 厚 2.1 重 12.6	石材/黒曜石		
10 21	石器 石核	1区包含層	長 3.1 幅 2.1 厚 1.5 重 9.6	石材/黒曜石		
11 21	石器 石核	1区包含層	長 6.4 幅 3.8 厚 2.8 重 69.0	石材/黒色頁岩		
12 21	石器 剥片	1区包含層	長 8.1 幅 4.9 厚 1.0 重 25.8	石材/黒色頁岩		
13 22	石器 剥片	1区包含層	長 4.6 幅 2.4 厚 1.6 重 13.5	石材/黒色頁岩		
14 22	石器 剥片	1区包含層	長 4.1 幅 2.3 厚 1.0 重 11.9	石材/黒色頁岩		
15 22	石器 剥片	1区包含層	長 4.6 幅 1.9 厚 1.0 重 6.3	石材/黒色安山岩		
16 22	石器 剥片	1区包含層	長 3.1 幅 1.0 厚 0.7 重 2.0	石材/黒色頁岩		

## 2. 奈良・平安時代

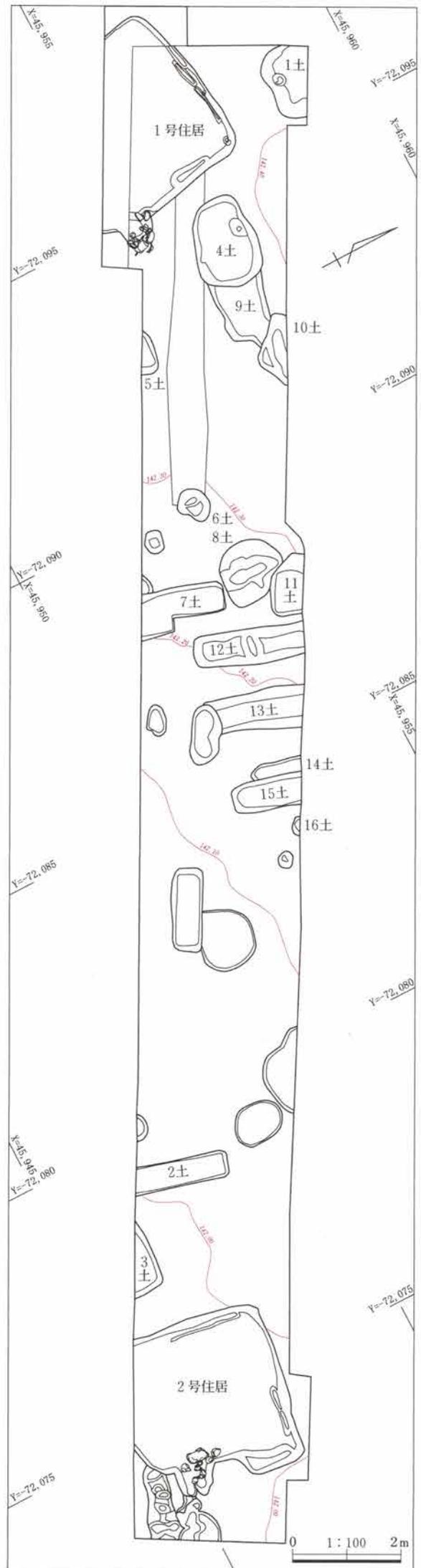
遺構の検出は、Ⅳ層上面で行ったが、この面では同時に中世以降、古墳時代の遺構の検出も行った。中世以降の遺構についてはこの地域ではAs-BやⅢ層の残存状態が良好であればAs-B層やⅢ層上面での検出が可能であるが、Ⅲ層も農耕による攪拌や建物建設時の造成などによって残存しない箇所がみられたためⅣ層上面で検出を行った。そのため、遺構の存続時期については出土遺物や埋没土の状態によって判断した。

奈良平安時代の遺構は、検出した遺構には竪穴住居、土坑、溝等の遺構と河道を検出した。

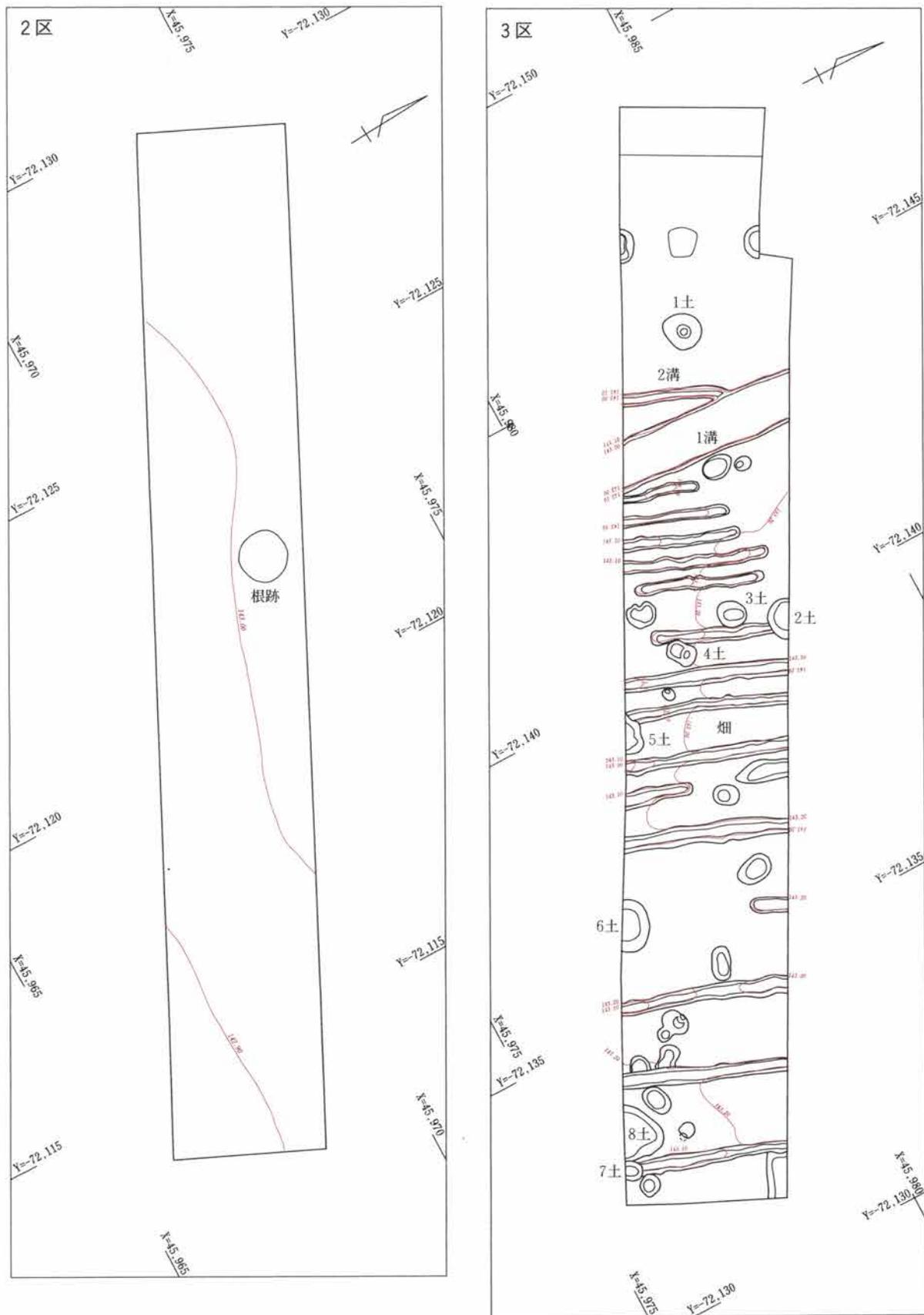
竪穴住居は1区、6区、7区と6区～7区間の各調査区から各2軒ずつの計8軒を検出した。検出した竪穴住居は調査範囲の中で全体を調査可能なものは存在しなかった。また、カマドを調査できたものも4軒と半数にとどまった。こうした良好とは言えない調査環境のなかにあっても出土遺物は比較的多く、住居の存続年代等を比定することは可能であった。調査した竪穴住居は8世紀初頭～10世紀前半にかけてのもので隣接する高井桃ノ木遺跡と同様の年代で同一の集落を形成していたとみられる。

土坑は1区で6基、4区で1基、6区で16基、7区で7基の計30基を検出した。土坑は平面形態が楕円形で規模も径1m前後、深度20～30cmのものが大部分でその性格について判断可能なものは存在しなかった。しかし、出土した遺物は比較的多く特に6区の土坑からは8世紀第1四半期に比定される土器類が多く出土した。また、4区1号土坑では土坑底面に20cm大の円礫が敷き詰められていたが、上部を造成によって失っているため詳細については不明であった。

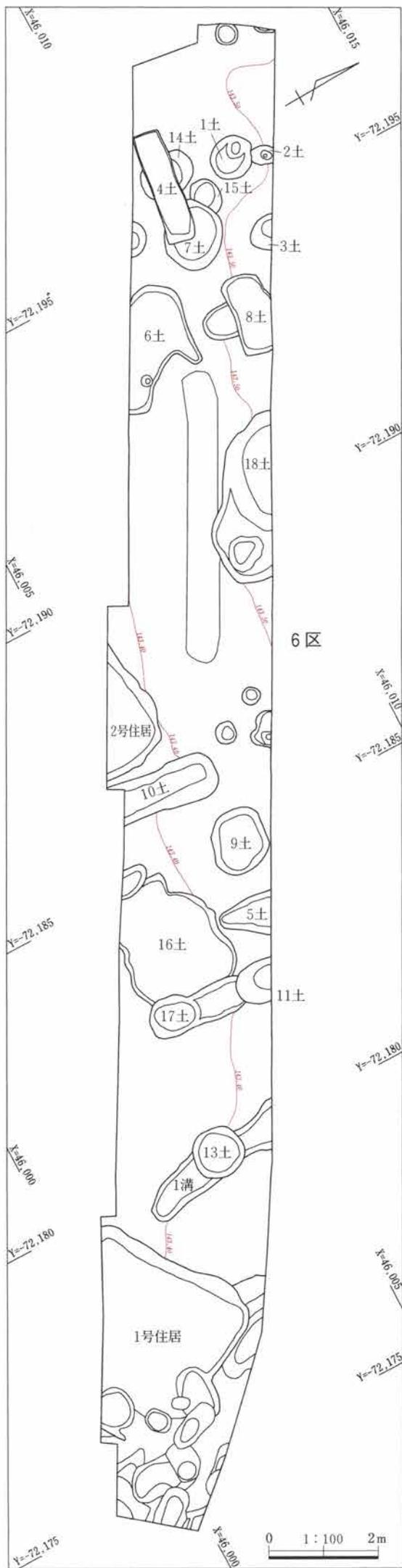
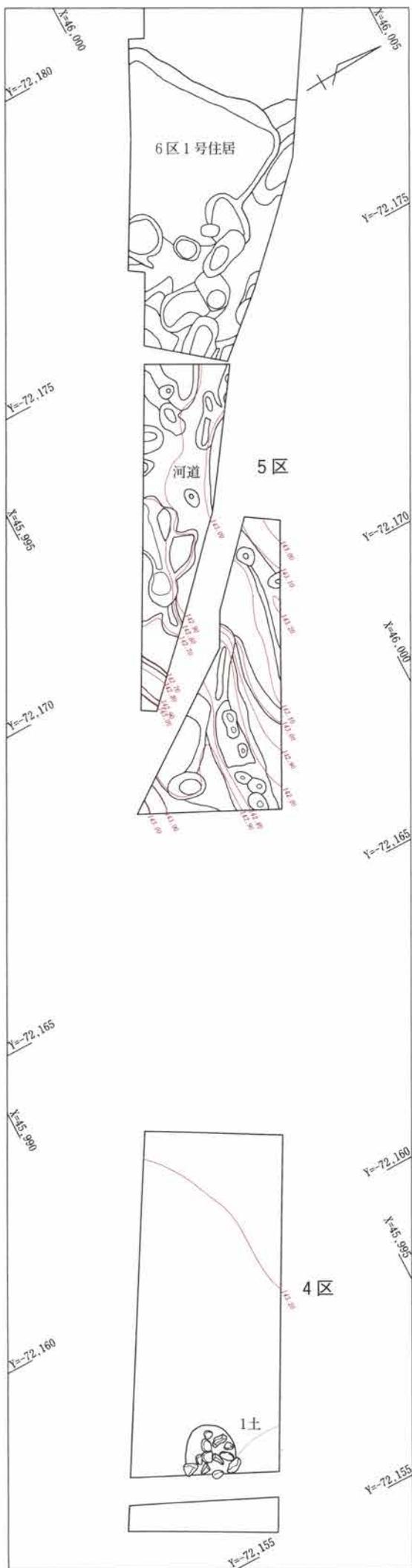
河道は5区調査区から6区調査区の東端で検出したが、6区1号住居の東側を壊し、河道底部から出土している遺物などから11世紀代の一時的な氾濫によると想定した。



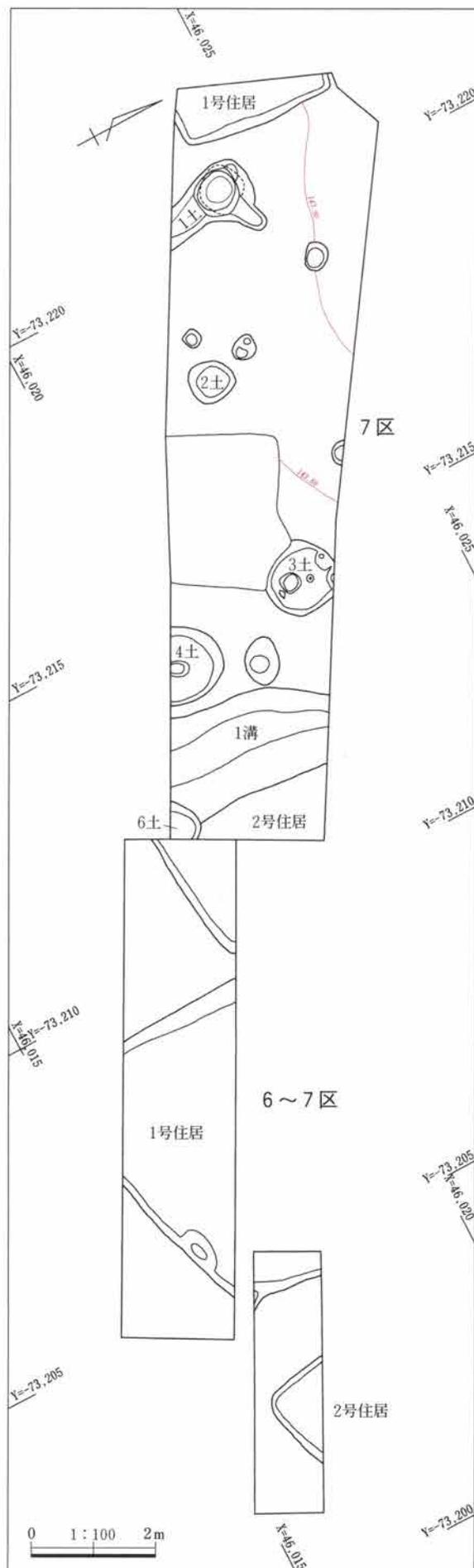
11図 1区調査区遺構全体図



12図 2区、3区調査区遺構全体図



13図 4区、5区、6区調査区遺構全体図



14図 7区、6区～7区調査区遺構全体図

## 竪穴住居

### 1区1号住居

1区調査区西端、 $X = 45,944 \sim 45,947$ 、 $Y = -72,073 \sim 72,077$ に位置する。発掘調査では遺構北東部の1/4程度しか調査できなかったが、工事立ち会い時に北西角を検出した。他遺構との重複関係は近代の土坑と重複するが本住居の方が古い。本住居は遺構全体を調査していないため詳細について不明な点が多いが、平面形態は方形ないしは長方形を呈する。規模は長軸 $3.10m + \alpha$ 、短軸 $3.14m$ 、北辺 $3.17m$ 、東辺は調査範囲内で $3.18m$ を測る。壁高は確認面から $20 \sim 24cm$ である。主軸方位は $N - 80^\circ - E$ を指す。

内部施設は周溝が北辺壁際、東辺壁際の一部で確認された。周溝の規模は幅 $10 \sim 15cm$ 、深度 $5cm$ 前後である。周溝の他、貯蔵穴、柱穴は確認されなかった。

床面は掘り方から $2 \sim 10cm$ ほどⅢ層、Ⅳ層を混合した土を入れて踏み固めて硬化面を構築している。

カマドは東辺に構築されている。東辺での位置は1区2号住居や周辺遺跡での同時期の住居などから中央より南寄りとみられる。残存状況は比較的良好な状態であった。規模は全長 $78cm$ 、両袖幅 $50cm + \alpha$ で燃烧部は壁外に $56cm$ 延びる。左袖は補強に礫(粗粒輝石安山岩 $25 \times 8 \times 7cm$ 、ホルンフェルス $22 \times 20 \times 7cm$ )を使用しており残存状態も良好であった。また、燃烧部奥壁にも $10 \sim 20cm$ の粗粒輝石安山岩や石英閃緑岩などを使用して補強するとともに煙道部にかけては土師器甕を使用している。

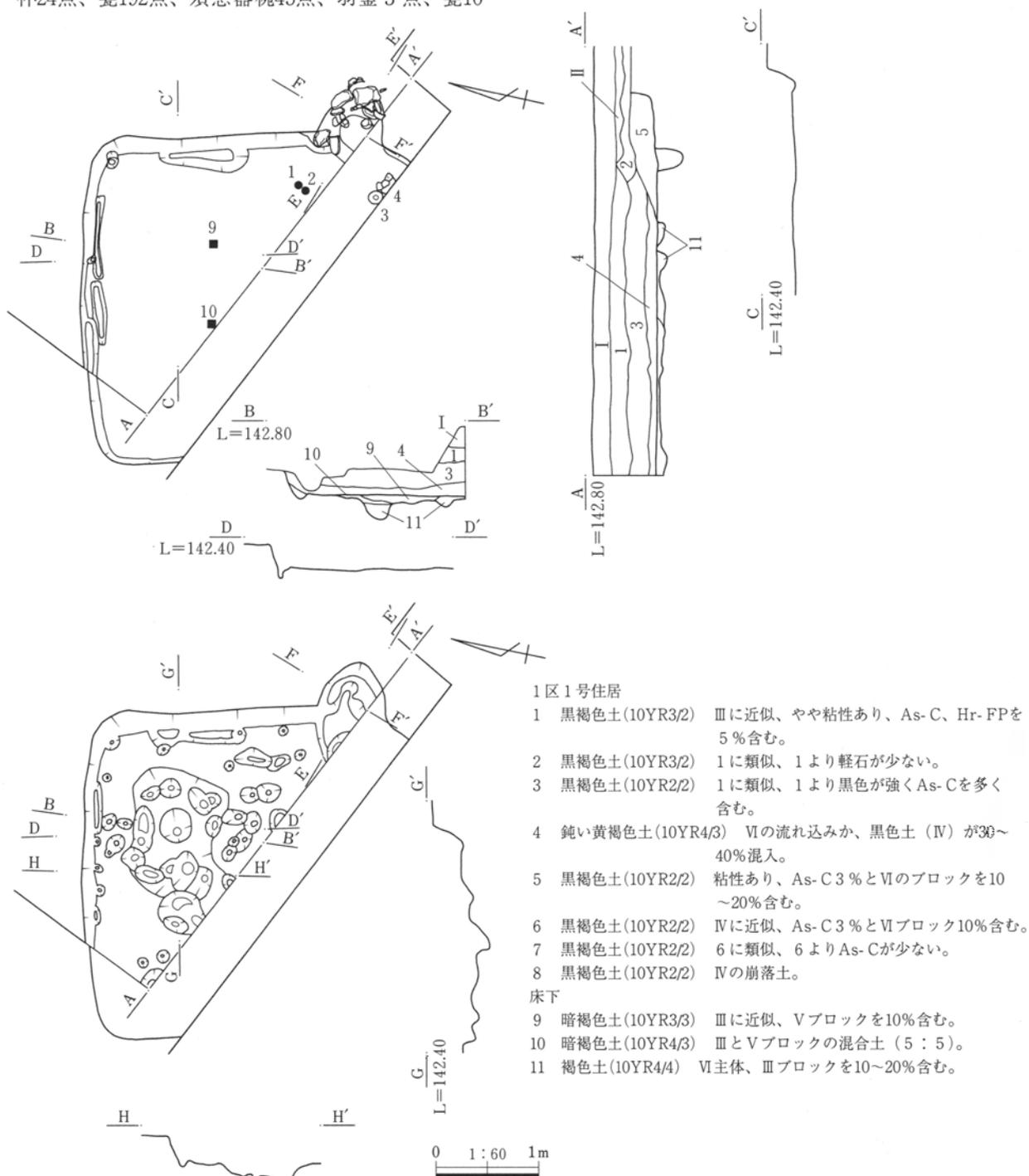
掘り方は一部 $25cm$ ほど掘り込まれている箇所もみられるが全体的には $5 \sim 10cm$ ほどの掘り込みで中央部ほど掘削痕とみられる小孔が多くみられた。調査範囲内では床下土坑などの施設は確認されなかった。

埋没状態は土層観察で住居周辺から土砂が流入しレンズ状の堆積が観察されたことから自然埋没であるとみられる。

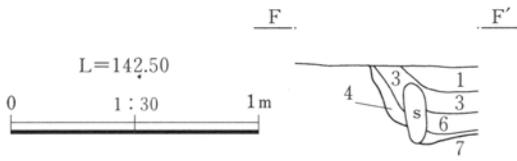
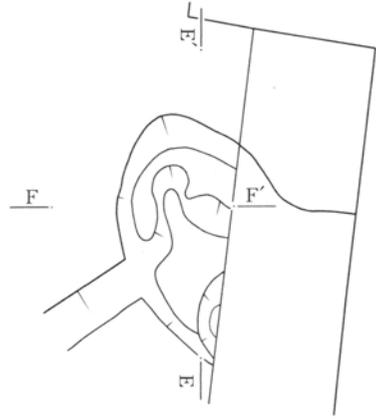
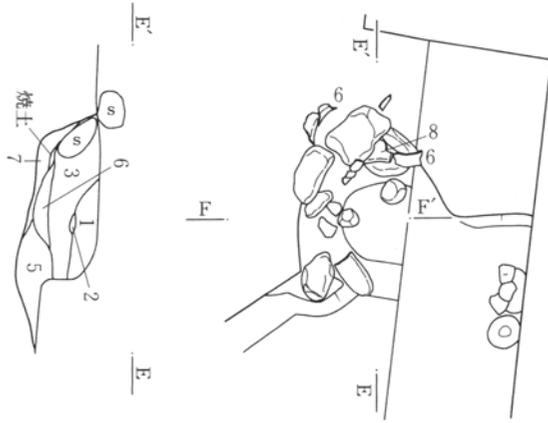
出土遺物はカマド周辺の床面から比較的残存状態の良好な土器類が出土している。カマド前部からは1の須恵器杯蓋、2の須恵器椀、カマド右側前部からは3・4の須恵器椀がほぼ完形の状態で出土した。また、中央床面からは10の鎌、9の刀子が出土している。なお、図示できなかった遺物には土師器杯24点、甕192点、須恵器椀45点、羽釜3点、甕10

点などが埋没土中から出土している。

本住居の存続時期は1の須恵器蓋のように8世紀中葉代の遺物や図示できなかった遺物には須恵器羽釜のように10世紀代の遺物などが出土しているが、床面から出土した2～4の須恵器椀から9世紀第四半期に比定される。



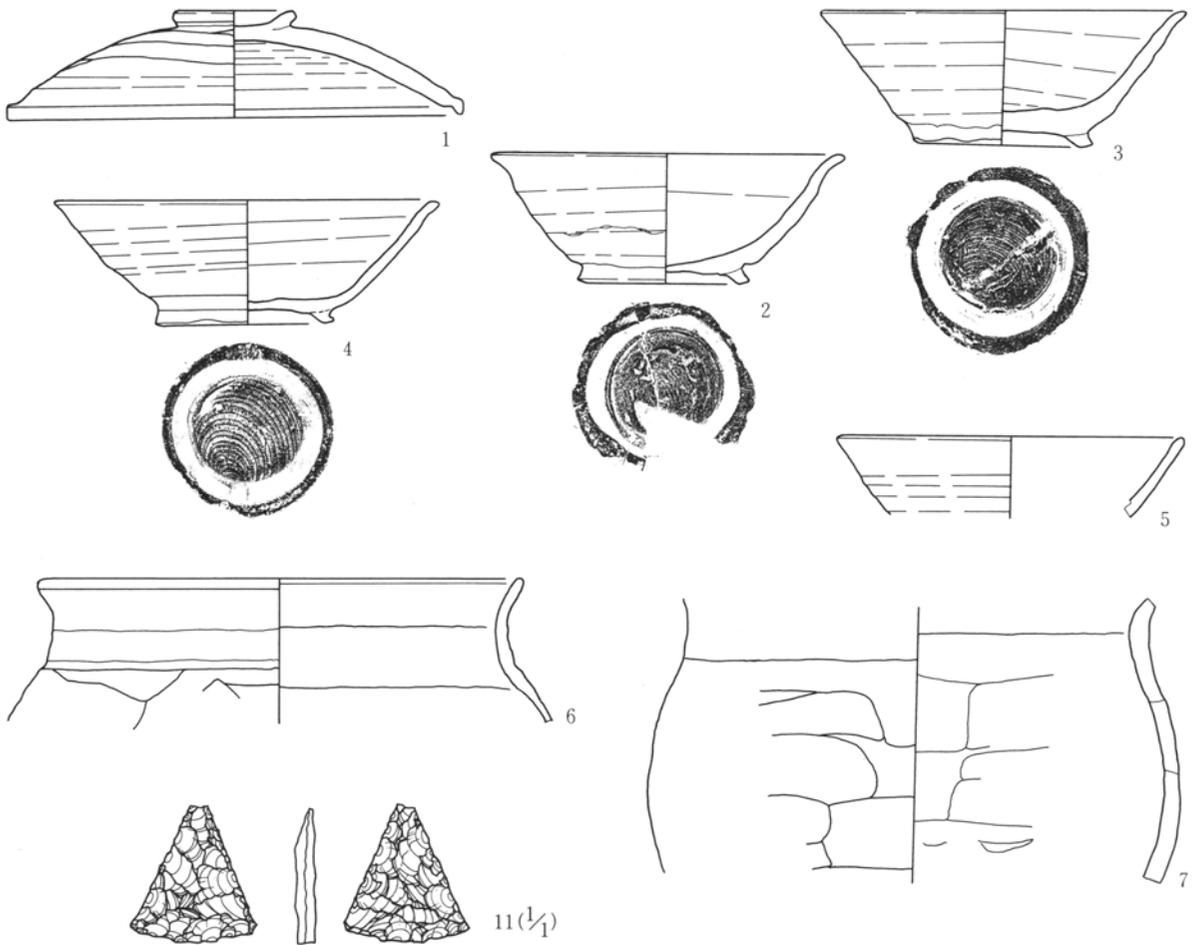
15図 1区1号住居遺構図(1)



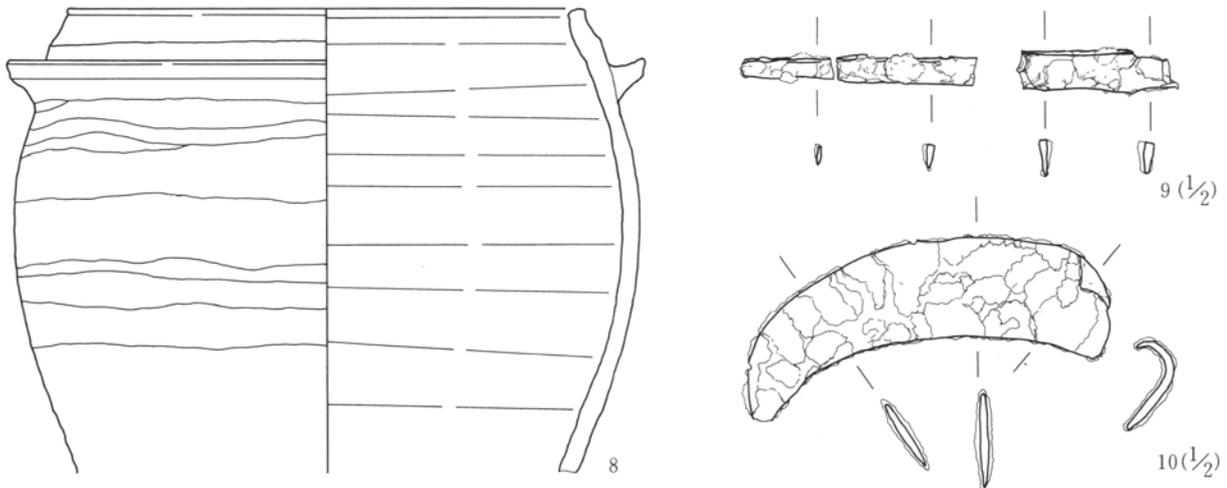
1区1号住居カマド

- 1 暗褐色土(10YR3/3) IIIに類似、As-Cを3%と焼土粒を5%含む。
- 2 明黄褐色土(2.5Y6/6) 砂質土、VIに近似。
- 3 黒褐色土(10YR2/2) As-Cを3%と焼土粒を1~2%含む。
- 4 黒褐色土(10YR3/2) VIブロックを5%と焼土粒を5~7%含む。
- 5 黒褐色土(10YR3/1) As-Cを1%と灰を含む。
- 6 暗褐色土(10YR3/3) 褐灰色粘土ブロックを20%含む。
- 7 暗褐色土(10YR3/3) As-Cを3%とVブロックを10%含む。

16図 1区1号住居遺構図(2)



17図 1区1号住居遺物図(1)



18図 1区1号住居遺物図(2)

1区1号住居

No PL	種類器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1 23	須恵器 杯蓋	+15 1/2	口 17.8 摘 4.6 高 4.2	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付。天井部中央は回転ヘラ削り。端部は折り曲げ。	
2 23	須恵器 椀	+ 4 4/5	口 13.6 底 6.0 高 5.1	粗砂粒/酸化焰/ にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。口縁部中位に輪積み痕、底部は回転糸切り。高台は貼付。	
3 23	須恵器 椀	床直 完形	口 14.2 底 7.0 高 5.5	粗砂粒/還元焰 ぎみ/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。高台は貼付。	口縁上位墨書、 判読不能。
4 23	須恵器 椀	床直 ほぼ完形	口 14.8 底 7.1 高 5.0	粗砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。高台は貼付。	
5	須恵器 椀	埋没土中 口縁部片	口 13.6	細砂粒/還元焰 ぎみ/にぶい黄褐	ロクロ整形、回転右回りか。外面に煤が付着。	
6 23	土師器 甕	カマド 口~胴上位	口 19.0	細砂粒/良好/ 明赤褐	口縁部・頸部横ナデ、胴部上位は横方向ヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
7	土師器 甕	埋没土中 頸~胴中位	胴 21.0	粗砂粒/良好/ 明赤褐	頸部に輪積み痕が残る。頸部は横ナデ、胴部は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
8 23	須恵器 羽釜	カマド 口~胴中位	胴 20.4 鏝 25.2	細砂粒/酸化焰/ 灰黄褐	ロクロ整形、回転右回りか。鏝は貼付、胴部は回転ヘラナデ。	
9 23	鉄器 刀子	+15 1/2			断面で鍛造を観察。残存は部分的であるが同一個体。	
10 23	鉄器 鎌	床直 ほぼ完形	長 9.5 幅 2.7 厚 0.4 重 20.4		柄に装着部分は折り曲げ。	
11 24	石器 鎌	埋没土中 端部欠損	長 1.8 幅 1.6 厚 0.2 重 0.76	石材/黒曜石		混入品

1区2号住居

1区東端、X = 45,944 ~ 45,947、Y = -72,073 ~ 72,076に位置する。調査した範囲は南西角付近を欠くが、全貌を把握できるものであった。他遺構との重複関係は南東角からカマド右袖付近に近代の掘削痕が確認されただけで単独での占地であった。

平面形態は南東角が118°と鈍角をなし、東辺北半に棚状の突出部を有する鉤の手状を呈する。規模は長軸が突出部で3.13m、カマド脇で2.71m、短軸で3.10m + α、北辺2.76m、西辺2.40m + α、東辺2.60mを測る。なお、突出部は南北方向1.13m、東西方

向0.42mである。壁高は突出部以外で30~38cmである。主軸方位はN-96°-Eを指す。

内部施設は突出部の棚状施設と周溝が一部壁際で確認された。棚状施設は北辺北半で床面より10cmほど高い状態であった。形状は北東角寄りが鋭角になる細長い三角形を呈するが、北側が崩壊した様子が窺えることから本来は矩形を呈すると想定される。規模は全長78cm、幅30cmである。棚面では地山よりやや硬化した程度で明確な硬化面ではなかった。また、この棚状南東隅からは1の須恵器椀、北東隅からは29の砥石として使用された粗粒輝石安山

岩が出土している。周溝は北辺の東半、西辺の北半で確認された。規模は幅が15cm 前後、深度が北辺側が8~10cm、西辺側が1~2cm である。貯蔵穴、柱穴などは確認されなかった。

床面は北辺と西辺際の10~15cm ほど内側に掘り方から2~10cm ほどⅢ層、Ⅳ層を混合した土を入れて踏み固めて硬化面を構築している。

カマドは東辺の南よりに構築されている。残存状態は比較的良好であるが右袖側上部を近代の掘削により欠落しているとともに天井部から袖部は住居廃絶期に壊されたとみられ天井部の補強に使用されていた未固結凝灰岩製の切石(PL27-31)がカマド前部の床面から崩落した状態で出土している。規模は燃烧部から煙道部長が約80cm、両袖幅が73cm で煙道部は壁外に60cm ほど延びる。また、燃烧部上部から

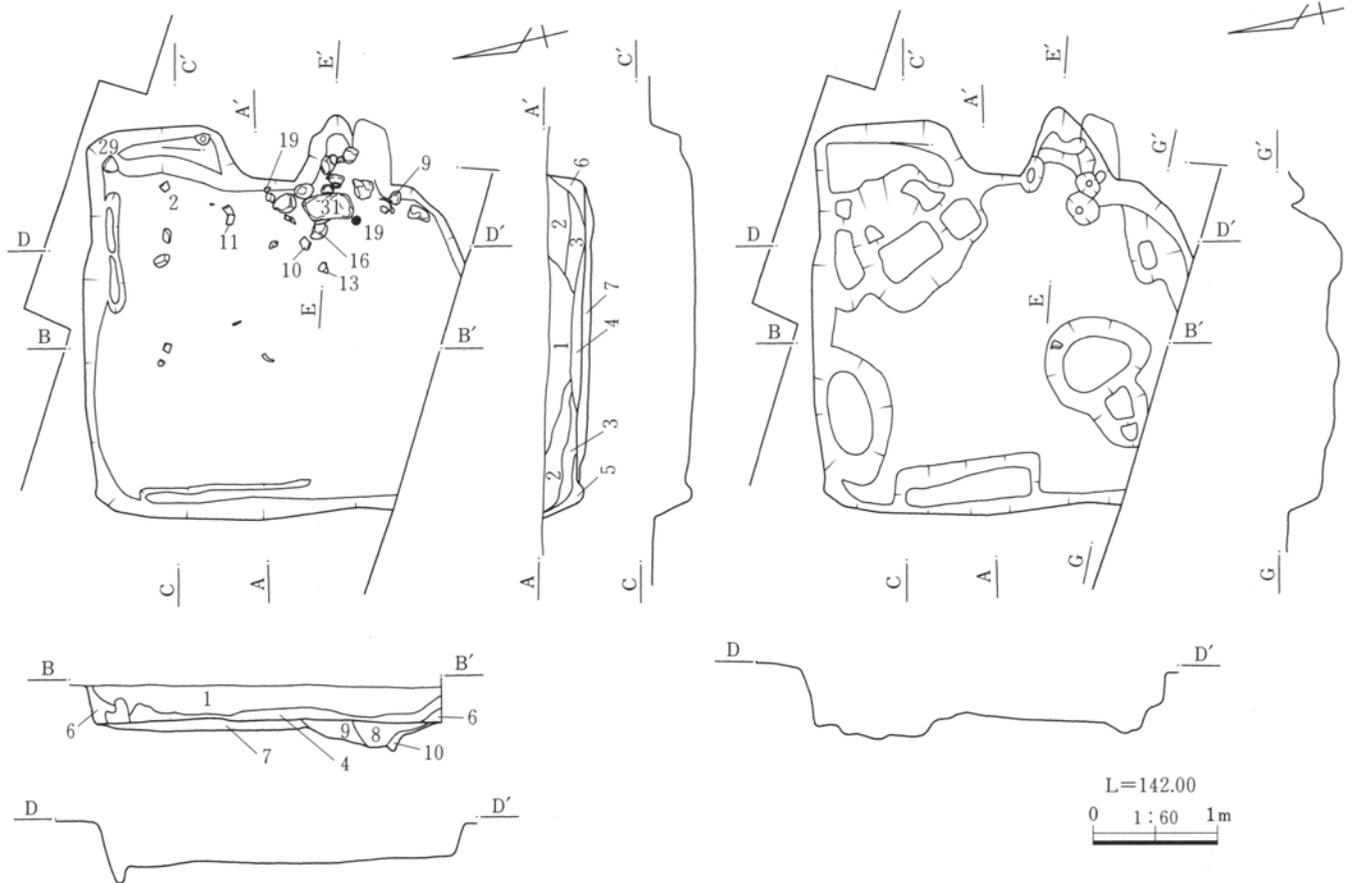
は12の須恵器椀、右袖脇からは土師器甕が出土している。

掘り方は中央部は比較的平坦であるが、各角付近で径1m 前後、深度15~25cm ほどの床下土坑が確認されたが、埋め土の状態や出土遺物などから特段の施設とはみられなかった。

埋没状態は土層観察で当初東西方向から多くの土砂が流入した後中央部を埋めた状況が観察されたが、流入の状況などから自然埋没であるとみられる。

出土遺物はカマド周辺部から多くの出土がみられた。なお、図示できなかった出土遺物は土師器杯12点、甕38点、須恵器蓋4点、杯・椀42、長頸壺1点、甕10点、羽釜10点が埋没土中より出土している。

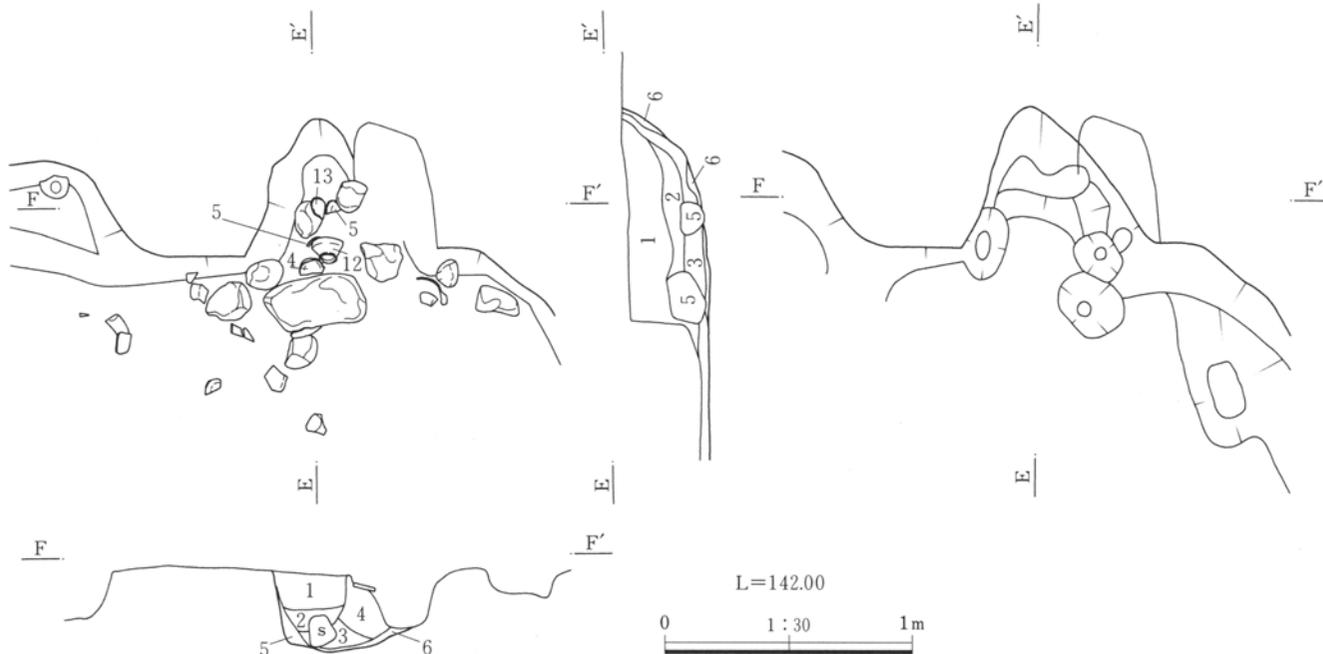
本住居の存続時期は出土遺物から10世紀第2 四半期に比定される。



19図 1区2号住居遺構図(1)

1区2号住居

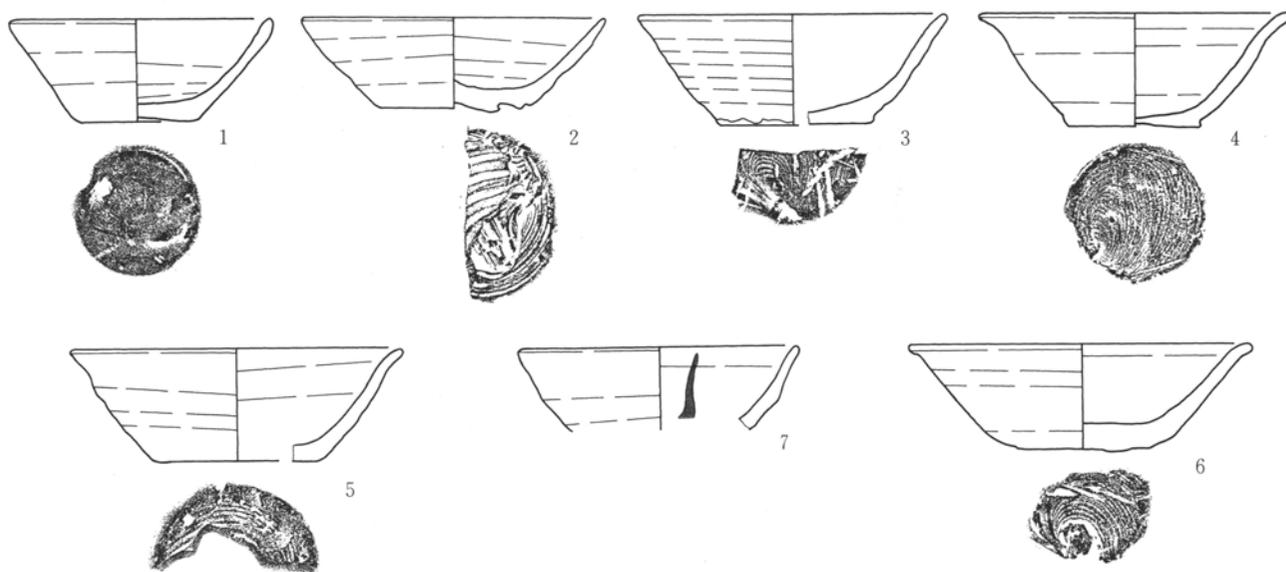
- |   |  |
|---|--|
| 1 黒褐色土(2.5Y3/1) $\phi$ 3~8mmの白色・褐色軽石粒を5%含む。     | 7 黒褐色土(10YR3/2) IIIとIVの混合土、As-Cを5%とVブロックを10~20%含む。上面は硬く踏みしめられている(貼り床)。 |
| 2 暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3) $\phi$ 3~8mmの白色・褐色軽石粒を7%含む。 | 8 暗褐色土(10YR3/3) As-Cを2~3%とVブロックを5%含む。                                  |
| 3 黒褐色土(2.5Y3/1) $\phi$ 3~8mmの白色・褐色軽石粒を3%含む。     | 9 褐灰色土(10YR4/1) 褐灰色砂とVブロックを30%含む。                                      |
| 4 黒色土(2.5Y2/1) ロームブロック、軽石を僅かに含む。                | 10 にぶい黄褐色土(10YR4/3) V主体、褐灰色砂を20~30%含む。                                 |
| 5 黒色土(10YR1.7/1) 軽石を少量含む。                       | 11 黒褐色土(10YR3/2) IIIに近似、As-Cを5%含む。                                     |
| 6 オリーブ褐色土(2.5Y4/3) ロームブロック?含む(住居壁の崩落か)。         | 12 褐色土(10YR4/4) Vと同様、僅かに黒褐色土が混入。                                       |



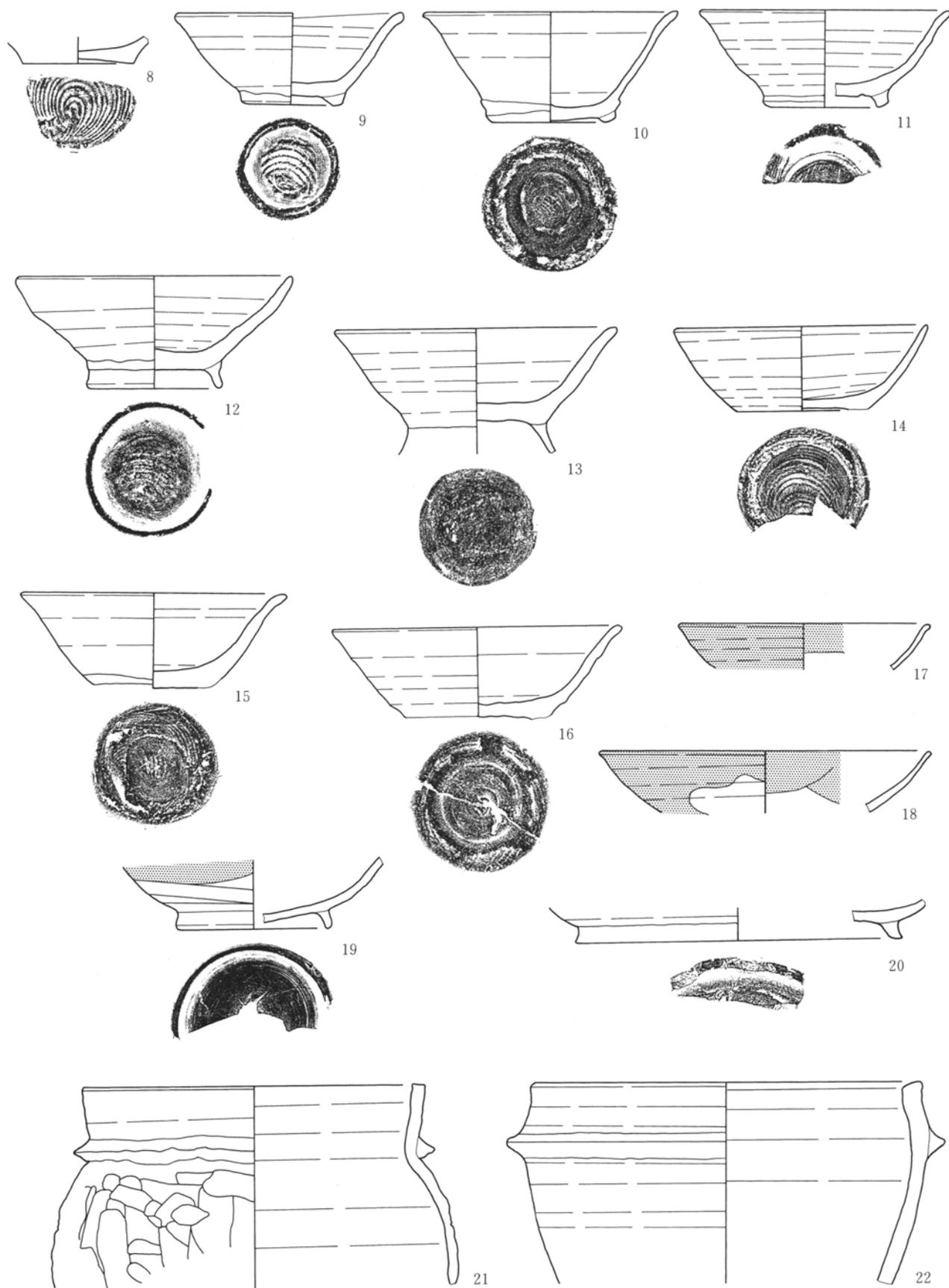
1区2号住居 カマド

- |  |                                    |
|--|------------------------------------|
| 1 暗褐色土(10YR3/3) IIIに類似、As-Cを1~2%を含む。                       | 5 黒色土(10YR2/1) 灰。                  |
| 2 黒褐色土(10YR3/2) As-Cを1%と焼土1%を含む。                           | 6 褐色土(10YR4/4) 粘質土、褐色砂を30%含む。      |
| 3 黒色土(10YR2/1) 灰を30~50%含む。                                 | 7 暗褐色土(10YR3/3) As-Cを3%、灰・焼土を5%含む。 |
| 4 灰黄褐色土(10YR4/2) As-C・Hr-FPを3%、焼土・炭化物を1%、黄褐色砂小ブロック2~3%を含む。 |                                    |

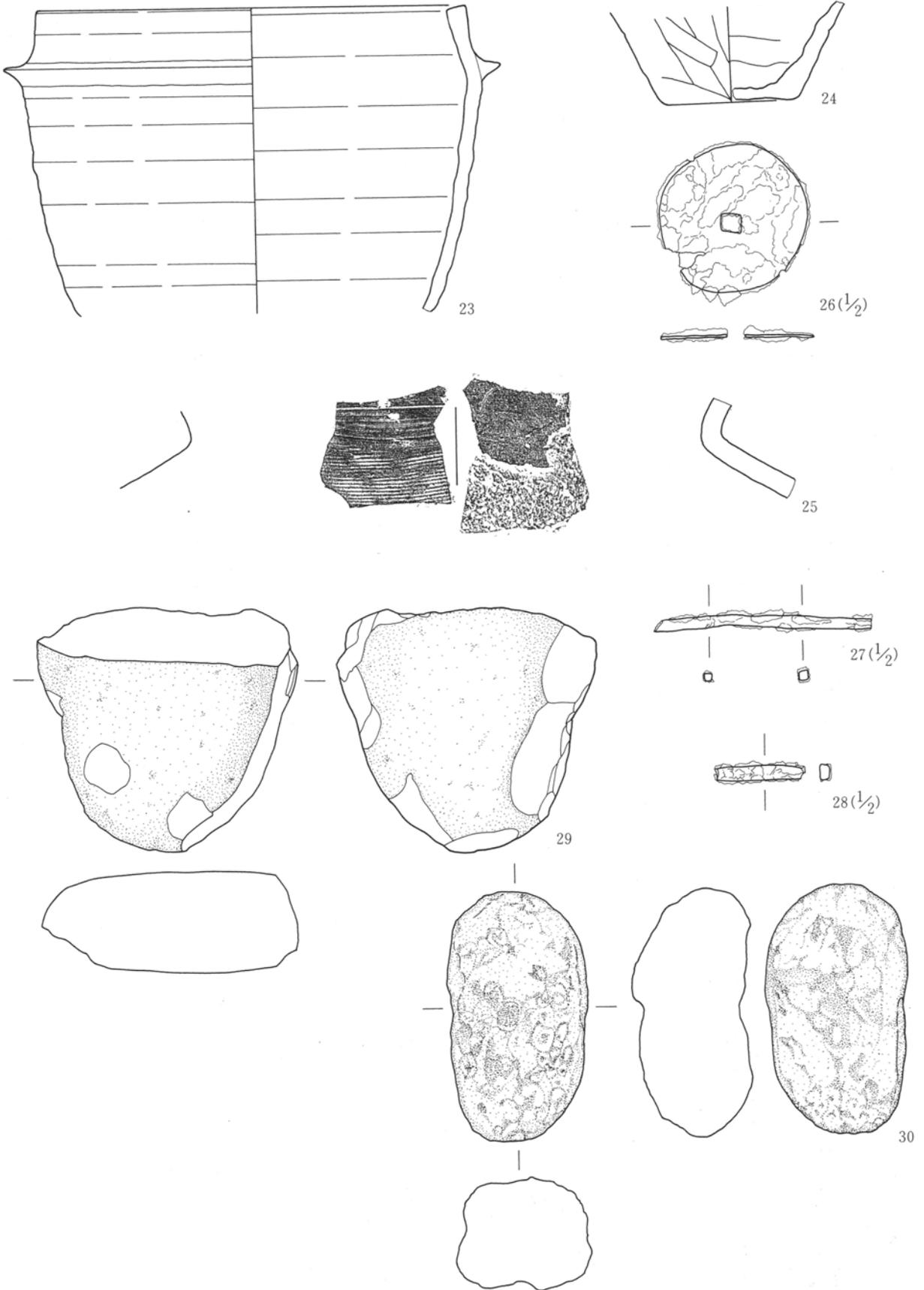
20図 1区2号住居遺構図(2)



21図 1区2号住居遺物図(1)



22図 1区2号住居遺物図(2)



23图 1区2号住居遺物图(3)

## 1区2号住居

No PL	種 器 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1 24	須恵器 椀	棚+4 3/4	口 10.2 底 4.5 高 4.1	粗砂粒/酸化焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。	
2 24	須恵器 椀	+18 1/3	口 11.8 底 6.0 高 3.7	細砂粒/酸化焰/ にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り、糸切りを二度行っている。	
3	須恵器 椀	埋没土下位 1/2	口 12.0 底 6.0 高 4.3	細砂粒/酸化焰軟 質/橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。	
4 24	須恵器 椀	埋没土下位 3/4	口 12.2 底 5.2 高 4.5	粗砂粒/酸化焰/ 黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。	
5 24	須恵器 椀	埋没土下位 1/2	口 13.0 底 6.6 高 4.4	粗砂粒/酸化焰/ にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。	
6	須恵器 椀	埋没土下位 1/6	口 13.4 底 5.2 高 4.1	粗砂粒/酸化焰/ 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。	
7 24	須恵器 椀	埋没土中 口縁部片	口 11.0	粗砂粒/酸化焰/ 橙	ロクロ整形、回転右回りか。	口縁部内面に墨書?
8	須恵器 椀	埋没土中 底部片	底 6.0	細砂粒/酸化焰燻 /オリープ黒	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。	
9 24	須恵器 椀	+9 完形	口 12.0 底 5.6 高 5.0	粗砂粒/酸化焰/ 灰褐	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り、高台は貼付。	
10 25	須恵器 椀	+14 1/4	口 13.2 底 7.1 高 5.8	粗砂粒/還元焰き み/灰オリープ	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り、高台は貼付、大部分は剥落。	
11 25	須恵器 椀	+23 1/3	口 13.2 底 6.8 高 5.1	粗砂粒/酸化焰き み/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部切り離し技法はナデのため不明。高台は貼付。	
12 25	須恵器 椀	埋没土中 1/3	口 14.4 底 7.2 高 5.9	粗砂粒/酸化焰/ にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り、高台は貼付。	
13 25	須恵器 椀	カマド 1/2	口 14.8 底 7.2	粗砂粒/酸化焰/ にぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り、高台は貼付。	
14 25	須恵器 椀	埋没土中 1/3	口 13.4 底 7.0	粗砂粒/酸化焰/ 黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り、高台は貼付であるが剥落。	
15 25	須恵器 椀	埋没土中 1/2	口 14.0 底 6.0	粗砂粒/還元焰き み/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り、高台は貼付であるが剥落。	
16 25	須恵器 椀	床直 1/6	口 14.0 底 6.8	粗砂粒/酸化焰/ 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り、高台は貼付であるが剥落。	
17	灰釉陶器 椀	埋没土中 口縁部片	口 13.2	緻密/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回りか。施軸方法は漬け掛け。	大原2号窯式期
18	灰釉陶器 椀	埋没土中 口縁部片	口 17.2	緻密/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。施軸方法は漬け掛け。	大原2号窯式期
19 25	灰釉陶器 椀	+26 底部片	底 8.0	緻密/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部はナデ。高台は貼付。体部下位は回転ヘラ削り。漬け掛け。	大原2号窯式期
20	須恵器 盤	埋没土中 底部片	底 17.0	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部はヘラナデ。高台は貼付。	
21 26	須恵器 羽釜	埋没土中 口~胴中位	口 17.0 罎 19.0	粗砂粒/還元焰/ 灰白	口縁部横ナデ、罎は貼付。胴部は縦方向、罎下横方向のヘラ削り。	
22 26	須恵器 羽釜	埋没土中 口~胴上位	口 20.6 罎 23.2	粗砂粒/酸化焰/ にぶい褐	ロクロ整形、回転右回り。罎は貼付。	
23 26	須恵器 羽釜	埋没土中 口~胴中位	口 23.2 罎 26.2	粗砂粒/酸化焰/ 浅黄橙	ロクロ整形、回転右回り。罎は貼付。	
24 26	須恵器 羽釜	埋没土中 底部片	底 7.4	粗砂粒/還元焰/ 灰白	内面に輪積み痕が残る。胴部は縦方向のヘラ削り。底部はナデ。	
25 26	須恵器 甕	埋没土中 頸部片	頸 28.0	粗砂粒/還元焰/ 灰	胴部外面は平行叩き痕。	
26 26	鉄器 紡錘車	埋没土中 軸欠損	径 6.2 厚 0.1		軸部分は断面方形の状態で欠損。	
27 26	鉄器 不明	埋没土中 一部片	長 7.7 幅 0.4 厚 0.4		紡錘車の軸か鎌の柄か。	
28 26	鉄器 不明	埋没土中 一部片	長 3.1 幅 0.5 厚 0.4		紡錘車の軸か鎌の柄か。	
29 26	石器 砥石	棚	長 12.8 幅 13.5 厚 5.2 重 1435	石材/粗粒輝石安 山岩	周辺部を打ち欠く、両面とも使用。	
30 27	石器 凹石	埋没土中 完形	長 13.1 幅 7.5 厚 6.5 重 655	石材/粗粒輝石安 山岩	両面に小凹をもつ。	
31 27	石製品 切石	カマド ほぼ完形	長 21.5 幅 16.4 厚 12.3 重 4420	石材/未固結凝灰 岩	カマド天井部の補強に使用か。	

## 6区1号住居

6区調査区東端部、X=45,998~46,002、Y=-72,165~72,179に位置する。調査した範囲は当初、西辺側の一部しか調査区内で確認できなかったため5区西端まで調査区を拡張した。その結果、住居全体のほぼ3/4について調査することができた。本住居と他遺構との重複関係は5区から続く河道との重複が確認された。新旧関係は本住居の方が古いため残存状態は北辺の上部、カマドの上部、北東角部分が河道によって欠損した状態であった。

平面形態は方形、長方形を呈すると想定される。規模は長軸3.20m+ $\alpha$ 、短軸3.32m、北辺(推定)3.34m、西辺3.35m+ $\alpha$ を測る。壁高は確認面から50cm前後である。主軸方位はN-64°-Eを指す。

内部施設は貯蔵穴が北東角よりやや南の東辺壁際から検出された。平面形態はほぼ円形を呈し、規模は径80cm前後、深度25cmである。なお、柱穴、周溝は調査範囲では検出されなかった。

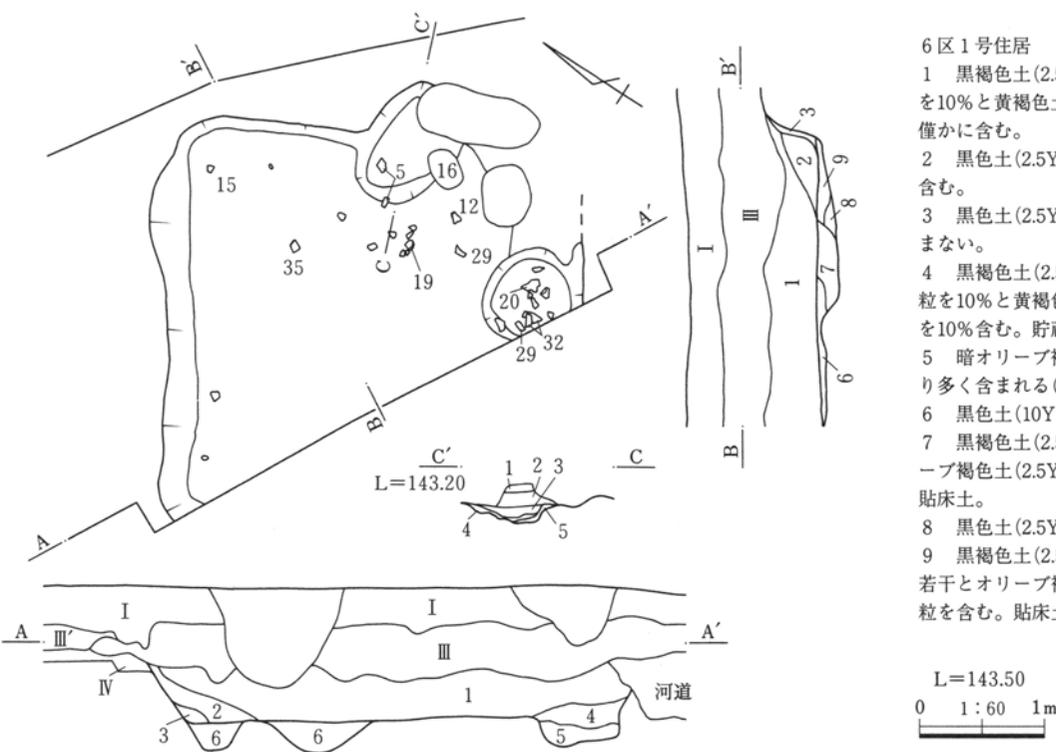
床面はほぼ平坦でカマド周辺から住居南よりまで掘り方上部に黒色土を入れて踏み固めているが南辺よりの一部では地山をそのまま踏み固めて使用している。

カマドは北辺のほぼ中央に構築されているが、上部を河道によって欠くため残存状態は焼土の一部と見られる焼土と掘り方の一部だけであった。規模は焼土部から煙道部長102cm、両袖幅70cmを測る。また焼土部から煙道部の方向は主軸方位よりさらに27°ほど東へ振れている。

掘り方は中央の一部では床面より2~3cmほど掘り込まれているだけであるが、大部分は土坑状に掘り込まれている。しかし、その深度は10~25cmと浅い状態であったが、南西角の床下土坑2は70cmと深い状態であった。また、床下土坑1の埋没土中には僅かではあるが焼土の混入が確認された。

埋没状態は壁際で三角状の堆積が確認されたが、その後は短期間に同一の土砂で埋没していることから自然埋没と判断される。

出土遺物はカマド、カマド周囲、貯蔵穴から多く出土している。そのうち、5の土師器杯、29の土師器甕がカマド焼土部、20の須恵器碗、29・31・32の土師器甕が貯蔵穴内、15・19の須恵器杯が床面、12の須恵器杯蓋、16の須恵器杯がカマド右側の埋没土中、6の土師器杯が床下土坑内から出土している。また、8の土師器杯のように河道内から出土した遺



24図 6区1号住居遺構図(1)

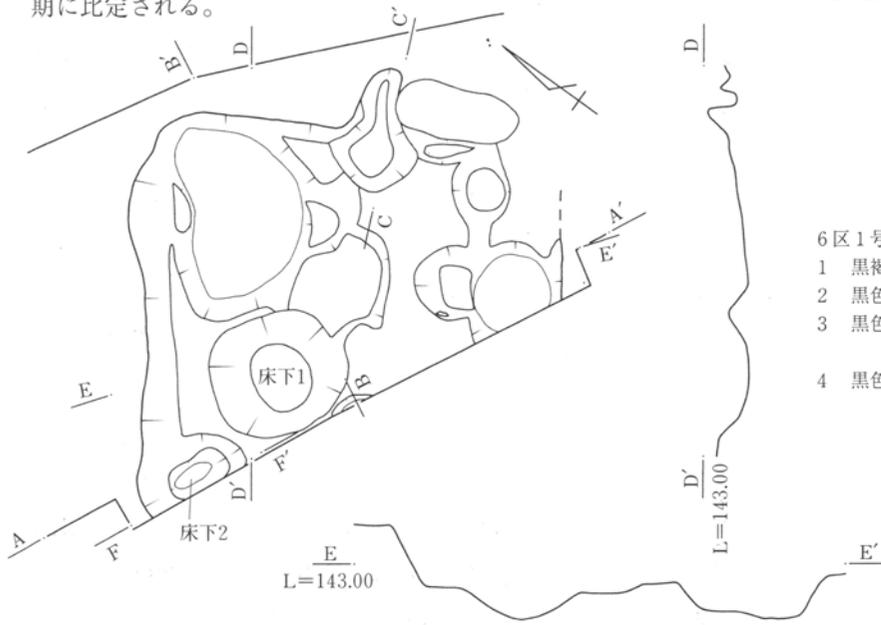
## 6区1号住居

- 1 黒褐色土(2.5Y3/2) やや砂質、Hr-FP、As-C粒を10%と黄褐色土ブロックを若干と焼土、炭化物粒を僅かに含む。
- 2 黒色土(2.5Y2/1) やや砂質、4のテフラを僅かに含む。
- 3 黒色土(2.5Y2/1) やや砂質、テフラをほとんど含まない。
- 4 黒褐色土(2.5Y3/2) やや砂質土、Hr-FP、As-C粒を10%と黄褐色土ブロック・炭化物粒を僅かと焼土を10%含む。貯蔵穴。
- 5 暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3) 焼土、炭化物が7より多く含まれる(15%)下部に灰が堆積、貯蔵穴。
- 6 黒色土(10YR1.7/1) 土坑埋没土。
- 7 黒褐色土(2.5Y3/1) Hr-FP、As-Cを若干とオリーブ褐色土(2.5Y4/3、V層)ブロック、焼土粒を含む。貼床土。
- 8 黒色土(2.5Y2/1) Hr-FP、As-C、焼土を含む。
- 9 黒褐色土(2.5Y3/1) 1と同様、Hr-FP、As-Cを若干とオリーブ褐色土(2.5Y4/3、V層)ブロック、焼土粒を含む。貼床土。

L=143.50  
0 1:60 1m

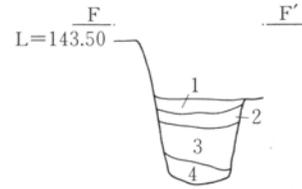
物と本住居から出土した遺物とが接合した例が数個体みられた。なお、図示できなかった遺物は土師器杯201点、甕167点、須恵器杯蓋5点、杯身17点、碗3点、瓶類4点、甕21点が出土している。

本住居の存続時期は出土遺物から8世紀第1四半期に比定される。



6区1号住居カマド

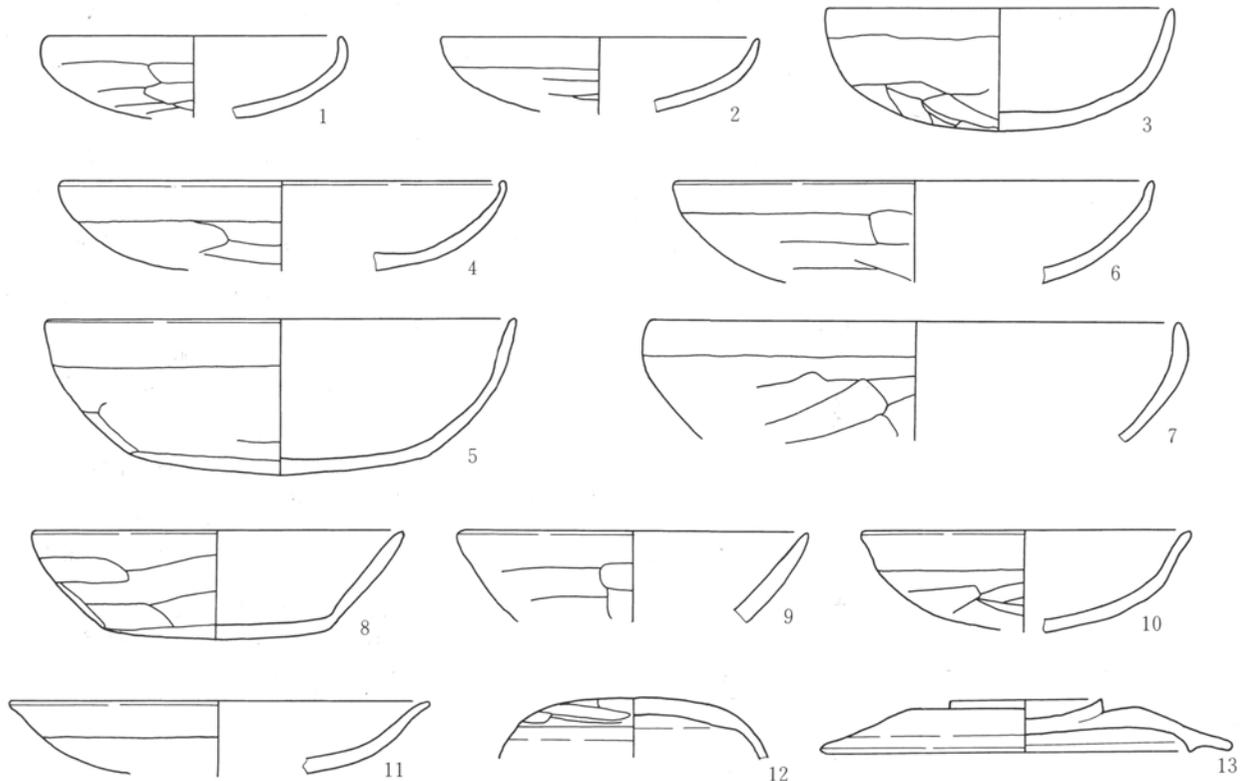
- 1 黒褐色土(2.5Y3/2) Hr- FP、As- Cを若干含む。
- 2 暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3) Hr- FP、As- Cを僅かと焼土粒を含む。
- 3 オリーブ黒色土(5Y3/1) 灰層、軽石粒を少し含む。
- 4 暗褐色土(10YR3/3) Hr- FP、As- Cを僅かに含む。



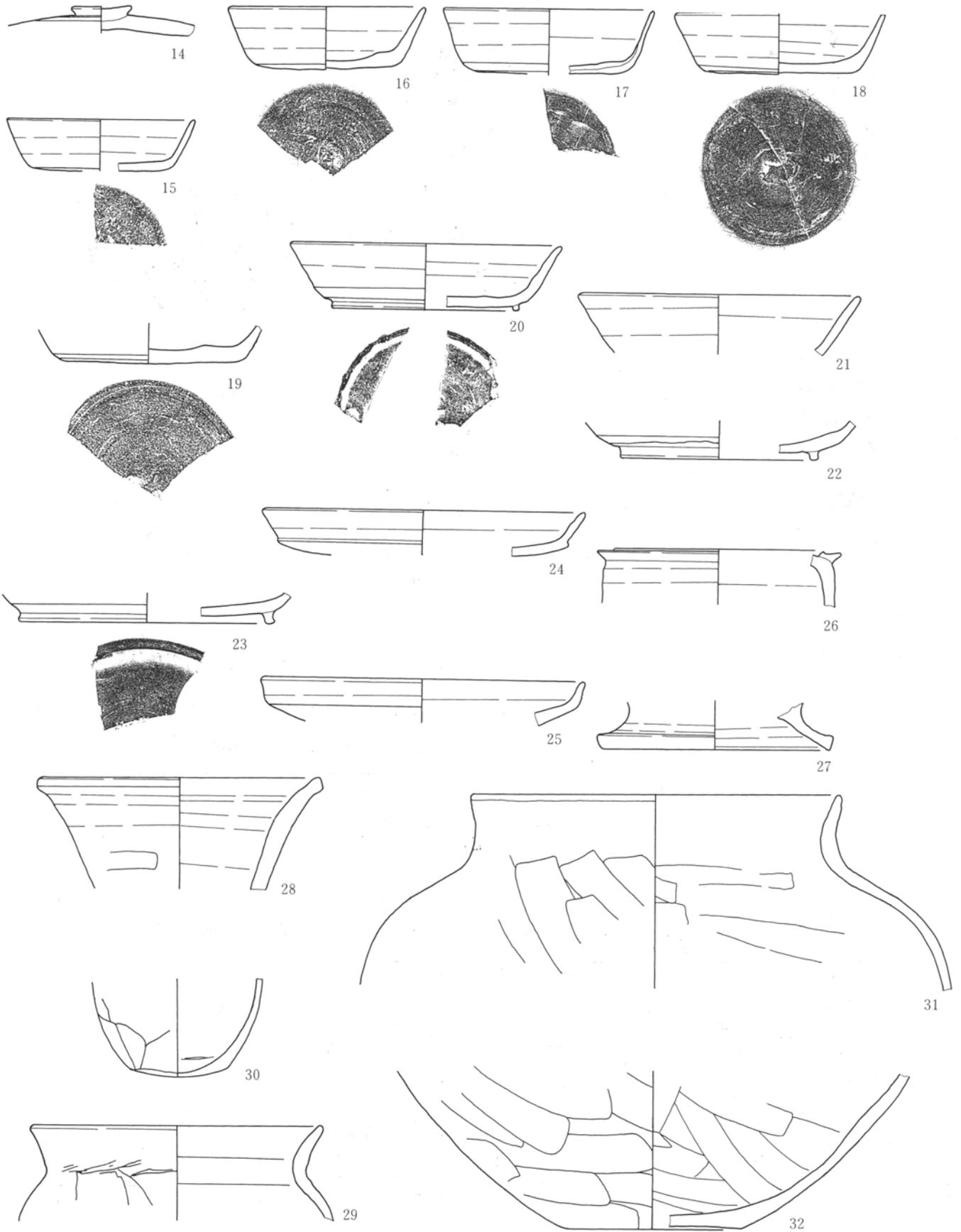
6区1号住居 床下土坑 No2

- 1 黒褐色土(2.5Y3/2) 住居埋没土と同じ。
- 2 黒色土(2.5Y2/1) 砂質土、Hr- FPを含む。
- 3 黒色土(2.5Y2/1) 2と同じであるが褐色土のブロックをやや多く含む。
- 4 黒色土(5Y2/1) 含有物はみられない。

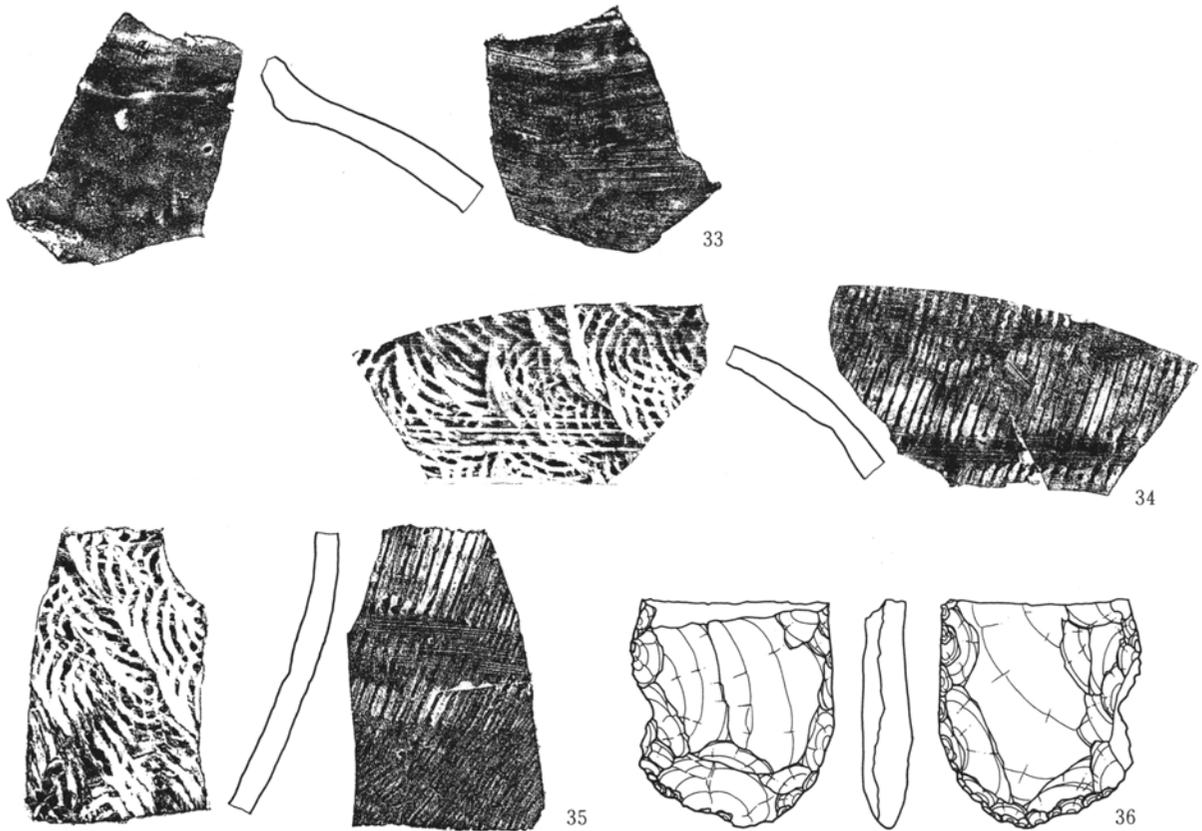
25図 6区1号住居遺構図(2)



26図 6区1号住居遺物図(1)



27図 6区1号住居遺物図(2)



28図 6区1号住居遺物図(3)

6区1号住居

No PL	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
1	土師器 杯	埋没土下位 1/6	□ 11.8 高 (3.3)	細砂粒/良好/橙	口縁部上位は横ナデ、中位から底部はヘラ削り。	
2	土師器 杯	埋没土中 口縁部小片	□ 12.4	細砂粒/良好/ にぶい橙	口縁部上位は横ナデ、中位はナデ、下位から底部はヘラ削り。	
3 27	土師器 杯	埋没土中 1/3	□ 13.6 底 11.6 高 4.8	細砂粒/良好/ 明赤褐	口縁部上半は横ナデ、下半はナデ、底部はヘラ削り。	
4	土師器 杯	埋没土中 口縁部小片	□ 17.4	細砂粒/良好/ 明赤褐	口縁部上位は横ナデ、下位から底部はヘラ削り。	
5 27	土師器 杯	カマド 1/4	□ 18.4 底 12.0 高 6.2	細砂粒/良好/ にぶい赤褐	口縁部上半は横ナデ、下半は横方向のヘラ削り、底部はヘラ削り。	
6	土師器 杯	埋没土中 口縁部小片	□ 18.6	細砂粒/良好/橙	口縁部上位は横ナデ、中位から底部はヘラ削り。	
7	土師器 杯	埋没土中 口縁部小片	□ 20.6	細砂粒/良好/ にぶい橙	口縁部上位は横ナデ、中位はヘラ削り。	
8 27	土師器 杯	埋没土中 5/6	□ 14.4 底 8.6 高 4.3	細砂粒/良好/ にぶい橙	口縁部上位は横ナデ、中位・下位は横方向のヘラ削り、底部はヘラ削り。	
9	土師器 杯	埋没土中 口縁部小片	□ 13.6	細砂粒/やや軟質/ にぶい橙	口縁部上半は横ナデ、下半はヘラ削り。	
10	土師器 杯	埋没土中 口縁部小片	□ 13.0	細砂粒/良好/ にぶい赤褐	口縁部上位は横ナデ、中位はナデ、下位から底部はヘラ削り。	
11	土師器 杯	埋没土中 口縁部小片	□ 16.4	細砂粒/良好/ 明赤褐	口縁部上半は横ナデ、下半はナデ、底部はヘラ削り。	
12	須恵器 杯蓋	+ 2 天井部片		微砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転右回り。天井部は手持ちヘラ削り。	
13 27	須恵器 杯蓋	埋没土中 1/3	□ 16.2 摘 5.8 高 2.1	微砂粒・黒色粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。摘は貼付。天井部中央部は回転ヘラ削り。	
14	須恵器 杯蓋	埋没土下位 天井部片	摘 3.2	細砂粒/酸化焰き み/灰白	ロクロ整形、回転右回り。摘は貼付。天井部中央部は回転ヘラ削り。	
15	須恵器 杯	床直 1/6	□ 10.6 底 7.4 高 2.9	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
16	須恵器 杯	+16 1/5	□ 10.8 底 8.2 高 3.5	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	

No PL	種 類 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎土 / 焼成 / 色調	成形・整形の特徴	摘 要
17	須恵器 杯	埋没土中 1/6	□ 11.6 底 8.0 高 3.6	細砂粒 / 還元焰 / 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り、口縁部最下位にも1段の回転ヘラ削り。	
18 28	須恵器 杯	埋没土中 5/6	□ 11.6 底 8.0 高 3.4	細砂粒 / 還元焰 / 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り、口縁部最下位にも2段の回転ヘラ削り。	
19	須恵器 杯	床直 底部片	底 10.0	細砂粒 / 還元焰 / 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り、口縁部最下位にも1段の回転ヘラ削り。	
20 28	須恵器 杯	+34 1/4	□ 15.0 底 11.4 高 3.7	細砂粒 / 還元焰 / 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り、高台は貼付。口縁部最下位回転ヘラ削り。	
21	須恵器 杯	埋没土中 口縁部小片	□ 15.6	細砂粒 / 還元焰 / 灰	ロクロ整形、回転右回りか。	
22	須恵器 杯	埋没土中 底部片	底 12.0	細砂粒 / 還元焰 / 灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転ヘラ削り、高台は貼付。口縁部最下位回転ヘラ削り。	
23	須恵器 杯	埋没土中 底部片	底 15.0	細砂粒 / 還元焰 / 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り、高台は貼付。口縁部最下位回転ヘラ削り。	
24	須恵器 高盤か	埋没土中 盤身小片	□ 18.0	細砂粒 / 還元焰 / 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ。	
25	須恵器 盤	埋没土中 口縁部小片	□ 18.0	細砂粒 / 還元焰 / 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
26	須恵器 短頸壺蓋	埋没土中 口縁部小片	天井部最大径 13.4	細砂粒 / 還元焰 / 灰	ロクロ整形、回転右回りか。天井部凸帯から鈔にかけては貼付。	
27	須恵器 長頸壺	埋没土中 脚部片	脚部径 12.6	細砂粒 / 還元焰 / 灰白	ロクロ整形、回転右回りか。	
28	須恵器 壺	埋没土中 口縁部小片	□ 15.4	細砂粒 / 還元焰 / 灰白	ロクロ整形、回転右回りか。	
29 28	土師器 甕	+12、23 口~胴上位	□ 16.0	粗砂粒・褐色粒 / 良好 / 橙	口縁部は横ナデ、胴部は縦方向のヘラ削り、内面胴部はヘラナデ。	
30 28	土師器 甕	埋没土中 胴下位~底	底 5.4	粗砂粒 / 良好 / 橙	胴部・底部ともヘラ削り。内面はヘラナデ。	
31 28	土師器 甕	埋没土中 口~胴上位	□ 20.2	粗砂粒 / 良好 / 褐灰	口縁部は横ナデ、胴部は縦方向のヘラ削り、内面胴部はヘラナデ。	
32 28	土師器 甕	+5、9 胴下位~底	底 10.0	粗砂粒・褐色粒 / 良好 / 橙	胴部下位は横方向ヘラ削り、底部もヘラ削り。内面はヘラナデ。	
33	須恵器 甕	埋没土中 頸部片		細砂粒 / 還元焰 / 灰	内面に輪積み痕が残る。内外面ともナデが施されているが、外面に叩き痕が僅かに残る。	
34	須恵器 甕	埋没土中 胴部上位片		細砂粒 / 還元焰 / 灰	外面は平行叩き痕、内面に同心円アテ具痕が残る。外面に自然釉が付着。	
35	須恵器 甕	床直 胴部下位片		細砂粒 / 還元焰 / 黄灰	外面は平行叩き痕、内面に同心円アテ具痕が残る。外面に幅2cmほどの横ナデあり。	
36 28	石 器 打製石斧	埋没土中 1/2	長 6.0 幅 5.8 厚 1.3 重 54	石材 / 黒色頁岩	上半を欠損。	混入品

## 6区2号住居

6区調査区中程の南際、X=46,004~46,005、Y=-72,187~72,189に位置する。調査した範囲は北東角付近のごく限られた範囲で大部分は現道下に存在する。他遺構との重複関係は調査区内では確認されなかった。

平面形態は方形、長方形を呈すると想定される。規模については調査区内では計測できる箇所は存在しない。壁高は確認面から32cm前後である。主軸方位はN-90°前後-Eを指すと想定される。

内部施設、カマドなどについて調査区内では確認されなかった。

床面は掘り方面上にⅢ層、Ⅳ層、Ⅴ層を混合した土を入れて踏み固めているが、壁際ではその厚さは

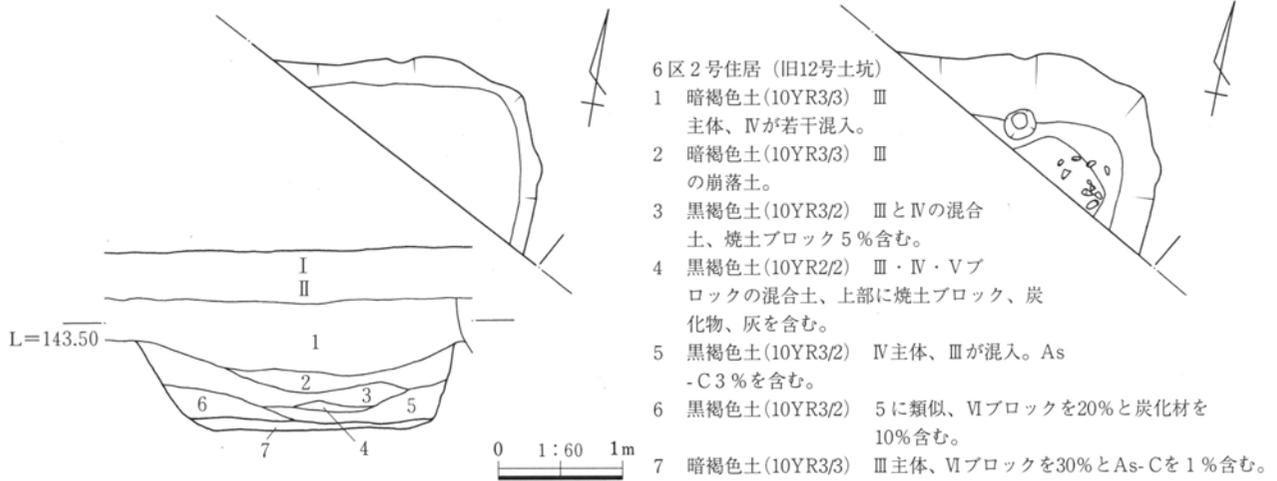
2~3cmと薄い状態であった。

掘り方は調査区内ではほぼ平坦であるが、中央部に向けてやや深くなる様子が窺えた。また、北西角付近では5~10cm大の凝灰岩が散乱した状態で出土した。

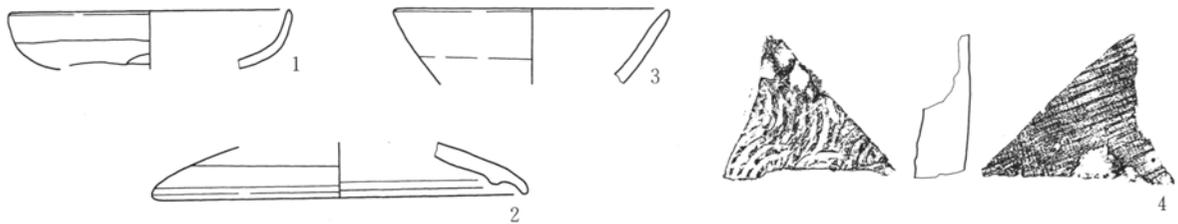
埋没状態は住居の隅での土層観察であったため明確ではないがレンズ状の堆積が観察されることから自然埋没であると想定される。

出土遺物はすべて小片での出土であったため図示可能な物は僅かしかなかった。なお、図示できなかった出土遺物は土師器杯29点、甕63点、須恵器杯6点、甕9点が埋没土中より出土している。

本住居の存続時期は出土遺物から8世紀前半代に比定される。



29図 6区2号住居遺構図



30図 6区2号住居遺物図

6区2号住居

No PL	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	土師器 杯	埋没土中 口縁部片	口 11.0	細砂粒/良好/ にぶい褐	口縁部上半は横ナデ、下半はナデ、底部はヘラ削り。	
2	須恵器 杯蓋	埋没土中 口縁部片	口 14.6	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転右回りか。天井部中央部は回転ヘラ削り。	
3	須恵器 杯身	埋没土中 口縁部片	口 10.8	細砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回りか。	
4	須恵器 甕	埋没土中 胴部小片		細砂粒/還元焰/ 灰	外面は平行叩き痕、内面に同心円アテ具痕が残る。	

7区1号住居

7区調査区西端、X = 46,024~46,026、Y = -73,221に位置する。調査した範囲は東辺のごく一部である。他遺構との重複関係はカマドの南側が現代の掘削痕によって壊されているが、古代・中近世の遺構とは確認されなかった。

平面形態は方形、長方形を呈すると想定される。規模については調査区内で計測できる箇所は東辺だけで2.50mを測る。壁高は確認面から51~56cm前後である。主軸方位はN-170°後-Eを指すと想定される。

内部施設は調査範囲では貯蔵穴、柱穴、周溝とも確認されなかった。床面は地山をそのまま踏み固めて硬化面として使用されていた。

カマドは南辺の東端に構築されているが、調査範囲内では左袖の一部が調査できただけであるとともに燃焼部から煙道部にかけては現代の掘削によって欠損しているため詳細については不明である。規模は全長120cm + α、燃焼部幅40cm + αである。天井部は崩落し覆っていた粘土などは流出状態であったが、燃焼部火床面から箱形に切り出された未固結凝灰岩が出土していることからこの礫を補強に使用していたとみられる。袖は大部分が住居廃棄時に破壊されたためか痕跡が僅かに残存している状態であった。残存している部分は幅20cm、高さ20cmほどの暗褐色粘土が帯状に残存しており、その先端に粗粒輝石安山岩(14×12×6cm)を補強に使用していた。

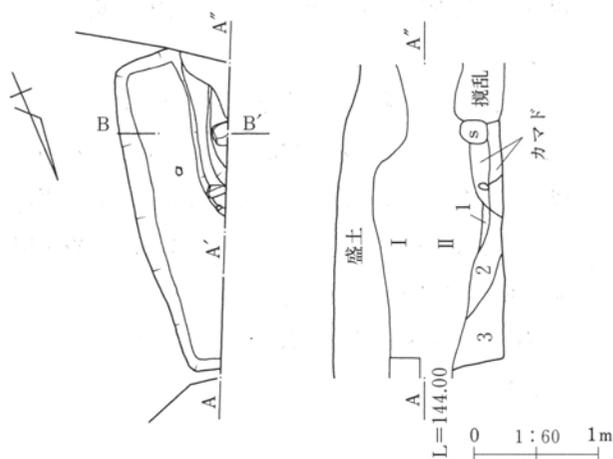
埋没状態は住居上部を現代の掘削によって攪乱さ

れているため住居下部の観察であるが北側から順次土砂が流入した様子が窺われることから自然埋没と判断される。

出土遺物は調査範囲が限られていたため残存状態もあまり良好ではなく量的にも少量であった。なお、

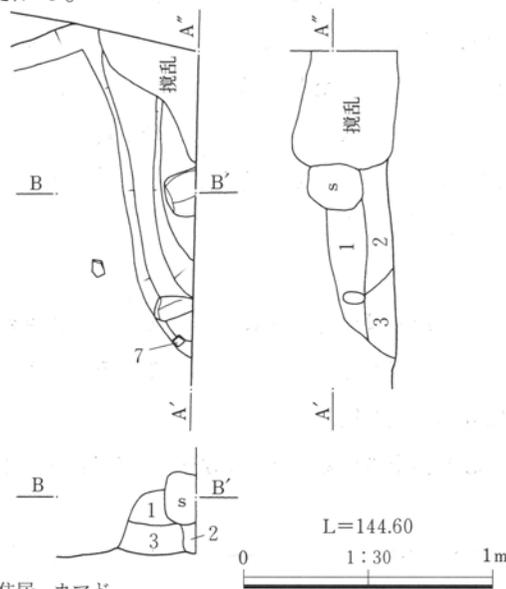
図示できなかった遺物は土師器杯9点、甕20点、須恵器杯・碗8点、甕2点、灰釉陶器碗1点が埋没土中より出土している。

本住居の存続期間は出土遺物から9世紀後半代に比定される。



7区1号住居

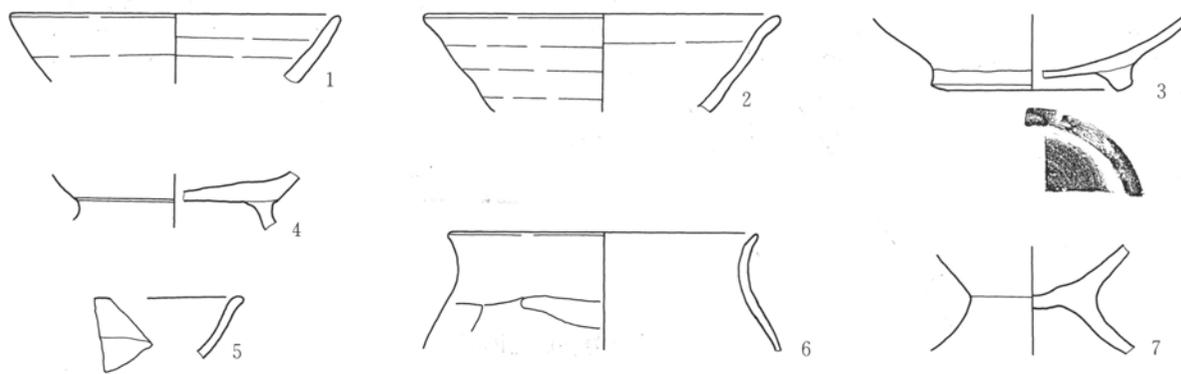
- 1 黄褐色土(10YR5/6) 粘質土、焼土を10%含む(カマド、天井部または袖の崩落土)。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2) IIIの流れ込みか、As-Cを5%含む。
- 3 褐灰色土(10YR4/1) III・IVの混合土の流れ込みか。As-Cを5%含む。
- 4 灰黄褐色土(10YR4/2) 灰・焼土を含む。カマドの内部。



7区1号住居 カマド

- 1 暗褐色土(10YR3/3) IIIに近似、As-Cを3%、焼土粒を5%含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 1に類似、焼土ブロックを5%含む。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 粘土質、焼土ブロックを10%を含む。

31図 7区1号住居遺構図



32図 7区1号住居遺物図

7区1号住居

No PL	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	須恵器 碗	埋没土中 口縁部片	口 13.0	細砂粒/還元焰/ 黄灰	ロクロ整形、回転右回りか。	
2	須恵器 碗	埋没土中 口縁部片	口 14.0	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転右回りか。	
3	須恵器 碗	埋没土中 口下位~底	底 8.0	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部はナデ、高台は貼付。	
4	須恵器 碗	埋没土中 口下位~底	底 8.0	細砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回りか。底部はナデ、高台は貼付。	
5	灰釉陶器 碗	埋没土中 口縁部小片		緻密/還元焰/ 灰白	ロクロ整形。施釉方法は漬け掛けか。	大原2号窯式期
6	土師器 甕	埋没土中 口~胴上位片	口 12.2	細砂粒/良好/ 明赤褐	口縁部は横ナデ、胴部は横方向ヘラ削り。	
7	土師器 台付甕	カマド 底~脚部	底 5.0	細砂粒/良好/ 明赤褐	脚部は貼付。胴部はヘラ削り、脚部は横ナデ。	

7区2号住居

7区調査区東端、X=46,018~46,021、Y=73,210~73,213に位置する。調査区は集合住宅への出入口確保のため制約を受け限定された範囲であったため建設工事時に県教育委員会文化課に立ち会いを依頼した。その結果、本住居は出入口下での残存が確認されていたため緊急調査が行われた。他遺構との重複関係は7区1号溝、6号土坑との重複が確認された。新旧関係は重複する遺構より本住居のほうが古い。西側部分は1号溝によって欠損していた。

平面形態は南辺と南東角の一部しか検出されていないが方形または長方形を呈するとみられる。規模は計測可能な箇所が存在しないが南辺が2m+αになると推定される。壁高は30cm前後である。主軸方

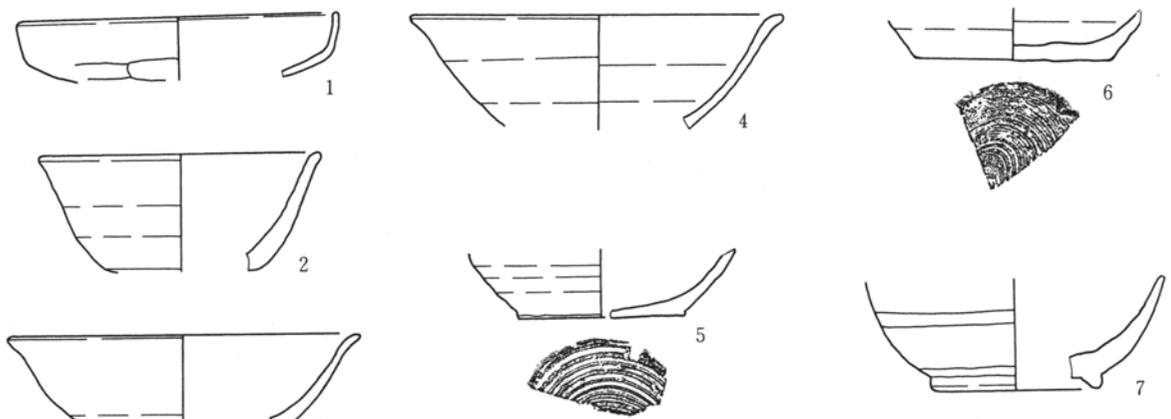
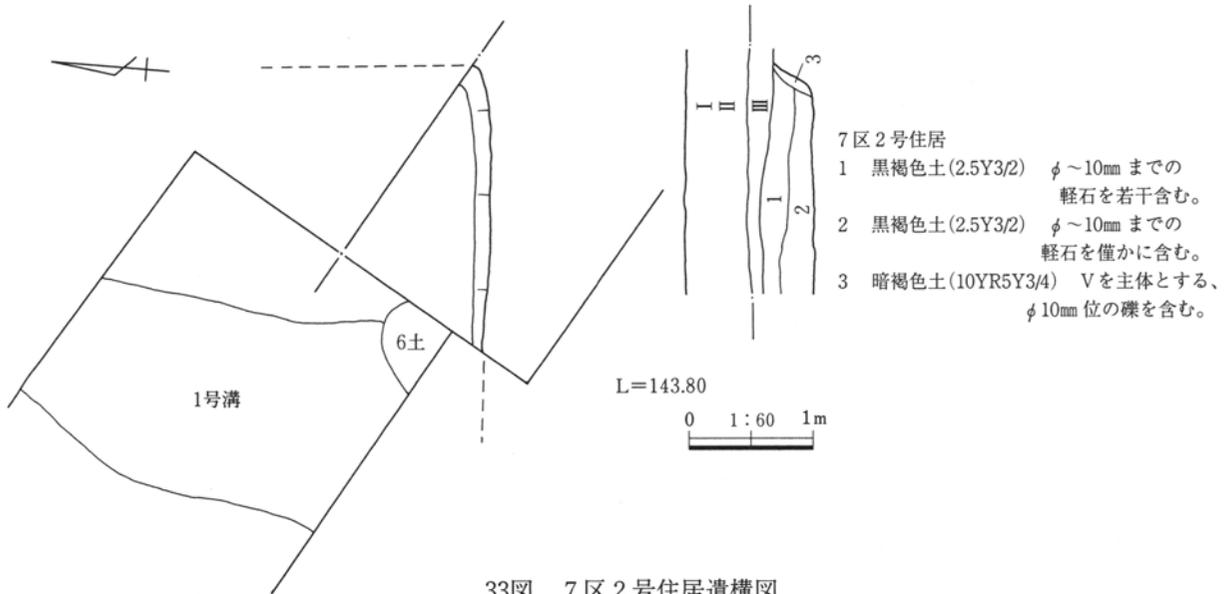
位は東を指すとみられる。

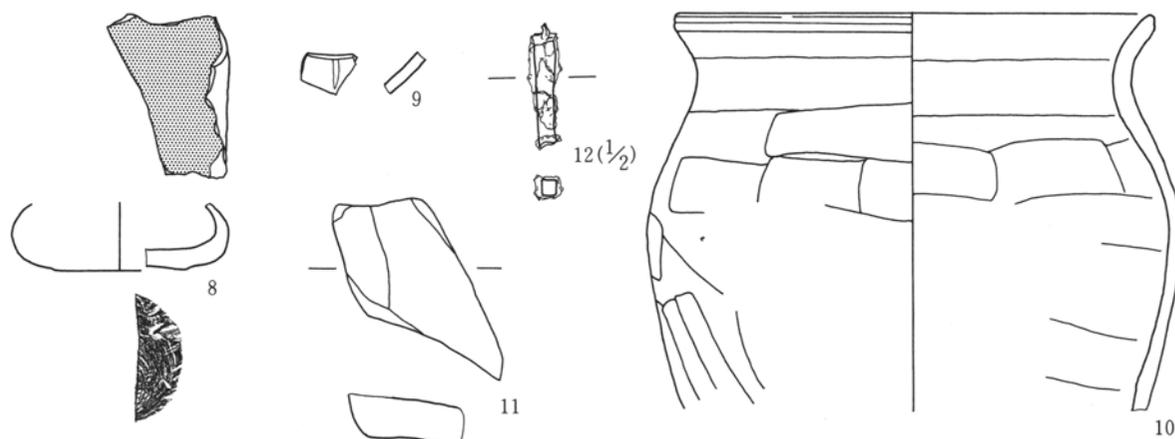
内部施設は調査範囲ではカマドや貯蔵穴、柱穴、周溝とも確認されなかった。床面は地山をそのまま踏み固めて硬化面として使用されていた。

埋没状態土層断面観察で壁際に僅かな流れ込みが観察された。他はレンズ状に近い水平堆積が観察されることから自然堆積である。

出土遺物は遺構の残存状態があまり良好ではない状態であったが多くの遺物が出土している。なお、図示できなかった遺物には土師器杯15点、甕76点、須恵器杯蓋1点、杯・碗身29点、甕2点が出土している。

本住居の存続期間は出土遺物から10世紀前半代に比定される。





35図 7区2号住居遺物図(2)

## 7区2号住居

No PL	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	土師器 杯	埋没土中 口～底小片	口 12.6 底 12.0	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、底部ヘラ削り。	
2	須恵器 椀	埋没土中 口縁部片	口 11.0 底 6.0	細砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回りか。	
3	須恵器 椀	埋没土中 口縁部片	口 14.0	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転右回りか。	
4	須恵器 椀	埋没土中 口縁部片	口 14.8	細砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回りか。	
5	須恵器 椀	埋没土中 口下位～底	底 6.6	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。	
6	須恵器 椀	埋没土中 底部片	底 7.8	細砂粒/還元焰燻 /黒褐	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。	
7	須恵器 椀	埋没土中 口中位～底	底 6.6	細砂粒/酸化焰/ にぶい赤褐	ロクロ整形、回転右回りか。高台は貼付。	
8 29	灰釉陶器 耳皿	埋没土中 1/3	底 5.0	緻密/還元焰/ にぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。 内面のみ施釉。	大原2号窯式期 か
9	青磁 輪花椀	埋没土中 口縁部小片		緻密/還元焰/ 灰白		
10 28	土師器 甕	埋没土中 口～胴中位	口 18.8 胴 1.2	粗砂粒/良好/ 赤褐	口縁部横ナデ、胴部上位は横方向、中位は縦方 向ヘラ削り、内面胴部はヘラナデ。	
11	須恵器 甕	埋没土中 頸部片		粗砂粒/還元焰/ 灰	口縁部と胴部は頸部で接合。胴部内面に同心円 アテ具痕が残る。	
12 29	鉄器 不明	埋没土中 一部片	長 3.4 幅 0.5 厚 0.5		紡錘車の軸か鎌の柄か。	

## 6区～7区1号住居

本住居は本調査時に集合住宅への出入口確保のため発掘調査が不可能であった。そのため建設工事の際に県教育委員会文化課立ち会い時に堅穴住居が確認されたため急遽県教育委員会文化課によって調査が実施された。

本住居は6区調査区と7区調査区の間位置する。位置は工事立ち会い時での緊急調査のため簡易測量により詳細な点まで明確ではない。

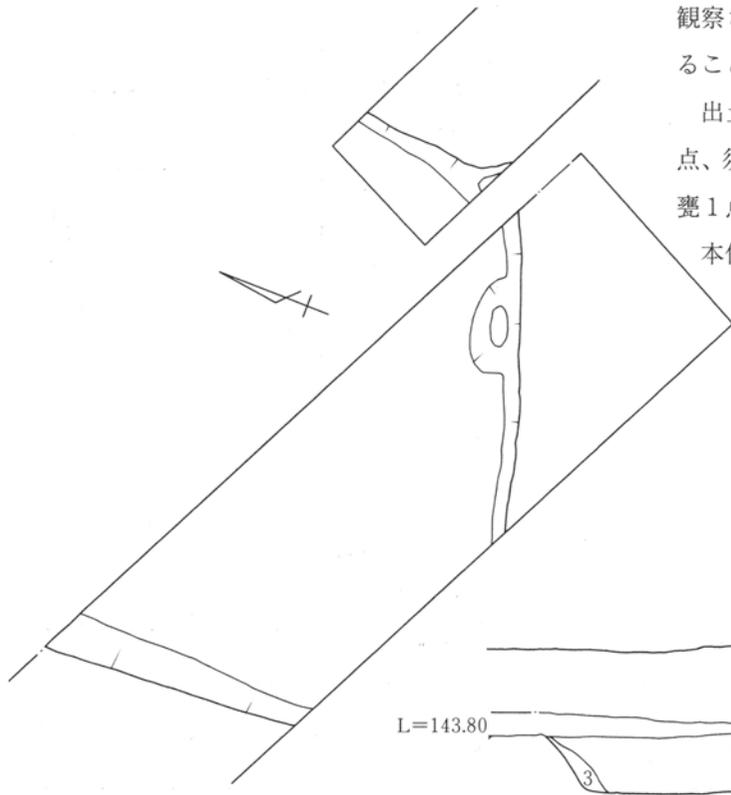
住居の位置は6区調査区と7区調査区間の西寄り、X=46,015～46,018、Y=-73,204～73,209に位置する。他遺構との重複関係は確認されなかった。

平面形態は東辺と西辺は北側がやや開く矩形を呈するようである。規模は長軸4.80m、短軸3.30m +  $\alpha$  を測る。壁高は35～45cmである。主軸方位はN-102°-Eを指す。

内部施設は貯蔵穴、柱穴、周溝とも確認されなかった。床面は地山をそのまま踏み固めて硬化面として使用されていた。

カマドは東辺の南端に構築されているが、調査はカマドの両側の一部しかできなかったが、右袖とみられる箇所には未固結凝灰岩と粗粒輝石安山岩を補強に使用していた。

埋没状態土層断面観察で壁際に僅かな流れ込みが



観察された他はレンズ状に近い水平堆積が観察されることから自然堆積である。

出土遺物は図示したほかに土師器杯7点、甕8点、須恵器杯蓋2点、杯身1点、椀2点、羽釜2点、甕1点が出土している。

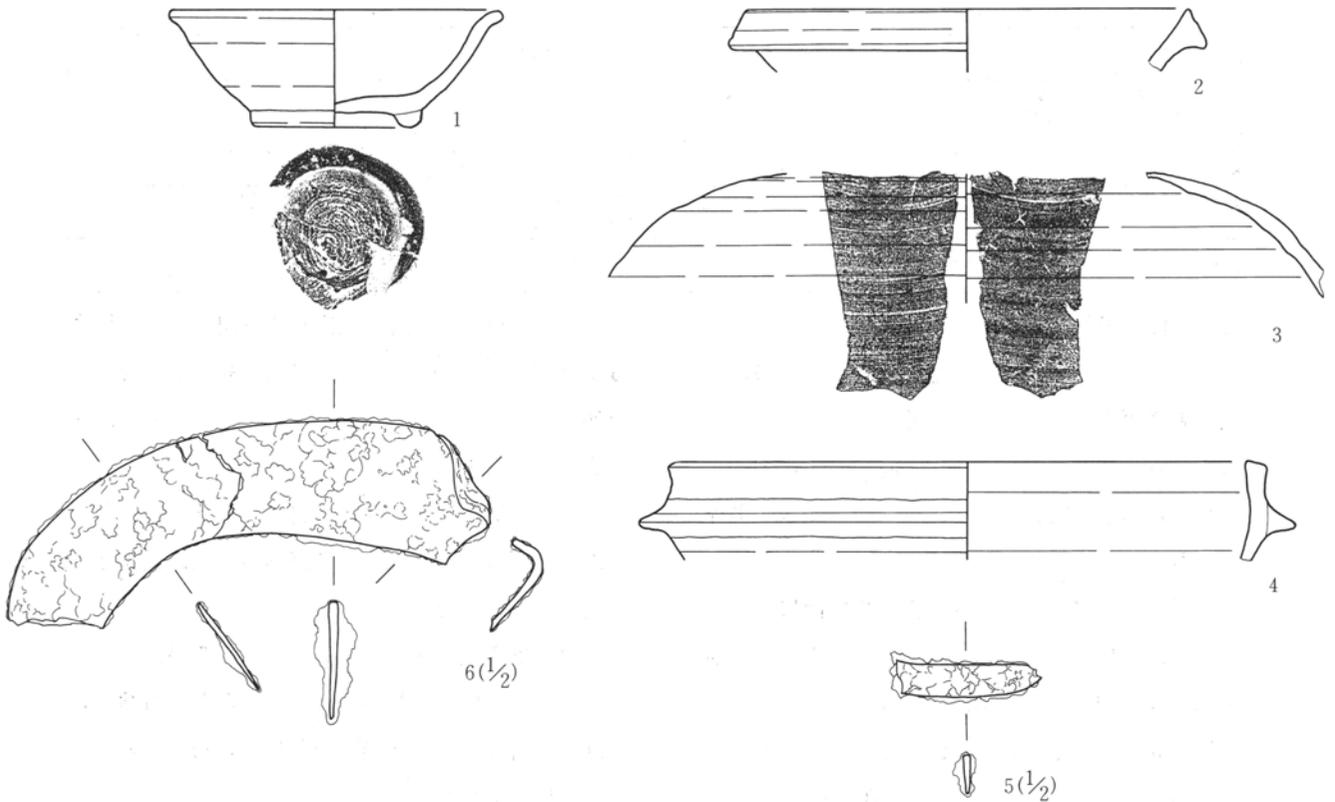
本住居の存続期間は出土遺物から10世紀前半代に比定される。

6区～7区1号住居

- 1 暗褐色土 As-Cを多少含む。
- 2 暗褐色土 カマドの一部か、焼土を多く含む。
- 3 黒褐色土 IVに類似、As-Cを多く含む。

0 1:60 1m

36図 6～7区1号住居遺構図



37図 6～7区1号住居遺物図

## 6区～7区1号住居

No PL	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1 29	須恵器 椀	埋没土中 1/2	口 12.8 底 6.8 高 4.6	細砂粒/還元焰燻 /オリーブ黒	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り、 高台は貼付。	
2	須恵器 壺	埋没土中 口縁部小片	口 19.8	細砂粒/還元焰燻 /灰白	ロクロ整形。	
3	須恵器 壺	埋没土中 胴部上位片	頸部径 14.0	細砂粒・白色粒/ 還元焰/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。	
4 29	須恵器 羽釜	埋没土中 口縁部小片	口 22.6 鑄 26.0	細砂粒/酸化焰/ にぶい褐色		
5 29	鉄器 刀子	埋没土中 一部片	長 4.0 幅 0.9 厚 0.2		刀部中程の破片。	
6 29	鉄器 鎌	埋没土中 端部欠損	長 12.9 幅 3.3 厚 0.3		柄に装着部分は折り曲げ。先端部を欠損。	

## 6区～7区2号住居

本住居は本調査時に集合住宅への出入口確保のため発掘調査が不可能であった。そのため建設工事の際に県教育委員会文化課立ち会い時に竪穴住居が確認されたため急遽県教育委員会文化課によって調査が実施された。

本住居は6区調査区と7区調査区間の西寄りに位置する。位置は工事立ち会い時での緊急調査のため簡易測量により詳細な点まで明確ではない。

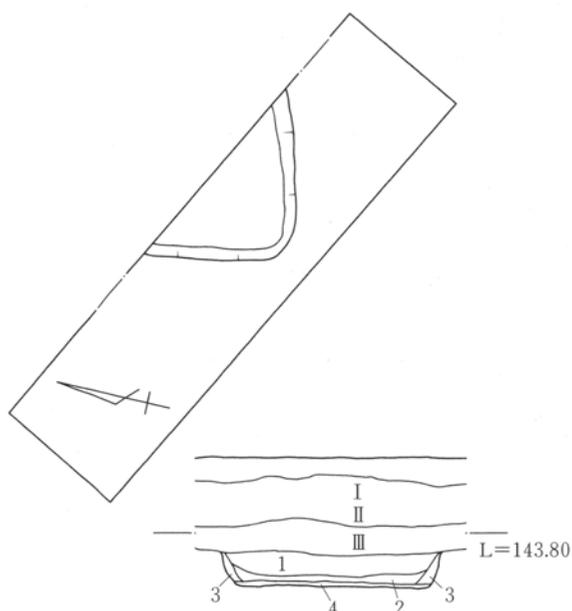
住居の位置は6区調査区と7区調査区間の中程、6区～7区1号住居の東、X=46,016～46,017、Y=-73,202～73,203に位置する。他遺構との重複関係は確認されなかった。また、調査した範囲も南西角部分だけのため詳細は不明である。平面形態は矩形を呈すると想定される。規模については計測可能な箇所は存在しなかった。壁高は50cm前後である。主軸方位は東よりやや北を指すとみられる。

内部施設は調査範囲ではカマドや貯蔵穴、柱穴、周溝とも確認されなかった。床面は地山をそのまま踏み固めて硬化面として使用されていた。

埋没状態土層断面観察で壁際に僅かな流れ込みが観察された他はレンズ状に近い水平堆積が観察されることから自然堆積である。

出土遺物は土師器の小片が僅かに出土しているが、図示可能な破片は出土していない。

本住居の存続期間は出土遺物などから8世紀前半代に比定される。



6区～7区2号住居

- 1 黒褐色土 As-Cを多くと焼土粒を含む。
- 2 黒褐色土 As-Cと焼土粒を含む。
- 3 黒色土 IVブロックを多く含む。
- 4 黒褐色土 床面、上面は硬く踏みしめられている。

0 1:60 1m

38図 6～7区2号住居遺構図

## 土坑

奈良・平安時代の土坑は1区6基、4区1基、6区15基、7区7基の計29基を確認した。そのうち特出する土坑としては次のものがある。

4区1号土坑は東側を民家の排水管敷設によって欠くが、径94×84cmの楕円形の掘り込みに径17~30cmの円礫を中心に集められた遺構である。集積された礫は粗粒輝石安山岩、石英閃緑岩、ひん岩、溶結凝灰岩、二ッ岳軽石などが存在した。また、この土

坑の底面からは須恵器甕片が出土しており、埋没土と出土土器から古代に比定した。

6区7号土坑、9号土坑、18号土坑は形態や規模に差が見られるが、出土遺物は僅かに混在したとみられる遺物も存在するが大部分は8世紀第1四半期代のものであった。また、出土土器の器種も土師器杯、須恵器杯蓋・杯身などの食膳具が主体であり、廃棄を目的としただけの土坑とは想定できないが性格を明確にする材料も存在していない。

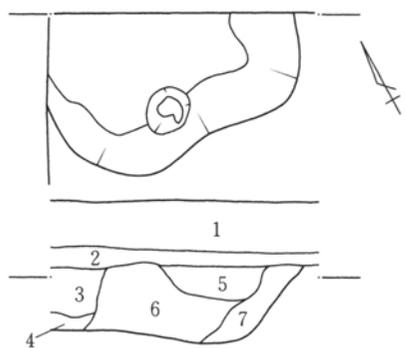
1表 奈良・平安時代 土坑表

土坑NO.	重複関係(区省略)	平面形態	断面形態	長軸	短軸	深度	出土遺物	摘要
1区1号土坑		不整形	逆台形	(134)	(87)	27	土師器甕	
1区3号土坑		矩形	逆台形	(122)	(73)	22	土師器・須恵器、釘	
1区4号土坑	←9号土坑	楕円形	逆台形	170	120	23	土師器杯、須恵器甕	8世紀中葉
1区5号土坑		矩形	逆台形	(81)	(32)	20		
1区8号土坑	→11号土坑	不整形	逆台形	112	119	41		
1区9号土坑	→4号土坑、10号土坑	不整形	逆台形	(139)	(101)	(20)	土師器甕、須恵器甕	
4区1号土坑		楕円形	逆台形	(94)	(85)	23	須恵器甕	集石
6区2号土坑	→1号土坑	楕円形	逆台形	(41)	35	22	土師器甕	
6区3号土坑		楕円形	U字状	(40)	66	56	土師器杯	
6区5号土坑		楕円形	逆台形	(99)	82	25	土師器杯・甕	
6区6号土坑		楕円形	逆台形	65	(26)	9	土師器杯	
6区7号土坑	←15号土坑、→4号土坑	楕円形	逆台形	119	105	44	土師器杯・甕、須恵器	8世紀第1四半期
6区9号土坑		楕円形	逆台形	(117)	105	35	土師器・須恵器	8世紀第1四半期
6区10号土坑	←2号住居	溝状	逆台形	(200)	86	65	土師器杯	
6区11号土坑	←17号土坑	楕円形	U字状	(77)	(77)	72	土師器杯	
6区12号土坑								2号住居に変更
6区13号土坑	←1号溝	楕円形	逆台形	96	92	14	土師器甕、須恵器甕	
6区14号土坑	→4号土坑	楕円形	逆台形	105	76	75		
6区15号土坑		楕円形	逆台形	(50)	63	40	土師器甕	
6区16号土坑	→17・20号土坑	不整形	緩い落込	(234)	(193)	19	土師器甕	
6区17号土坑	←20号土坑、→11号土坑	楕円形	テラス有	(181)	75	60	土師器・須恵器多い	8世紀中葉
6区18号土坑		楕円形	テラス有	(314)	(163)	80	土師器・須恵器多い	8世紀第1四半期
6区20号土坑	←16号土坑	楕円形	逆台形	(65)	(49)	15	土師器杯	
7区1号土坑		L字状	アグリ有	(150)	131	91	土師器杯	8世紀第1四半期
7区2号土坑		円形	逆台形	70	68	16	土師器甕、須恵器甕	
7区3号土坑		隅円方形	中央小孔	117	(105)	72	土師器、灰釉陶器	9世紀前半
7区4号土坑		楕円形	中央小孔	(87)	126	76	土師器・須恵器	10世紀代?
7区5号土坑		楕円形	テラス有	42	35	31	土師器杯	
7区6号土坑	←1号溝、2号住居	楕円形	逆台形	(49)	(61)	48		
7区7号土坑		楕円形	箱形	76	55	81	土師器甕	8世紀中葉

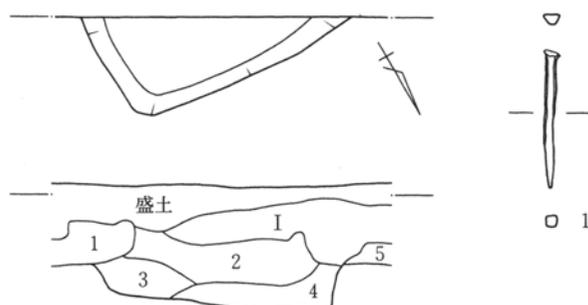
←旧、→新

単位 cm

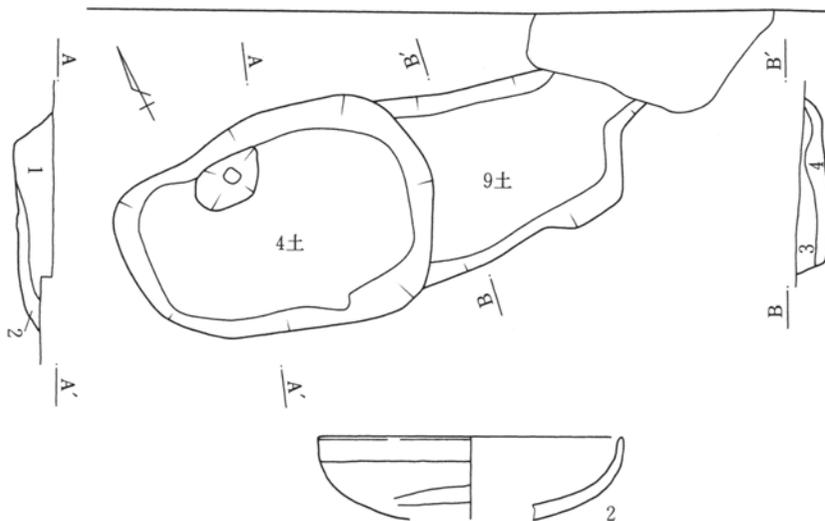
1区1号土坑



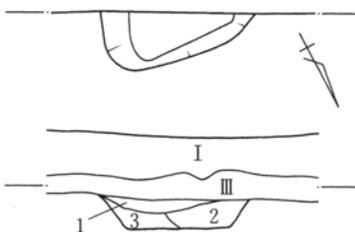
1区3号土坑



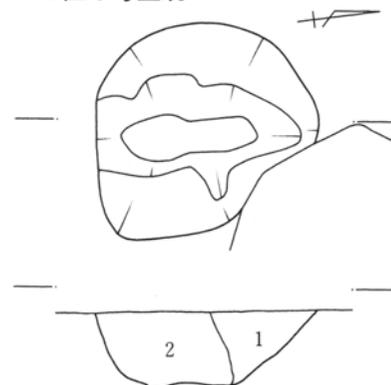
1区4号土坑・9号土坑



1区5号土坑



1区8号土坑



1区1号土坑

- 1 盛土
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 粘性あり、水成堆積のような土。褐色粒1%含む。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 褐色土主体、IVが30~40%含む。
- 4 黒褐色土(10YR3/1) IVと同様、Vはほとんどない。
- 5 黒褐色土(10YR3/2) IV主体、褐色土ブロックを20~30%含む。
- 6 褐色土(10YR4/4) IVブロックを30%含む。
- 7 VIとVIIの流れ込み。

1区4号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2) IIIに類似、As-Cを3%含む。
- 2 褐色土(10YR4/4) IIIとIVの混合土。Vブロックを20%含む。

1区9号土坑

- 3 黒褐色土(10YR3/2) IIIに類似、As-Cを3%含む。
- 4 褐色土(10YR4/4) IIIとIVの混合土。Vブロックを10%含む。

1区8号土坑

- 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3) VIとIIIの混合土。VIブロック20%を含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2) 1に近似、1よりVIが多いか。IVブロックを30%とVIブロックを10%を含む。

1区3号土坑

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2) IIとIIIの混合土。As-Cを3%含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 3と4の混合土、Vブロックを10%含む。
- 3 黒褐色土(10YR2/2) 4に類似、4よりVブロックを多く含む。
- 4 黒褐色土(10YR3/1) ロームブロック、軽石を僅かに含む。
- 5 灰黄褐色土(10YR4/2) 灰黄褐色砂、Vブロックを含む。

1区5号土坑

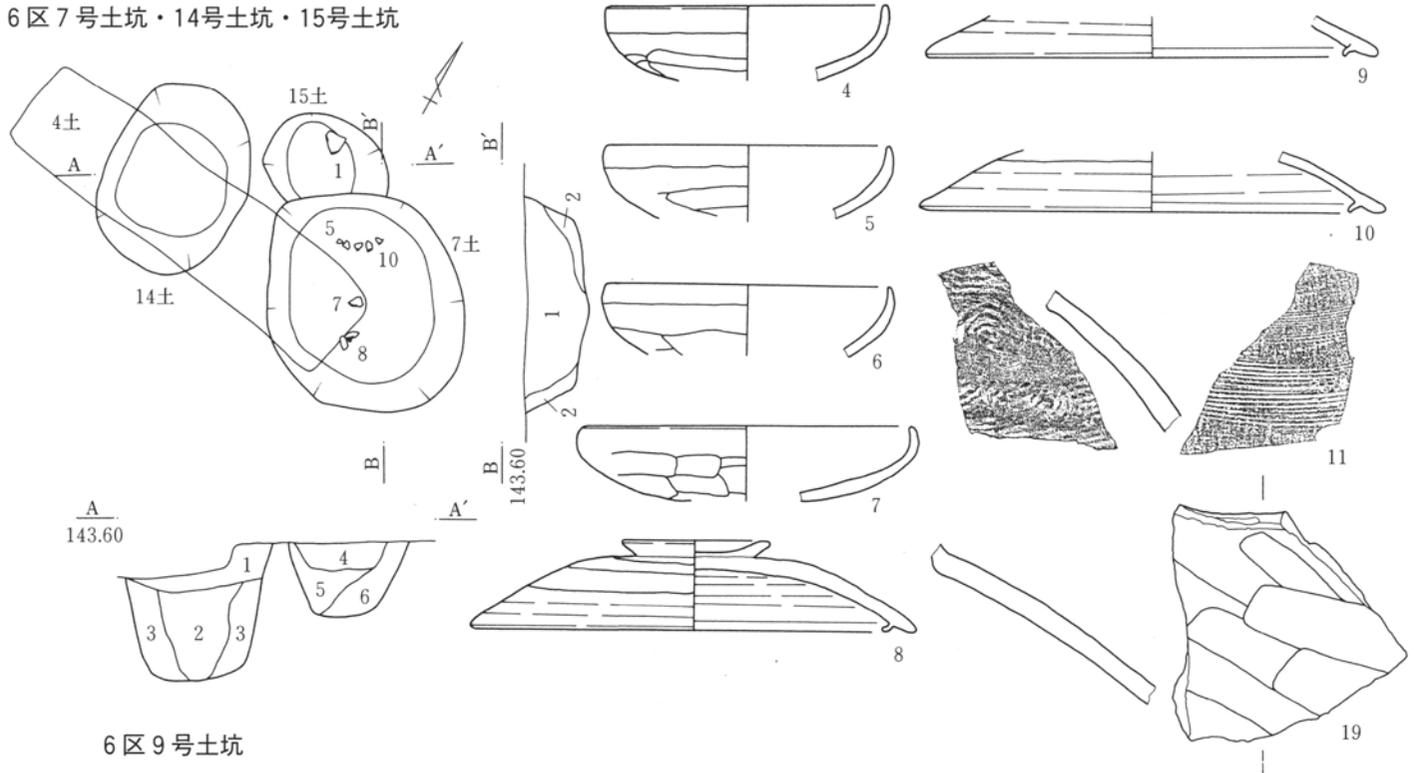
- 1 黒褐色土(10YR3/2) III主体、IIが20%混入。As-C他2%を含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) IIIに類似、VIの小ブロック10%とAs-Cを1%を含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) VIとIIIの混合土。VIブロックを10~20%含む。

39図 1区1号、3~5号、8号、9号土坑遺構図・遺物図

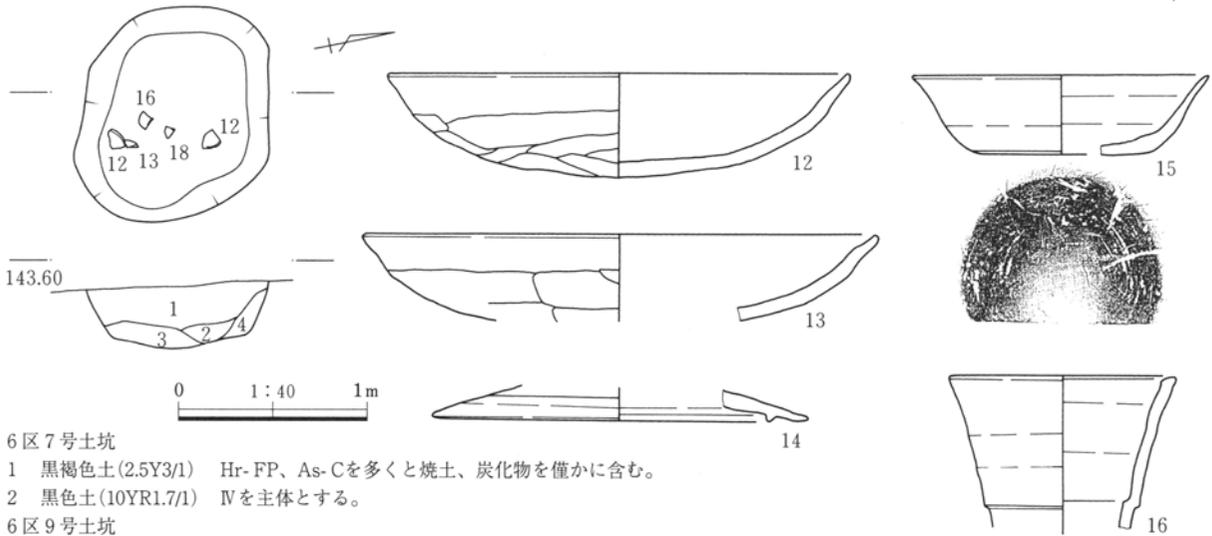


40図 4区1号土坑、6区2号、3号、5号、6号、10号、11号土坑遺構図・遺物図

6区7号土坑・14号土坑・15号土坑



6区9号土坑



6区7号土坑

- 1 黒褐色土(2.5Y3/1) Hr-FP、As-Cを多くと焼土、炭化物を僅かに含む。
- 2 黒色土(10YR1.7/1) IVを主体とする。

6区9号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) III主体、IVブロックを10%含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) IIIとIVの混合土。
- 3 黒褐色土(10YR2/2) IIIとIVの混合土、2よりIVの割合が多い。
- 4 黒褐色土(10YR2/2) 3に類似、IVが主体。

6区14号土坑

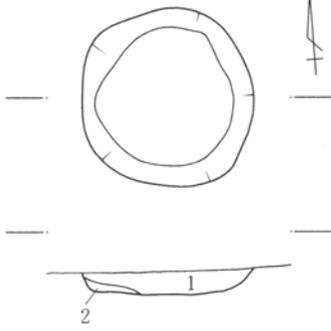
- 1 暗褐色土(10YR3/3) IIIに近似、VIブロックを5%と焼土を1%含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1) IV主体、V(黒色土)が混入。VIブロックを20%含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/1) 2と同様、2よりVが多いためか黒味が強い。VIブロックを20~30%含む。

6区15号土坑

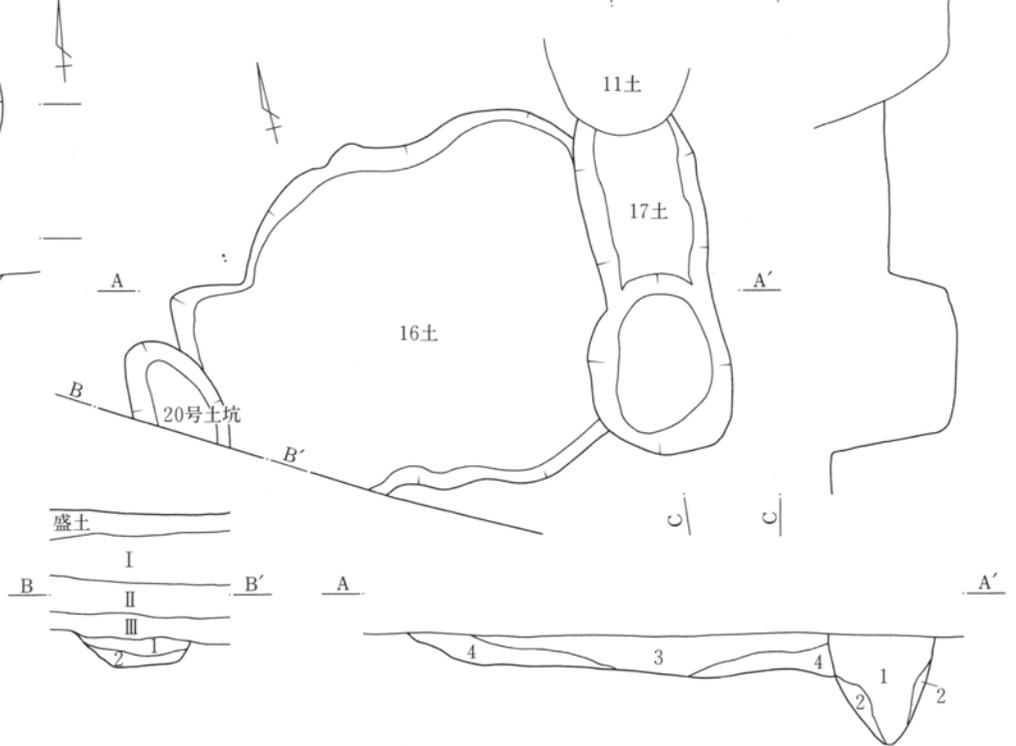
- 4 暗褐色土(10YR3/3) IIIに近似、VIブロックを5%含む。
- 5 黒褐色土(10YR3/1) IV主体、V(黒色土)が混入。VIブロックを20%含む。
- 6 黒褐色土(10YR3/1) 5と同様、VIブロックを20~30%含む。

41図 6区7号、9号、14号、15号土坑遺構図・遺物図

6区13号土坑



6区16号土坑・17号土坑・20号土坑



6区13号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2) IIIとIVの混合土、VIブロックを5%含む。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) VIの崩落土、IVが混入。

6区16号土坑

- 3 暗褐色土(10YR3/3) III主体、IVブロックを10%含む。
- 4 黒褐色土(10YR3/2) IIIとIVの混合土、VIブロックを20%含む。

6区17号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) IIIに類似、IVが混入。As-Cを1%含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) IIIとIVの混合土、As-Cを1%含む。

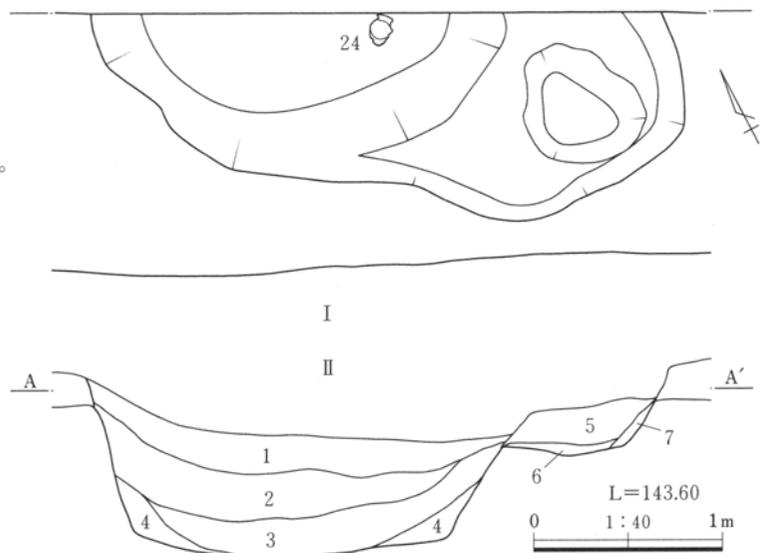
6区18号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) III主体、IVが混入。IVブロックを5%とAs-Cを3%含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 1に類似、1よりAs-Cを5%と多く含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/4) 1・2に類似、As-Cの含有量は1%と少ない。
- 4 暗褐色土(10YR3/4) 砂質土、VIブロックを5%含む。
- 5 黒褐色土(10YR3/2) IIIとIVの混合土、As-Cを1%とIVブロックを5%含む。
- 6 褐色土(10YR4/4) 5とVIの混合土、VIブロックを5%含む。
- 7 黒褐色土(10YR2/2) IVの流れ込み、IIIが混入。

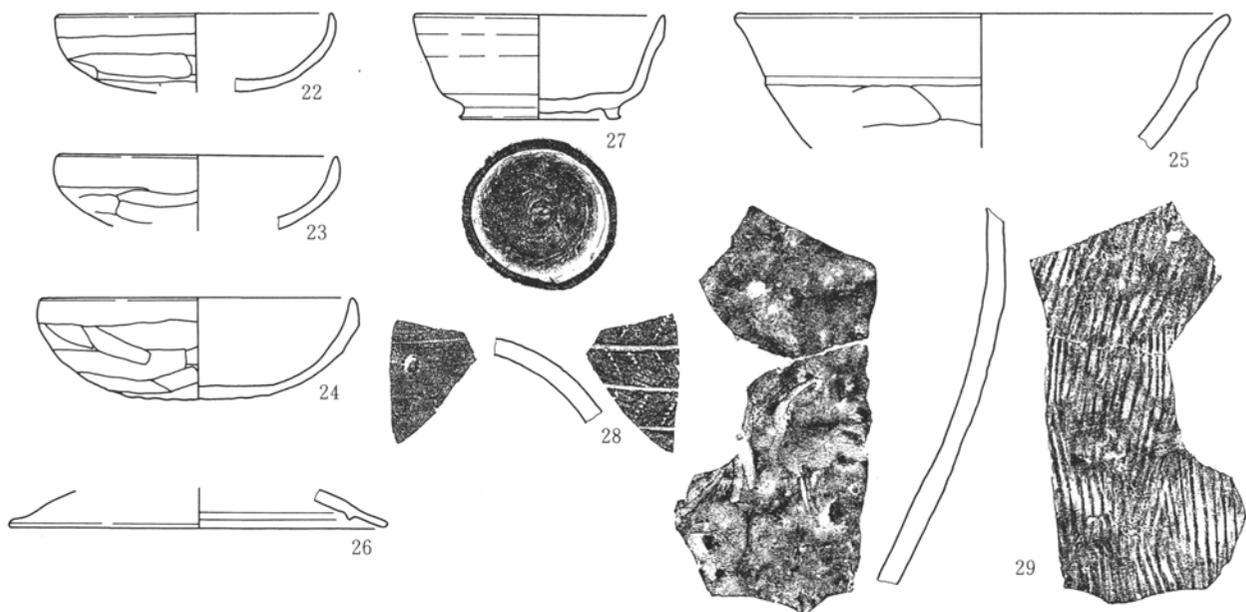
6区20号土坑

- 1 黒色土(2.5Y2/1) As-Cを僅かに含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) As-Cを極少量含む。

6区18号土坑

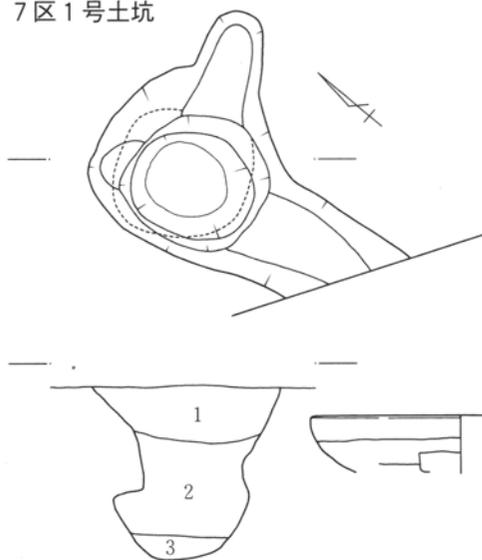


42図 6区13号、16～18号、20号土坑遺構図・遺物図

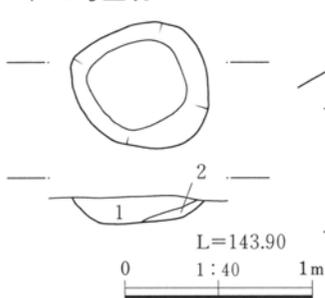


43図 6区18号土坑遺物図

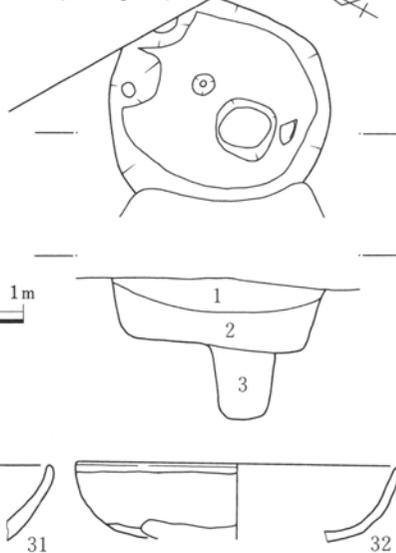
7区1号土坑



7区2号土坑



7区3号土坑



7区1号土坑

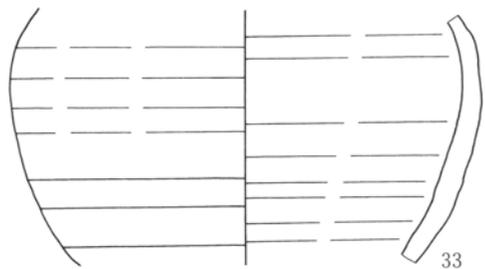
- 1 黒褐色土(10YR3/2) Vが混入、As-Cを5%含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) IVに類似、As-Cを2~3%含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/1) 2に類似、φ1~2cmのVブロックを10%含む。

7区2号土坑

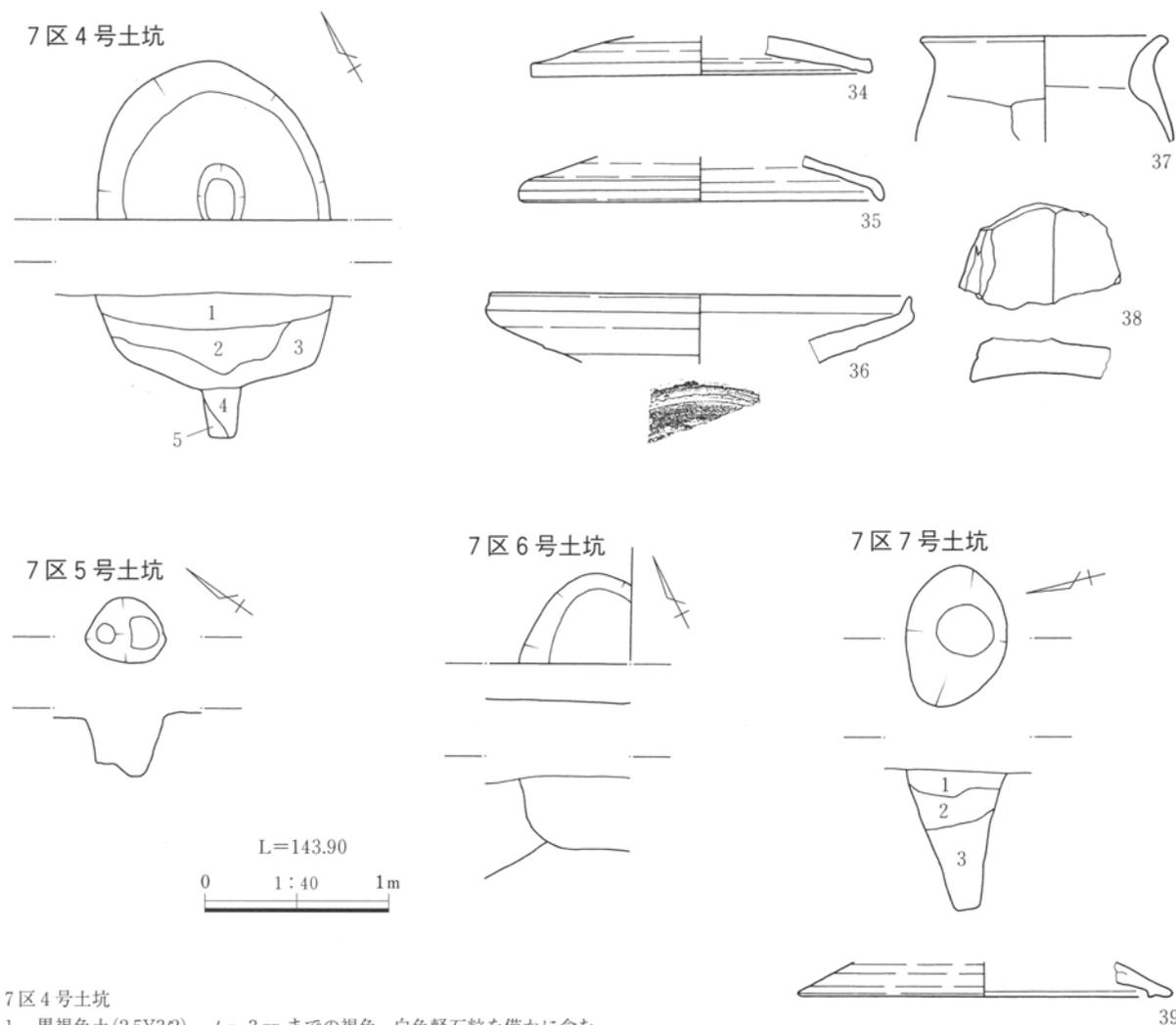
- 1 灰黄褐色土(10YR4/2) IIIに類似、As-Cを3%含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1) IVの流れ込みか、As-Cを5%含む。

7区3号土坑

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2) IIIに近似、As-Cを5%含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) IIIとVの混合土、As-Cを5%含む。
- 3 黒褐色土(10YR2/2) III主体、φ1~3cmのVブロックを10%含む。



44図 7区1~3号土坑遺構図・遺物図



7区4号土坑

- 1 黒褐色土(2.5Y3/2)  $\phi \sim 3$  mm までの褐色、白色軽石粒を僅かに含む。
- 2 黒褐色土(2.5Y3/1) 1に $\phi \sim 10$ mm までの炭化物粒を若干含む。
- 3 黒褐色土(2.5Y3/1) 2にVが混入。
- 4 黒色土(5Y2/1)
- 5 黒色土(5Y2/1)

7区7号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2)  $\phi \sim 5$  mm の白色・褐色軽石粒を5%含む。
- 2 黒褐色土(2.5Y3/2) 砂質土に近い、テフラを僅かに含む。
- 3 黒褐色土(2.5Y3/1) 混入物はみられない。

7区6号土坑

- 1 黒褐色土(2.5Y3/2) IVとVの混合土、6号土坑覆土

45図 7区4～7号土坑遺構図・遺物図

土坑

No PL	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1 29	鉄器 釘	1区3土1 完形	長 3.7 幅 0.4 厚 0.3		断面は矩形を呈す。	
2 29	土師器 杯	1区4土1 口縁部片	口 12.0 高 (3.3)	細砂粒/良好/橙	口縁部上半は横ナデ、下半はナデ、底部はヘラ削り。	
3	須恵器 甕	4区1土1 頸部片		粗砂粒/還元焰/灰	胴部と口縁部は頸部で接合。内外面ともナデ。	
4	土師器 杯	6区7土1 口縁部片	口 11.2	細砂粒/良好/褐灰	口縁部上位は横ナデ、中位はナデ、下位から底部はヘラ削り。	
5	土師器 杯	6区7土2 口縁部片	口 11.3	細砂粒/良好/橙	口縁部上位は横ナデ、中位はナデ、下位は横方向のヘラ削り。	
6	土師器 杯	6区7土3 口縁部片	口 11.4	細砂粒/良好/橙	口縁部上位は横ナデ、中位はナデ、下位は横方向のヘラ削り。	
7	土師器 杯	6区7土4 口縁部片	口 13.2 高 (3.0)	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部上位は横ナデ、中位はナデ、下位から底部はヘラ削り。	

No PL	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎土 / 焼成 / 色調	成形・整形の特徴	摘 要
8 29	須恵器 杯蓋	6区7土5 1/2	□ 17.8 摘 5.6 高 3.6	細砂粒 / 還元焰 / 灰	ロクロ整形、回転右回り。摘は貼付、カエリは引き出し。天井部中央部は回転ヘラ削り。	
9	須恵器 杯蓋	6区7土6 口縁部小片	□ 17.8	細砂粒 / 還元焰 / 灰	ロクロ整形、回転右回りか。カエリは引き出し。	
10 29	須恵器 杯蓋	6区7土7 口縁部片	□ 18.4	細砂粒 / 還元焰 / 黄灰	ロクロ整形、回転右回りか。カエリは引き出し。天井部中央部は回転ヘラ削り。	
11	須恵器 甕	6区7土8 胴部片		細砂粒 / 還元焰 / 灰	ロクロ整形、回転右回りか。外面はカキ目、内面は同心円状アテ具痕が残る。	
12 29	土師器 杯	6区9土1 1/3	□ 18.4 高 4.1	細砂粒 / 良好 / 橙	口縁部上半は横ナデ、下半から底部はヘラ削り。	
13	土師器 杯	6区9土2 1/6	□ 20.4	細砂粒 / 良好 / 橙	口縁部上半は横ナデ、下半から底部はヘラ削り。	
14	須恵器 杯蓋	6区9土3 口縁部小片	□ 17.8 摘 5.6 高 3.6	細砂粒 / 還元焰 / 灰	ロクロ整形、回転右回り。摘は貼付、カエリは引き出し。天井部中央部は回転ヘラ削り。	
15 29	須恵器 杯身	6区9土4 1/3	□ 11.6 底 7.0 高 3.2	細砂粒 / 還元焰 / 灰褐	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
16 30	須恵器 長頸壺	6区9土5 口縁部	□ 8.8	細砂粒 / 還元焰 / 灰	ロクロ整形、回転右回りか。	
17	土師器 甕	6区9土6 口縁部	□ 26.6	細砂粒 / 良好 / にぶい橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
18	軟質陶器 鍋	6区9土7 口縁部	□ 25.0	細砂粒 / 酸化焰燻 / 黒	口縁部横ナデ、胴部は縦方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	混入品
19	土師器 甕	6区15土1 胴部上位片		細砂粒 / 良好 / 明赤褐	外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。	
20	須恵器 杯蓋	6区17土1 天井部片		細砂粒・黒斑 / 還元焰 / 灰	ロクロ整形、回転右回りか。天井部中央部は回転ヘラ削り。外面に自然釉が付着。	
21	須恵器 甕	6区17土2 底部小片	底 16.6	細砂粒 / 還元焰 / 灰	胴部には平行叩き痕が残る。内面に自然釉が付着。	
22 30	土師器 杯	6区18土1 1/3	□ 10.8 高 (3.1)	細砂粒 / 良好 / 橙	口唇部は横ナデ、口縁部から底部はヘラ削り。	
23	土師器 杯	6区18土2 口縁部片	□ 10.8	細砂粒 / 良好 / 橙	口縁部上半は横ナデ、下半はヘラ削り。	
24 30	土師器 杯	6区18土3 2/3	□ 12.2 高 3.9	細砂粒 / 良好 / 橙	口縁部上半は横ナデ、下半から底部はヘラ削り。	
25	土師器 椀	6区18土4 口縁部片	□ 19.4	細砂粒 / 良好 / 橙	口縁部上半は横ナデ、下半はヘラ削り。	
26	須恵器 杯蓋	6区18土5 口縁部小片	□ 14.6	細砂粒 / 還元焰 / 灰	ロクロ整形、回転右回りか。	
27 30	須恵器 杯身	6区18土6 1/2	□ 9.8 底 7.6 高 4.1	細砂粒 / 還元焰 / 暗灰褐	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。高台は貼付。口縁部下位は回転ヘラ削り。	
28	須恵器 長頸壺	6区18土7 胴部片		細砂粒 / 還元焰 / 黄灰	ロクロ整形。胴部には区画凹線の中に指突文が施文。	
29	須恵器 甕	6区18土8 胴部片		細砂粒 / 還元焰 / 黄灰	外面は平行叩き痕が残る。内面はナデ。	
30	土師器 杯	7区1土1 口縁部片	□ 11.6	細砂粒 / 良好 / 橙	口縁部上半は横ナデ、下半はヘラ削り。	
31	土師器 杯	7区3土1 口縁部片	□ 12.4	細砂粒 / 良好 / 橙	口唇部は横ナデ、口縁部はヘラ削り。	
32	土師器 杯	7区3土2 1/8	□ 12.6 底 10.2	細砂粒 / 良好 / 明赤褐	口唇部は横ナデ、口縁部はナデ。底部はヘラ削り。	
33 30	灰釉陶器 長頸壺	7区3土3 胴部片	胴径 18.4	微砂粒 / 還元焰 / 灰	ロクロ整形、回転右回り。胴部下位は回転ヘラ削り。胴部には自然釉が付着。	井ヶ谷78号窯式期か
34	須恵器 杯蓋	7区4土1 口縁部片	□ 13.8	細砂粒 / 還元焰 / 灰	ロクロ整形、回転右回り。天井部中央部は回転ヘラ削り。	
35	須恵器 杯蓋	7区4土2 口縁部片	□ 14.8	細砂粒 / 還元焰 / 灰	ロクロ整形、回転右回り。天井部中央部は回転ヘラ削り。	
36	須恵器 高盤	7区4土3 口縁部片	□ 17.0	粗砂粒 / 還元焰 / 灰	ロクロ整形、回転右回り。底面に脚部との接合のための凹線がみられる。	
37	土師器 甕	7区4土4 口~胴上位	□ 10.0	粗砂粒 / 良好 / 明赤褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
38	須恵器 甕	7区4土5 胴部片		粗砂粒 / 酸化焰 / 橙	胴部と口縁部は頸部で接合。内外面ともナデ。	
39	須恵器 杯蓋	7区7土1 口縁部片	□ 15.0	細砂粒 / 還元焰 / 灰	ロクロ整形、回転右回り。カエリは引き出し。	

溝

6区1号溝

本溝は6区調査区東寄り、X=46,001~46,003、Y=-72,179~72,180に位置する。他遺構との重複関係は6区13号土坑との重複が確認された。新旧関係は本溝のほうが古い。平面形態は緩い弧を描き幅に若干の凹凸をもつ。断面形態は浅い逆台形を呈する。規模は調査区内の全長が3.00m、幅0.50~0.70m、深度15~23cmを測る。走行はほぼ南北を指す。底面は緩い弧状を呈し、水が流れた痕跡等は観察されなかった。

埋没状態は調査区北壁断面の観察でレンズ状の堆積が観察できることから自然埋没である。

出土遺物はまったくみられなかった。本溝の存続期間は出土遺物が存在しないため明確ではないが、埋没土及び重複する13号土坑から古代に比定される。

7区1号溝

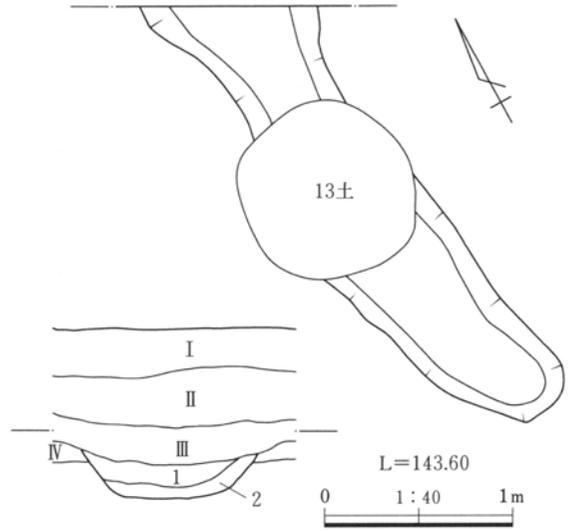
本溝は7区調査区東寄り、X=46,019~46,021、Y=-73,211~72,213に位置する。他遺構との重複関係は7区2号住居、7区6号土坑との重複が確認された。新旧関係は本溝のほうが2号住居より新しく、6号土坑より古い。平面形態は確認面では東側はほぼ直線であるが、西側は緩い弧を描く、断面形態は逆台形を呈する。規模は調査区内の全長2.70m、幅1.20~1.72m、深度76~82cmを測る。走行はほぼ東西を指す。底面は緩い弧状を呈し、水が流れた痕跡等は観察されなかった。

埋没状態は調査区北壁断面の観察でレンズ状の堆積が観察できることから自然埋没である。

出土遺物は土師器の小片が若干出土しているが、2号住居の存続年代より古い時期のものであることから本溝が埋没する過程での流れ込みと想定される。本溝の存続期間は本溝に伴う出土遺物が存在しないため明確ではないが、埋没土及び重複する2号住居や6号土坑から古代末に比定される。

7区1号溝

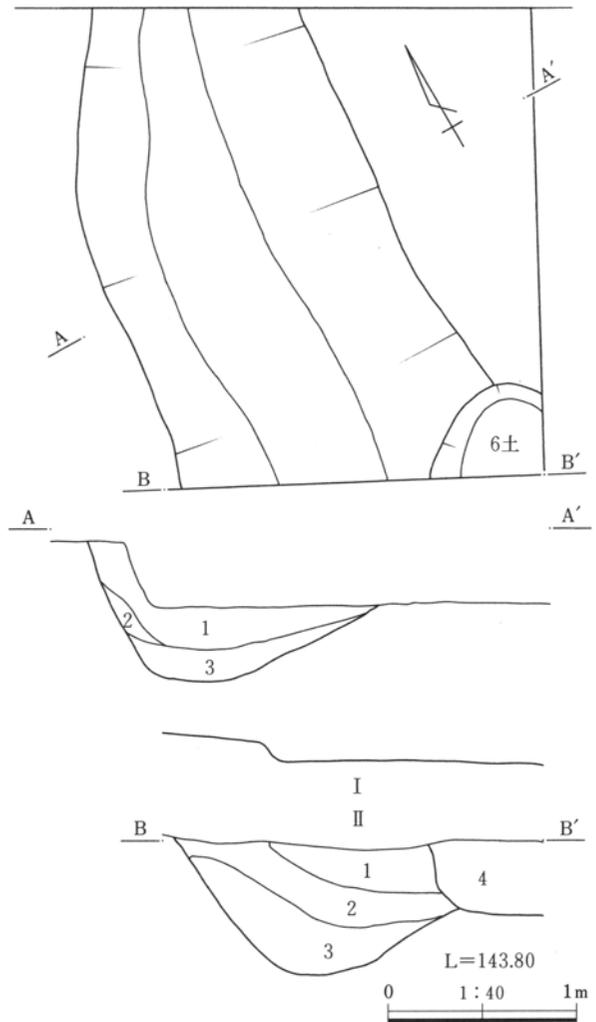
- 1 黒褐色土(2.5Y3/2) ϕ~10mmまでの軽石を僅かに含む。
- 2 黒褐色土(2.5Y3/2) ϕ~10mmまでの軽石を僅かに含む。
- 3 黒褐色土(2.5Y3/1) IVとVの混合土。



6区1号溝

- 1 黒褐色土(10YR3/2) III主体、IVが混入。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) IVとVの混合、VIブロックを10%含む。

46図 6区1号溝遺構図



47図 7区1号溝遺構図

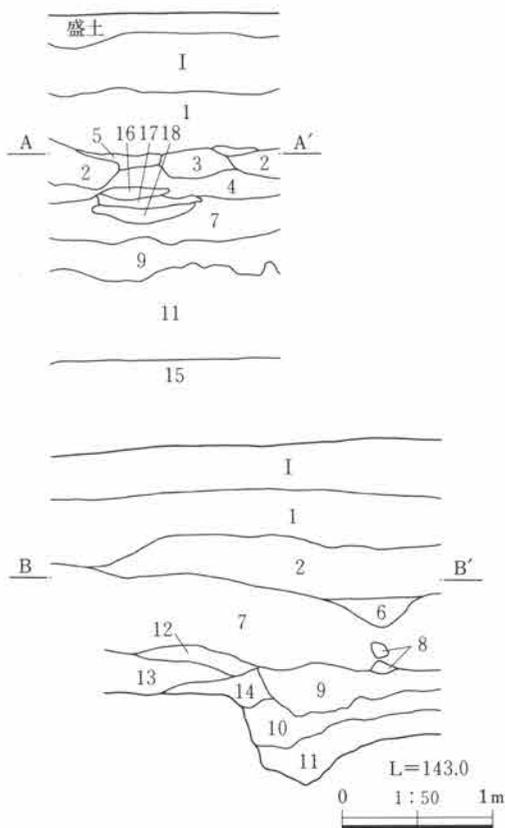
## 河道

遺跡地全域は縄文時代後期から弥生時代の間に来た洪水による土砂が1~1.5m前後堆積しているが、5区調査区から6区調査区東端にかけては平安時代中期の一時的な河道が検出された。この河道は4区調査区では検出されておらず、6区1号住居の東辺と北辺の上部で重複していた。河道の規模は明確ではないが河道幅6~7mと深度1~2mと推定される。

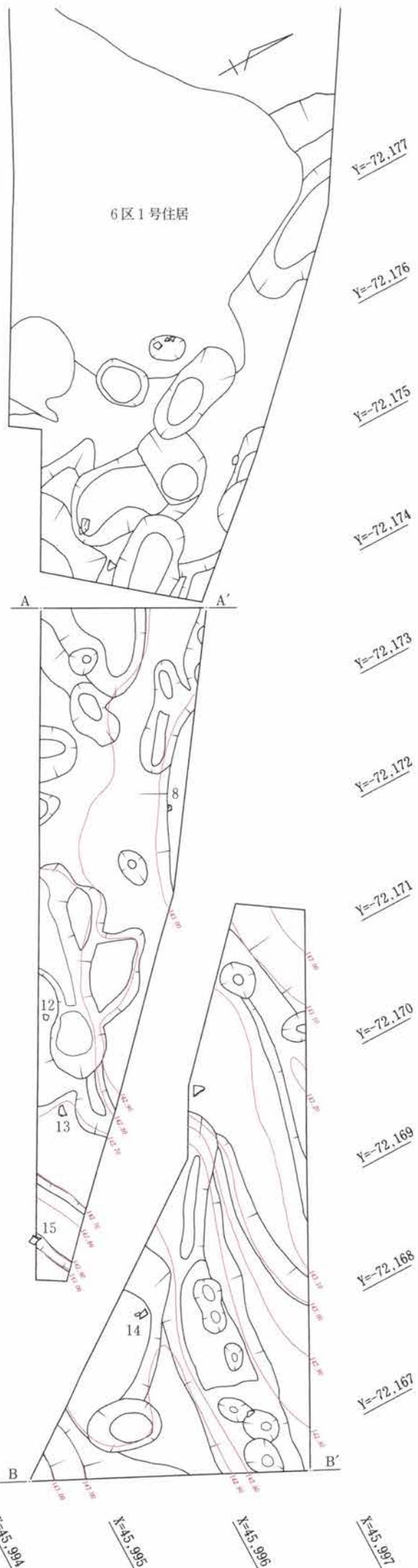
埋没土は砂を多く含んだ土が主体で大きなブロック状の土がみられることからこの河道を流れた水流が比較的多かったことが推定される。

出土遺物は8世紀~10世紀代の土師器、須恵器、灰釉陶器、鉄器・鉄製品などをみることができる。出土した破片の多くは小片であるが、器面や割れ口は現状が保たれており長い距離を流された様子は見られなかった。

この河道が存続した時期は出土遺物などから平安時代11世紀代の短時期であったと比定される。



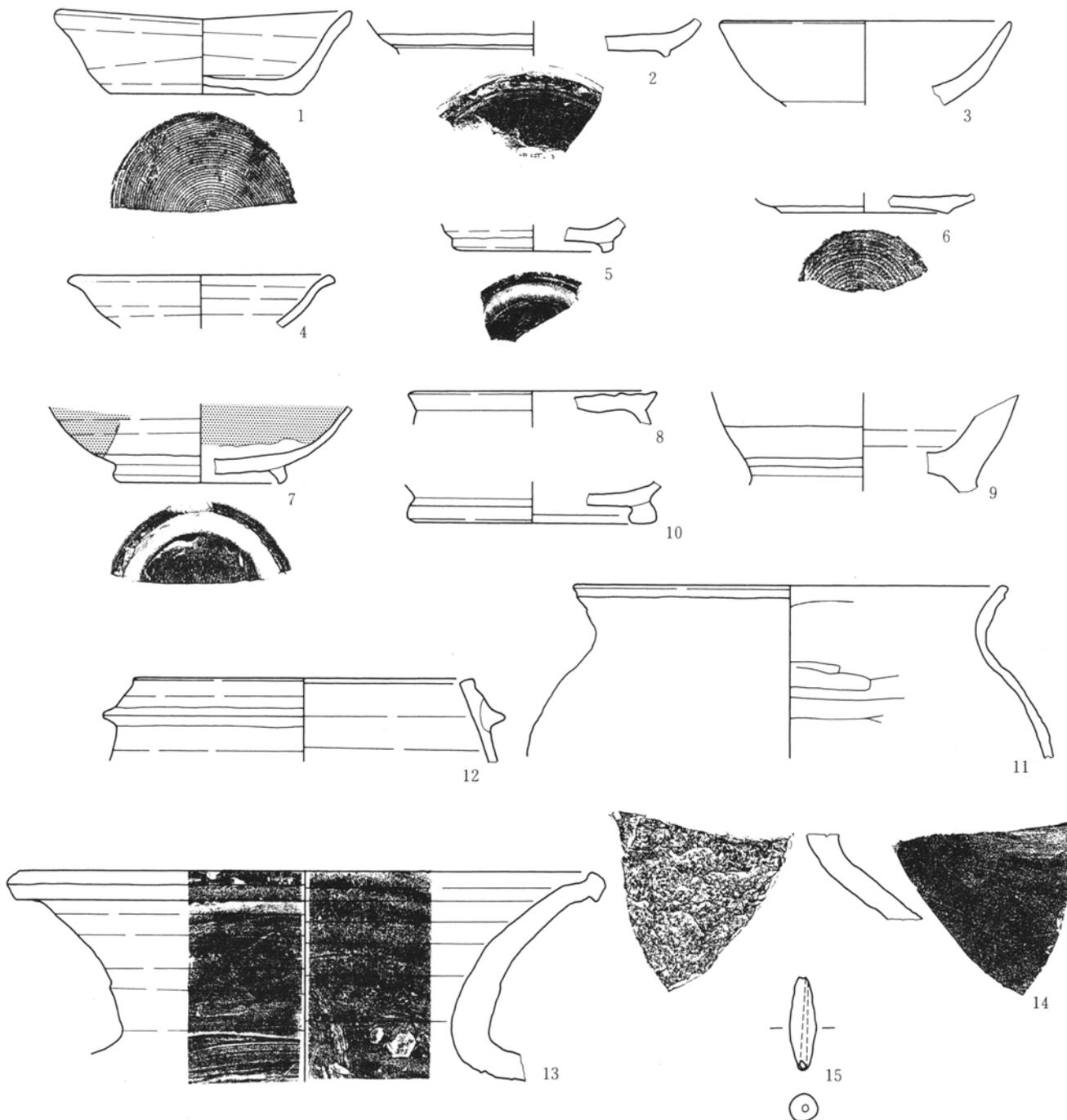
48図 5区・6区河道平面図・断面図



5区河道西壁・5区河道東壁

- 1 黒褐色土(10YR2/2) Ⅲに類似、As-Cを5%含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) 1に類似、As-Cを3%含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/1)  $\phi$  1 cmの円礫を10%、灰色砂ブロックを10%含む。
- 4 黒褐色土(10YR2/2) 主体は2と同様、 $\phi$  3~5 cmのVブロックを30%含む。
- 5 暗褐色土(10YR3/3) 1・2に類似、褐色砂を10%含む。
- 6 暗褐色土(10YR3/3) 5に類似、 $\phi$  1~2 cmの亜角礫を5%と灰色砂を10%含む。
- 7 黄褐色砂(10YR5/6) 灰黄色砂を20%と白色軽石?を1%含む。
- 8 灰黄褐色土(10YR4/2)  $\phi$  0.5~2 cmの円礫を20%と褐灰色砂を30%含む。

- 9 黒褐色土(10YR2/2) 黒褐色砂30%と白色粒、褐色粒1~2%を含む。
- 10 暗オリーブ砂(5Y4/3) 9が20~30%混入。
- 11 灰オリーブ砂(5Y5/3) 砂粒が $\phi$  0.5~1 mmと粗い。
- 12 黄褐色砂(10YR5/6) 7に類似、13が混入。
- 13 褐色砂(7.5YR4/4) 7が30~50%混入。
- 14 オリーブ黄色砂(7.5Y6/3)
- 15 オリーブ褐色土(2.5Y4/3) 固く締まった土、14のオリーブ黄色砂を20%含む。
- 16 にぶい褐色砂(10YR4/3)
- 17 暗褐色砂(10YR3/3)
- 18 暗褐色砂(10YR3/3) 7のブロック(1~2 cm)を10%含む。



49図 5区・6区河道遺物図(1)

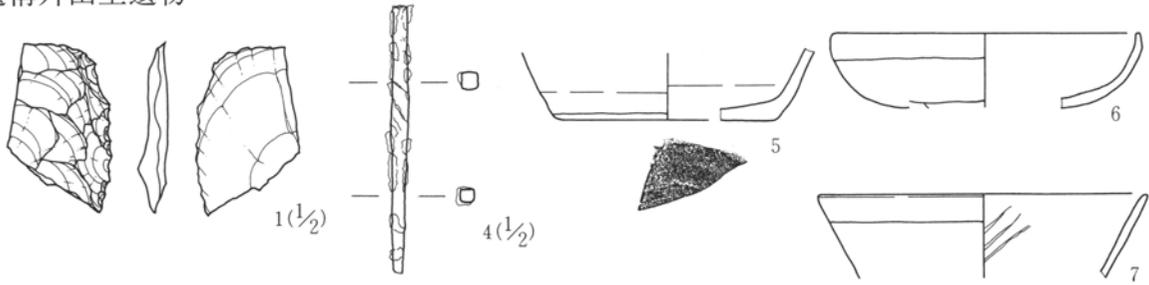


50図 5区・6区河道遺物図(2)

5区・6区河道

No PL	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1 30	須恵器 杯	6区 1/2	口 14.0 底 9.0 高 4.0	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。外面口縁部に自然釉が付着。	
2	須恵器 杯	5区 底部片	底 13.6	細砂粒/還元焰/ 灰オリーブ	ロクロ整形、回転右回り。底部回転ヘラ削り、高台は貼付。	
3	須恵器 椀	6区 口縁部片	口 13.8 底 8.2	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転右回りか。高台を有する形態。	
4	須恵器 椀	5区上層 口縁部片	口 12.4	細砂粒/還元焰燻 /黒褐	ロクロ整形、回転右回りか。	
5	須恵器 椀	5区 底部片	底 7.8	細砂粒/還元焰/ 黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
6	須恵器 皿	6区 底部片	底 8.0	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。	
7 30	灰釉陶器 椀	5区河床 底~口中位	底 8.2	緻密/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式期
8	須恵器 短頸壺蓋	5区河床 天井部片	鏝 12.0	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転右回り。鏝は貼付。天井部は回転ヘラ削り。	
9	須恵器 壺	胴下位片	底 11.0	細砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回りか。高台は貼付。胴部下位は回転ヘラ削り。自然釉が付着。	
10	灰釉陶器 長頸壺	6区 底部片	底 11.4	緻密/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付。	
11	土師器 甕	6区 口~胴上位	口 21.6	細砂粒・褐色粒/ 良好/明赤褐	口縁部は横ナデ、胴部の整形は器面剥落のため不明。	
12	須恵器 羽釜	口~胴上位	口 16.2 鏝 19.4	粗砂粒/還元焰/ 灰黄	ロクロ整形、回転右回りか。鏝は貼付。	
13 30	須恵器 甕	口縁部片	口 27.6	粗砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転右回りか。	
14	須恵器 甕	胴部片		粗砂粒/還元焰/ 青灰	外面はナデ、内面は器面が剥落のため不明。	
15 31	土製品 錘	ほぼ完形	長 4.5 幅 1.3 孔 0.2	細砂粒/良好/ 赤褐	表面はナデ。	
16 31	鉄器 門金具	5区 1/2	長 6.0 幅 2.5 厚 0.3		断面はやや丸みを持つ。	
17 31	鉄器 紡錘車	5区 一部欠損	径 4.1 厚 1.9 軸幅 0.3		軸部は断面矩形、上部2分の1以上欠損、下部はすべて欠損。	
18 31	鉄器 紡錘車	6区 軸部欠損	径 4.1 厚 0.9 軸幅 0.4		軸部は断面矩形。	
19 31	鉄器 不明	6区 一部片	長 4.3 幅 3.7 厚 0.5		板状片、用途不明。	
20 31	石器 打製石斧	6区 1/2	長 7.0 幅 3.6 厚 3.6 重 74	石材/黒色頁岩	上半を欠損。	
21 31	石器 剥片	6区 完形	長 5.5 幅 2.9 厚 1.0 重 17	石材/黒色頁岩		

遺構外出土遺物



51図 遺構外出土遺物図

遺構外出土

No PL	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1 31	石器 剥片石器	1区Ag 完形	長 4.5 幅 2.8 厚 0.8 重 9.0	石材/黒色頁岩	側面に刃部。	
2 31	石器 剥片	1区Ag 完形	長 1.7 幅 1.0 厚 0.2 重 0.4	石材/黒曜石		
3 31	石器 剥片	1区Bg 完形	長 2.4 幅 2.1 厚 0.4 重 1.2	石材/黒曜石		
4 31	鉄器 釘	1区 両端欠損	長 7.0 幅 0.5 厚 0.5		断面は矩形。紡錘車の軸、鎌の柄かも。	
5	須恵器 杯	6区 口下半~底	底 8.6	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転ヘラ削り。	
6	土師器 杯	7区 口~底片	口 12.0 底 9.2 高 (2.9)	細砂粒/良好/橙	口縁部上半は横ナデ、下半はナデ、底部は回転ヘラ削り。	
7	土師器 杯	7区 口縁部片	口 12.8	細砂粒/良好/ 明褐	口縁部上位は横ナデ、中位~下位はヘラ削り。内面には斜放射状暗文が施されている。	

3. 中世・近世

土坑

中世・近世の土坑は1区調査区16基、3区調査区8基、6区調査区3基を確認した。中世・近世の土坑は一部で陶磁器などが出土していることからその掘削時期について明らかにすることが可能であったが、大部分の土坑では出土遺物が皆無であったり、出土しても周囲からの流れ込みとみられる遺物が多くみられた。そのため時期の判断では埋没土の状態

が重要になり、特に埋没土中にAs-Bが混入しているか否かを判断の基準として重視した。

この時代の土坑では1区を中心にやや細長い矩形を呈するものが多く存在するが、これらは農耕用に掘削されたとみられる。この他の土坑はその性格を判断する資料が少なかった。特に3区の土坑群は上層を削平された可能性がたかいたため底面付近しか残存していない状態であった。

2表 中世・近世 土坑表

土坑NO.	重複関係	平面形態	断面形態	長軸	短軸	深度	出土遺物	摘要
1区2号土坑		長方形	箱形	(176)	50	40	土師器・須恵器、陶器	
1区6号土坑		不整形	U字状	69	55	32		
1区7号土坑		鍵形	段有逆台形	(167)	85	19	土師器・須恵器、陶器	
1区10号土坑	←9号土坑	不整形	逆台形	(129)	(75)	25	土師器	
1区11号土坑	←8号土坑	矩形	逆台形	115	(61)	20		
1区12号土坑		長方形	箱形	(209)	67	38	土師器・須恵器	
1区13号土坑		長方形	箱形	(191)	79	51		
1区14号土坑	←15号土坑	溝状	V字状	(99)	66	10		
1区15号土坑	→14号土坑	長方形	箱形	(135)	60	18		
1区16号土坑		楕円形	逆台形	35	(15)	13		

←は旧、→は新を表示

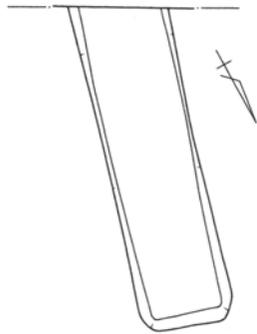
単位 cm

土坑NO.	重複関係	平面形態	断面形態	長軸	短軸	深度	出土遺物	摘要
3区1号土坑		楕円形	テラス有	70	61	37		
3区2号土坑		円形	逆台形	69	(37)	22		
3区3号土坑		楕円形	逆台形	49	44	30		
3区4号土坑		楕円形	テラス有	57	37	14		
3区5号土坑		不整形	逆台形	69	(31)	13		
3区6号土坑		楕円形	逆台形	91	(49)	28		
3区7号土坑		楕円形	U字状	(29)	26	22		
3区8号土坑		不整円形	逆台形	(68)	96	16		
6区1号土坑	←2号土坑	円形	逆台形	83	77	42		
6区4号土坑	←7号土坑、14号土坑	長方形	逆台形	212	54	15	土師器・須恵器、陶器	
6区8号土坑		長方形	逆台形	150	79	27	土師器・須恵器、陶器	

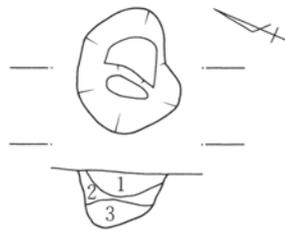
←は旧、→は新を表示

単位 cm

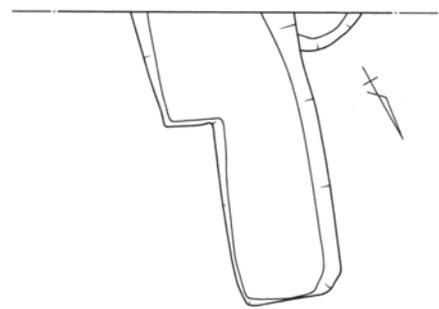
1区2号土坑



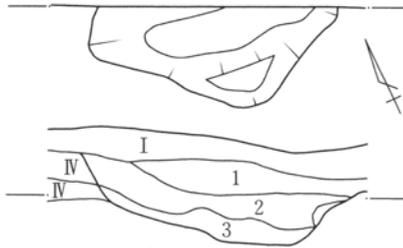
1区6号土坑



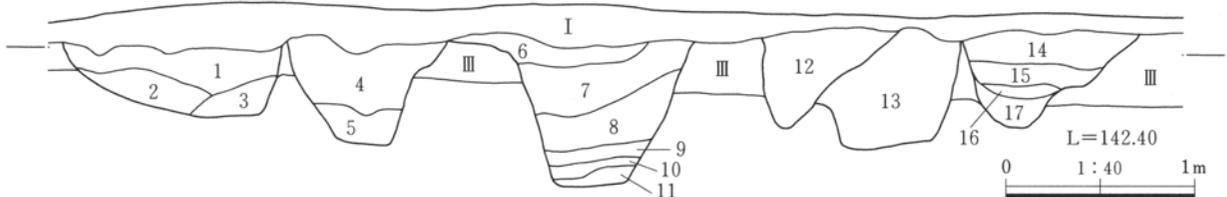
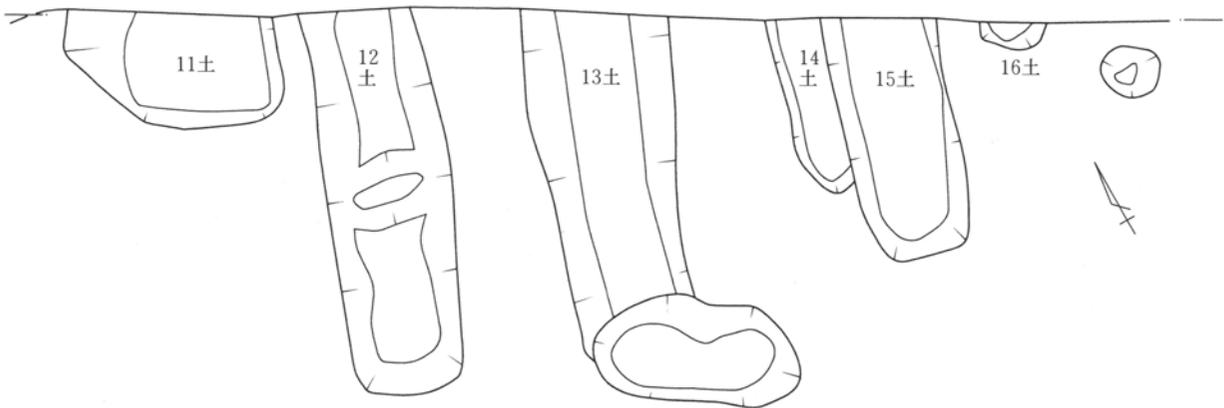
1区7号土坑



1区10号土坑



1区11~16号土坑



52図 1区2号、6号、7号、10~16号土坑遺構図

- 1区2号土坑  
 1 黒褐色土(10YR3/2) IV主体、灰黄褐色土ブロックを30%含む。  
 2 灰黄褐色土(10YR4/2) 灰黄褐色砂、Vブロックを含む。  
 3 灰黄褐色土(10YR4/2) II主体、Vブロックを10%含む。

- 1区6号土坑  
 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3) I・IIの混合土にIVブロックを20%含む。  
 2 褐色土(10YR4/4) VIにIVが20%混入。  
 3 黒褐色土(10YR3/1) IVと同様、VIブロックを10%含む。

- 1区7号土坑  
 1 暗褐色土(10YR3/3) IIIにVIが混入か、As-Cを5%含む。  
 2 黒褐色土(10YR3/2) III主体、I・IIが20%混入。As-Cを1~2%含む。  
 3 黒褐色土(10YR2/2) IIIとIVの混合土、As-Cを2%含む。  
 4 褐色土(10YR4/4) VI主体、黒褐色土が10%混入。

- 1区10号土坑  
 1 暗褐色土(10YR3/3) IIIにVIが混入か、As-C5%を含む。  
 2 黒褐色土(10YR3/2) III主体、I・IIが20%混入。As-Cを1~2%含む。  
 3 黒褐色土(10YR2/2) IIIとIVの混合土、As-Cを2%含む。

- 1区11号土坑  
 1 暗褐色土(10YR3/3) II・III・IVの混合土。  
 2 暗褐色土(10YR3/4) 1と同じだがややVが多く混入。  
 3 黒褐色土(10YR3/2) Vがまだらに混じる。

- 1区12号土坑  
 4 暗褐色土(10YR3/3) II・III・IVの混合土。  
 5 黒褐色土(10YR2/2) Vが若干混入。

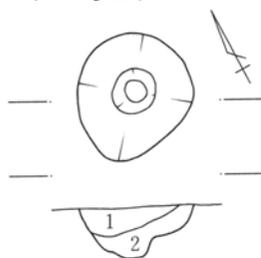
- 1区13号土坑  
 6 暗褐色土(10YR3/3) II・III・IVの混合土。  
 7 黒褐色土(2.5Y3/1) IIIとIVが混入。  
 8 暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3) 黒褐色土をまばらに含む。  
 9 黒褐色土(2.5Y3/2)  $\phi$ 15mmまでの礫を含む。  
 10 黒褐色土(2.5Y3/2) 9に類似。  
 11 黒色土(2.5Y2/1) 9・10に類似、 $\phi$ 15mmまでの礫を少し含む。

- 1区14号土坑  
 12 暗褐色土(10YR3/3) II・III・IVの混合土。

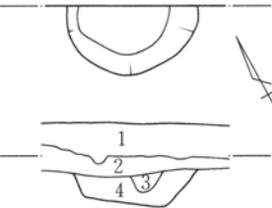
- 1区15号土坑  
 13 暗褐色土(10YR3/3) II・III・IVの混合土。

- 1区16号土坑  
 14 暗褐色土(10YR3/3) II・III・IVの混合土。  
 15 暗褐色土(10YR3/3) II・III・IVの混合土、Vブロックを含む。  
 16 暗褐色土(10YR3/4) 1と同じだがややVが混入。  
 17 黒褐色土(2.5Y3/1) Vが混入、 $\phi$ 15mmまでの礫を含む。

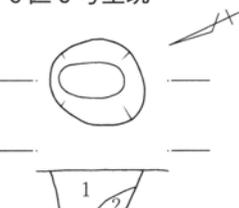
3区1号土坑



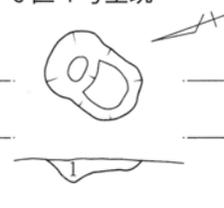
3区2号土坑



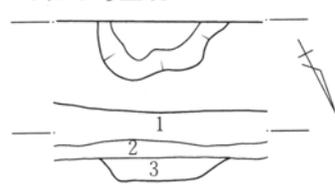
3区3号土坑



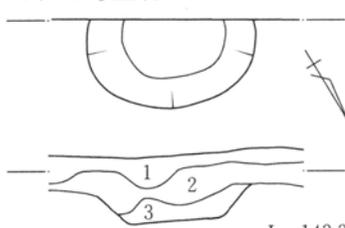
3区4号土坑



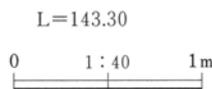
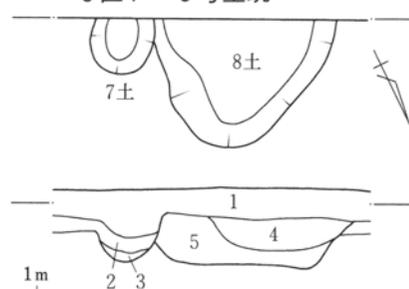
3区5号土坑



3区6号土坑



3区7・8号土坑



- 3区1号土坑  
 1 黒褐色土(10YR3/2)  $\phi$ 10mmの礫を若干と $\phi$ 5mmまでの褐色軽石粒を僅かに含む。  
 2 暗褐色土(10YR3/3)  $\phi$ 5mmまでの褐色軽石粒を僅かに含む。

- 3区2号土坑  
 1 黒褐色土(10YR3/1)  $\phi$ ~10mmまでの褐色軽石粒を含む。固く締まる。  
 2 黒褐色土(10YR3/2) 褐色土ブロックと $\phi$ ~10mmの褐色軽石粒を含む。  
 3 黒色土(10YR2/1)  $\phi$ 10mmまでの褐色軽石粒を含む。  
 4 暗褐色土(10YR3/3)  $\phi$ 30mmまでの礫を若干と $\phi$ 10mmまでの褐色軽石粒を含む。

- 3区3号土坑  
 1 黒色土(10YR2/1)  $\phi$ 5mmまでの褐色軽石粒と $\phi$ 20mmまでの礫を含む。  
 2 黒褐色土(10YR2/3) 1に類似、1よりやや赤味を帯びる。

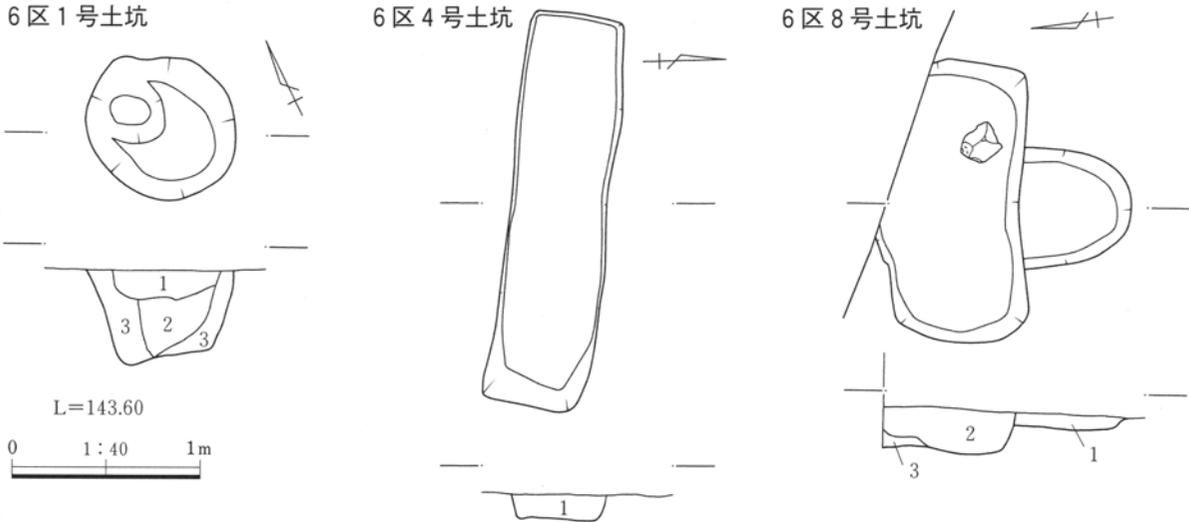
- 3区4号土坑  
 1 黒色土(10YR2/1)  $\phi$ 20mmまでの円礫を若干と褐色軽石粒を含む。

- 3区5号土坑  
 1 黒褐色土(10YR2/2)  $\phi$ 10mmまでの褐色軽石粒を含む。  
 2 黒褐色土(10YR3/1)  $\phi$ 10mmまでの褐色軽石粒を含む。  
 3 黒色土(10YR2/1)  $\phi$ 10mmまでの褐色軽石粒と $\phi$ 30mmまでの円礫を15%含む。

- 3区6号土坑  
 1 黒褐色土(10YR3/1) As-Bの割合が多い。  
 2 黒色土(10YR2/1)  $\phi$ 50mm大までの円礫を多く含む。  
 3 黒褐色土(10YR3/2)  $\phi$ 50mm大までの円礫を含む。

- 3区7・8号土坑  
 1 黒褐色土(10YR3/1) As-B、褐色軽石粒を僅かに含む。  
 2 黒褐色土(10YR2/2)  $\phi$ 50mmの円礫を含む。  
 3 黒色土(10YR2/1)  $\phi$ 30mmの円礫を含む。  
 4 暗褐色土(10YR3/3)  $\phi$ 50mmまでの円礫を含む。  
 5 暗褐色土(10YR3/3) 4に類似、4より円礫を多く含む。

53図 3区1~8号土坑遺構図



6区1号土坑

- 1 におい黄褐色土(10YR4/3) II主体、IIIとIVが混入(10~20%)。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) III主体、IIとIVが混入(10%)。
- 3 黒褐色土(2.5Y3/1) 混入物はみられない。

6区4号土坑

- 1 におい黄褐色土(10YR4/3) II主体、IIIとIVが混入(10~20%)。

6区8号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) Iに類似。
- 2 黒褐色土(10YR3/1) As-B混合土。
- 3 黒色土(2.5Y2/1) As-B混じる、2と同じであるがやや黒色が強い。

54図 6区1号、4号、8号土坑遺構図

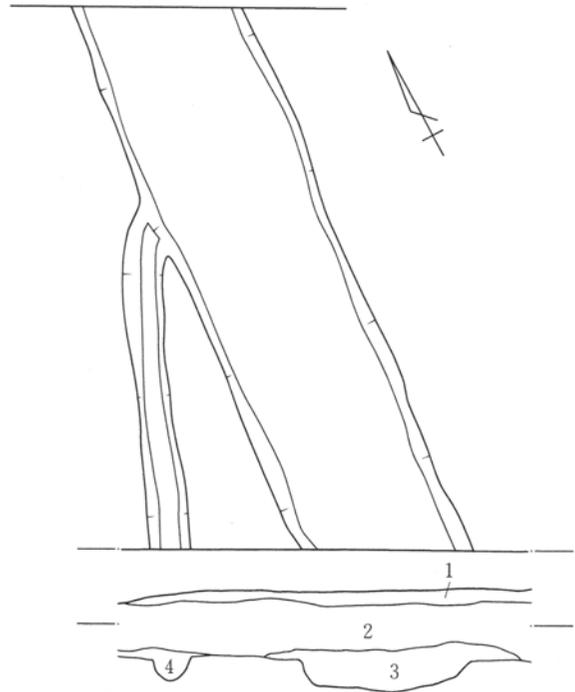
溝

3区1号溝

本溝は3区調査区の中程よりやや西寄り、X = 45,976~45,979、Y = -72,142~72,143に位置する。他遺構との重複関係は7区2号溝と重複が確認されたが、新旧関係は明らかではない。平面形態は確認面ではほぼ平行な直線である。断面形態は浅い逆台形を呈する。規模は調査区内の全長3.15m、幅0.85~0.90m、深度20cm前後を測る。走行はほぼ東西を指す。底面はほぼ平坦面を呈し、水が流れた痕跡等は観察されなかった。

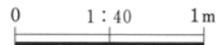
埋没状態は調査区北壁断面の観察でレンズ状の堆積が観察できることから自然埋没である。

出土遺物は全くみられなかった。本溝の存続期間は本溝に伴う出土遺物が存在しないため明確ではないが、埋没土から近世に比定される。



3区1・2号溝

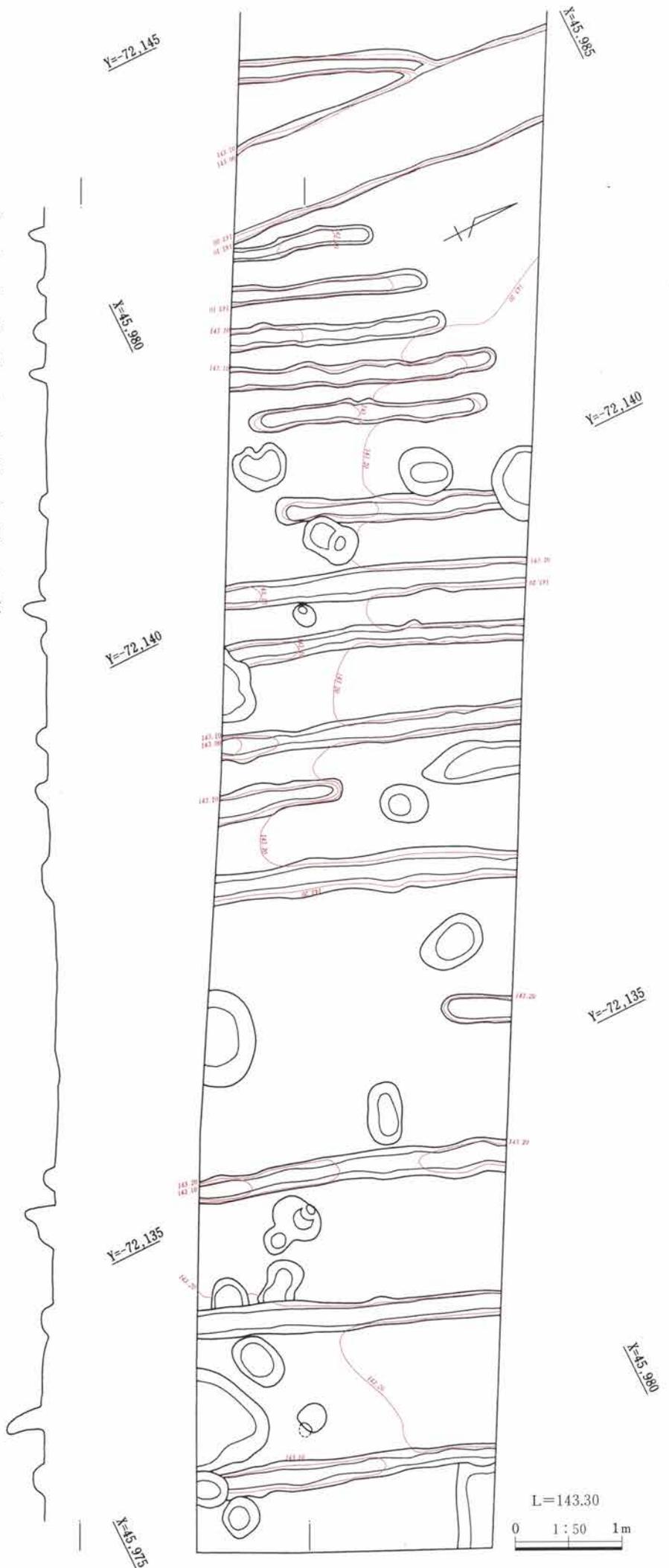
- 1 黒褐色土(10YR3/1) 固く締まる。
  - 2 黒褐色土(10YR2/2) φ~10mmの褐色軽石粒を多く含む。
  - 3 暗褐色土(10YR3/3) 褐色土を主体とす。
  - 4 黒色土(10YR2/1) やや砂質土に近い、φ~10mmの円礫を含む。
- ※1号溝(新)←2号溝(旧)



55図 3区1号、2号溝遺構図

畑

3区調査区1号溝の東側3分の2では幅15~25cm、深度10~15cmの平行する小規模な溝状遺構が15条ほど確認された。この溝状遺構は調査区東半では比較の間隔が広いが西側は溝状遺構の芯々間距離が30~40cmであることからサク部分だけ残存している畑と判断した。2区調査区から4区調査区の間は表土から洪水堆積土までの間にI層しか観察できないことから近世以降に削平が行われた可能性が想定される。こうした状況やサクの埋没土状況から近世に耕作された畑である。



56図 3区畑遺構図

## V 調査成果と課題

今回の前橋市総社町高井所在の高井桃ノ木Ⅲ遺跡発掘調査は街路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査のため範囲が幅5m前後の限定された中で全長170mに及ぶトレンチ状の調査であった。そのため遺構の全貌を調査できたものは土坑のような小規模なものが数基存在しただけで、得ることができた情報も限定されたものであった。しかし、この地域では隣接する地点で高井桃ノ木遺跡、高井桃ノ木Ⅱ遺跡(以後、高井桃ノ木遺跡、高井桃ノ木Ⅱ遺跡、高井桃ノ木Ⅲ遺跡を総称するときは高井桃ノ木遺跡群と呼称する。)の発掘調査が実施されている。これらの遺跡も発掘調査範囲は道路建設・整備に伴うため限定された範囲ではあるが多くの成果をみることができ。こうした高井桃ノ木遺跡群の発掘調査成果をふまえて今回の発掘調査について考察をおこなった。

発掘調査では縄文時代前期後葉から中期の遺物と奈良平安時代の竪穴住居群、土坑群、中世・近世の土坑群などの遺構を検出し、同時代の遺物が出土しているが、高井桃ノ木遺跡群ではⅢ遺跡で検出した時期の遺構の他に古墳時代の竪穴住居も検出されている。遺跡の範囲はⅡ遺跡B区より東では遺構が確認されていないことからこの地点がほぼ東端とみられるが、北側や西側については遺構分布の広がりがあることからまだ集落範囲が広がるとみられる。これに対して南側は現地形でも緩やかな傾斜が確認され、南に存在する柿の木遺跡との間に水田経営などに適した低地が存在するとみられ集落範囲の広がりはないと想定される。

### 縄文時代

縄文時代は遺構の存在をみることができなかったが、V層下に堆積する厚さ1m前後の洪水堆積土下で確認した黒色土層中から若干の前期末葉～中期後半にかけての土器片、黒曜石・礫剥片などが出土している。この黒色土中から遺物が出土した範囲は1区東端の一部に限られていたが、このような状況は

高井桃ノ木遺跡、高井桃ノ木Ⅱ遺跡でも確認されている。その範囲は1区東端から東へ約150mほどにおよぶと想定される。周辺地形から推察するとこれらの遺物は高井桃ノ木遺跡群北西にみられる微高地に竪穴住居群などによる集落が存在し、この集落で使用された土器や石器加工の際に出た剥片などが廃棄されたものと想定される。

縄文時代の遺物は、洪水堆積土下の黒色土層以外でも1区1号住居や1区2号住居、5区・6区河道などからも石鏃、打製石斧などが出土している。これらの石器は土器の出土が伴っていないため詳細については不明であるが、VI層が中期末以降に起きた洪水によるところからこれらの遺物は後期以降のものとして想定される。

### 奈良平安時代

奈良平安時代に比定される遺構は竪穴住居8軒、土坑30基、溝2条と河道跡を検出した。遺構の分布は1区、6区～7区にまとまっていたが、2区・3区では遺構確認のため表土を掘削するとⅢ層やⅣ層、Ⅴ層が存在せずⅥ層が出現したことから2区・3区は本来微高地状であったが、中世～近世の間に削平された可能性が高く、遺構が存在していた可能性もあり得る。

検出した遺構は竪穴住居、土坑、溝であるが、そのうち遺構の性格を明確にできたのは居住施設としての竪穴住居だけであった。土坑は6区14号土坑のような掘立柱建物の柱穴とみられるものも数基存在したが、調査区内での連続性、規則性が確認できなかったため掘立柱建物としての認定はできなかった。また、6区7号土坑や9号土坑では6区1号住居と同時期である8世紀第1四半期の土器群が出土しており住居との関連があると思われるがその性格を断定するにまでは至らなかった。

溝は7区1号溝が断面逆台形を呈し、その走行も直線的であることから区画溝の可能性も想定された

が、対になる遺構の確認までには至らなかった。

河道は出土遺物から11世紀代の洪水によるものと想定できたが、出土遺物は流されている割には摩滅を受けおらず近隣における集落の存在が窺えた。

竪穴住居は8世紀前半代から10世紀前半代にかけてであるが、調査区内では8世紀後半から9世紀前半の竪穴住居が欠落しており、継続した様子は見られない。しかし、高井桃ノ木遺跡群でみると高井桃ノ木遺跡では6世紀前半から10世紀前半代にかけての竪穴住居が49軒、Ⅱ遺跡では7世紀前半から10世紀前半の竪穴住居が7軒検出されている。高井桃ノ木遺跡群では計64軒の竪穴住居群が検出されることになる。そのうち、遺物の出土がなく存続時期を明らかにすることができない23軒を除いた変遷をみると次のようになる。なお、高井桃ノ木遺跡、Ⅱ遺跡での出土遺物が少ないため四半世紀ごとの変遷をみることはできないため半世紀ごとの変遷を行った。

#### 高井桃ノ木遺跡群の竪穴住居変遷

時 期	I	Ⅱ	Ⅲ	計	比率
6世紀前半					
6世紀後半	6	1		7	17
7世紀前半	4	2		6	15
7世紀後半	2			2	5
8世紀前半	3		3	6	15
8世紀後半	3			3	7
9世紀前半	2			2	5
9世紀後半	3	2	2	7	17
10世紀前半	3	2	3	8	20
10世紀後半	—	—	—		%

(Iは高井桃ノ木、Ⅱは高井桃ノ木Ⅱ、Ⅲは高井桃ノ木Ⅲを表す)

住居変遷からは高井桃ノ木遺跡群での集落が6世紀後半代に集落が形成され、10世紀前半代まで多少の盛衰はみられるが継続することがわかる。また、時期不明の住居がみられることや限定された範囲の調査であることを考慮するなら集落規模はそれほど小規模なものではないと想定される。

高井桃ノ木遺跡群は「Ⅲ、2. 歴史的環境」で記述したように古代上野国群馬郡群馬郷に属すると想定される。そして周辺遺跡の様相からは総社古墳群を造営、山王廃寺を建立した豪族の支配下にあったことは明らかである。この地域では奈良・平安時代の集落は国分境遺跡や下東西遺跡、下東西・清水上遺跡などで竪穴住居軒数も多く、規模の大きな遺跡が存在することがわかっている。しかし、古墳群が造営される5世紀後半代から6世紀代にかけての集落については判然としていなかった。こうしたなか、大屋敷遺跡や稲荷塚道東遺跡ではこの時期の集落がみつき、総社古墳群に被葬された豪族の経済基盤が多少なりとも明らかになりつつある。

周辺遺跡の様相などと高井桃ノ木遺跡群をみると高井桃ノ木遺跡群が形成される6世紀後半代は総社古墳群の豪族が二子山古墳を造営しはじめる時期である。また、この時期は榛名山南麓の白川、井野川流域が二ツ岳の噴火による被災を受け農業経営が壊滅的打撃を受けた時期でもある。こうした被災民をより一層の労働力として受け入れたことによって新たな集落が形成されたと想定される。こうした経済力の強化は上野国の最有力豪族として山王廃寺建立や国府を誘致する原動力になったとみられる。

8世紀以降は周辺遺跡にみられるように南西に位置する微高地に集落が拡大している。これらの集落は下東西遺跡のような居宅施設や奈良三彩など特異な遺物を出土する遺跡もあるが、大部分は竪穴住居を主体とする庶民的な集落が中心である。こうした点から山王廃寺の維持や国府造営、国分寺建立などの労働力、豪族の経済基盤として大きな役割を果たしたとみられる。

今回の高井桃ノ木Ⅲ遺跡の発掘調査は限定された範囲ではあったが、高井桃ノ木遺跡群の範囲や集落構成を検討する上で重要な役割を果たしたと考える。しかし、この地域は古代上野国の中枢地域でありまだ解明されていない点も多く、今後も小規模な調査であってもその重要性を再認識させられた調査であった。

# 図 版





遺跡地周辺の航空写真（1947年米軍撮影）



遺跡地遠景



発掘調査地調査前状況 東→



発掘調査地調査前状況 南西→



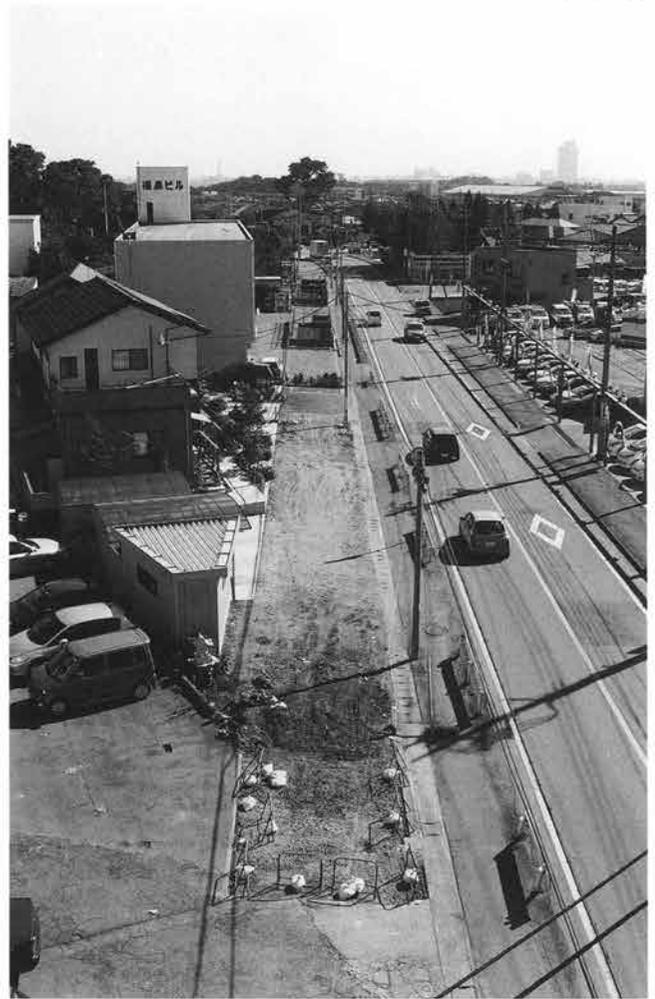
発掘調査地調査前状況 南東→



発掘調査地調査前状況 西→



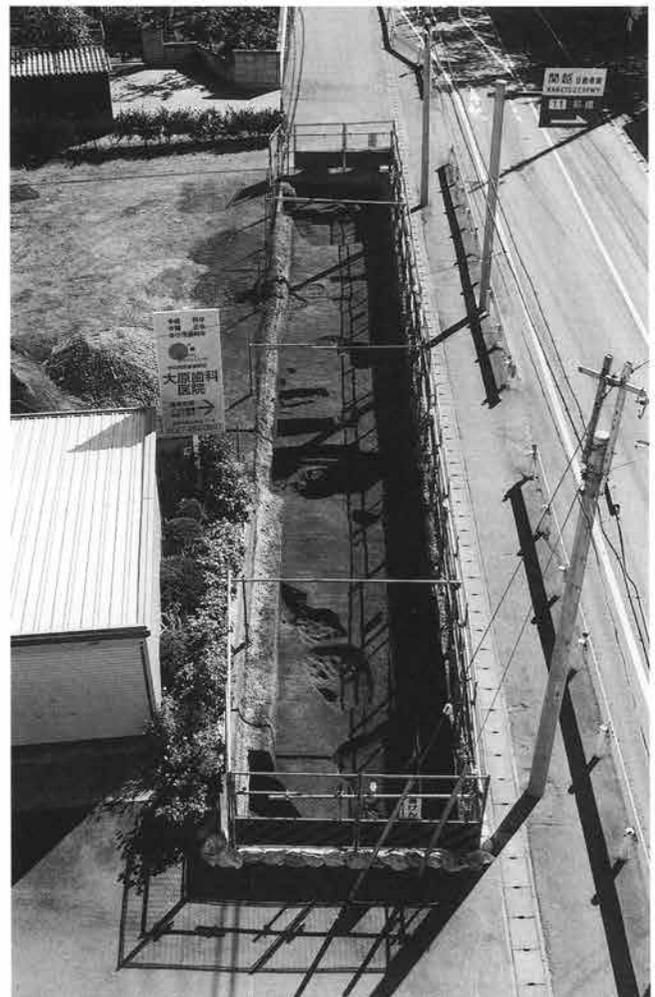
調査区全景 東→



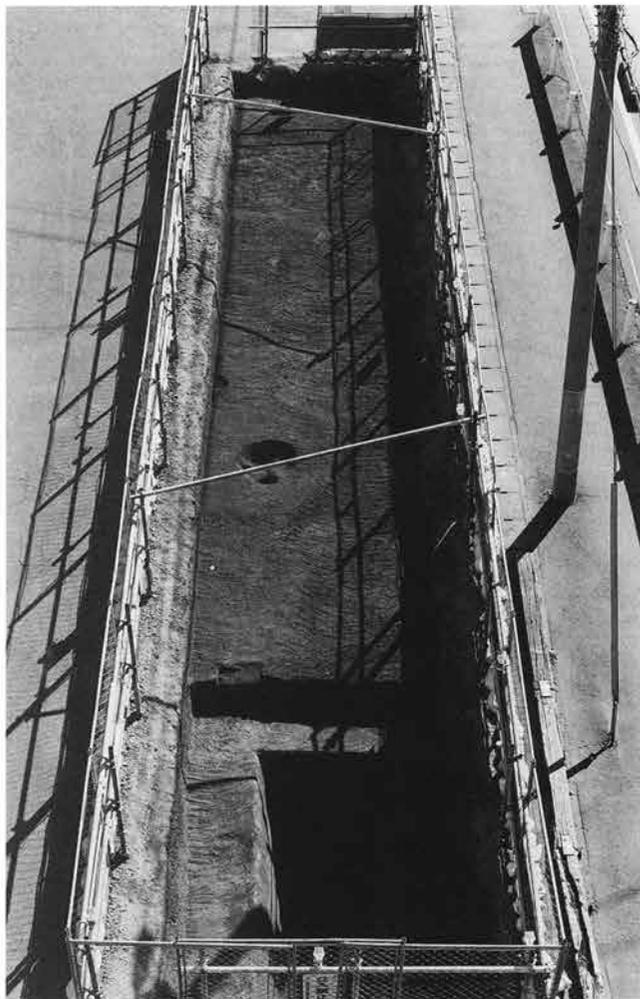
調査区全景 西→



1区調査区全景 東→



1区調査区全景 西→



2区調査区全景 西→



3区調査区全景 東→



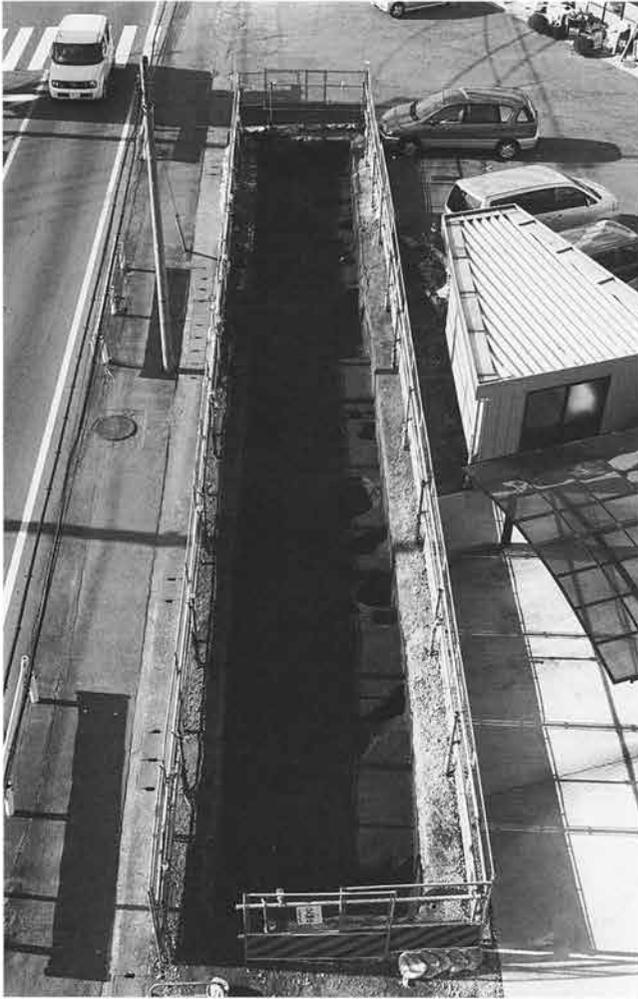
4区調査区全景 西→



5区調査区全景 西→



5区調査区全景 北東→



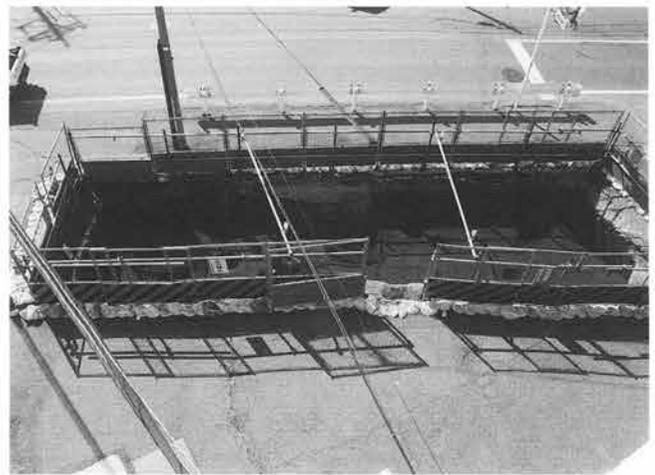
6区調査区全景 東→



6区調査区全景 西→



7区調査区全景 西→



7区調査区全景 北→



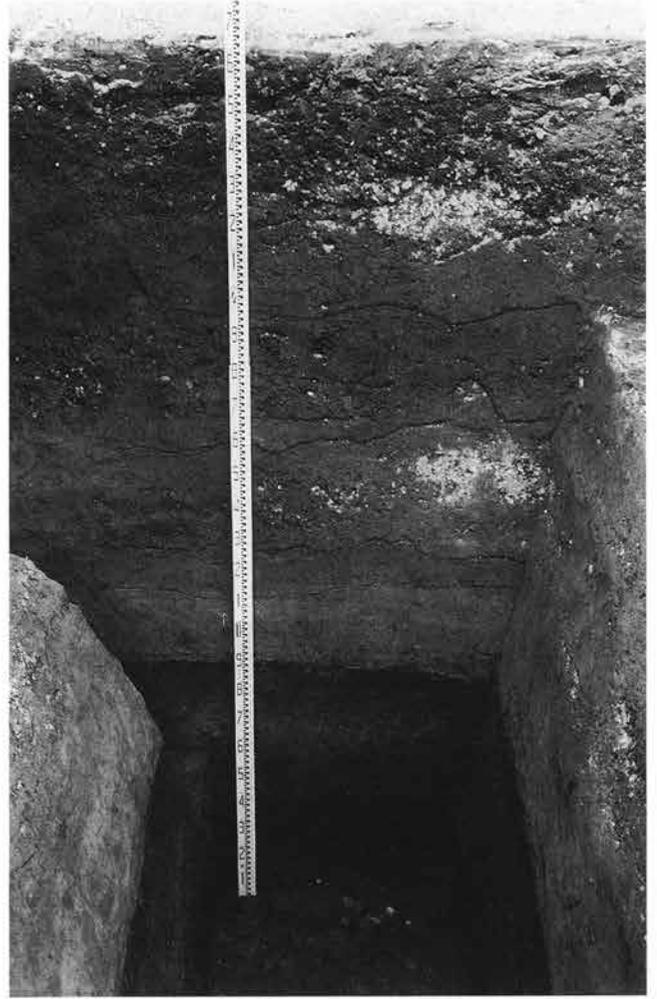
7区調査区全景 東→



1区IV層下基本層序 北→



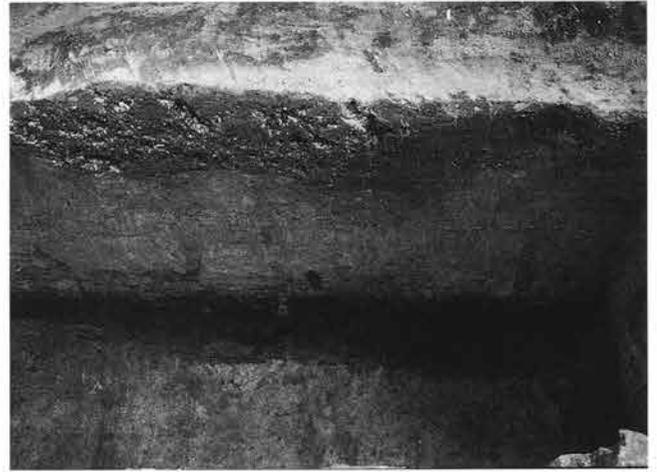
3区V層下基本層序 北→



2区地表下基本層序 東→



5区地表下基本層序 東→



6区V層下基本層序① 南→



6区V層下基本層序② 南→



7区地表下基本層序 南西→



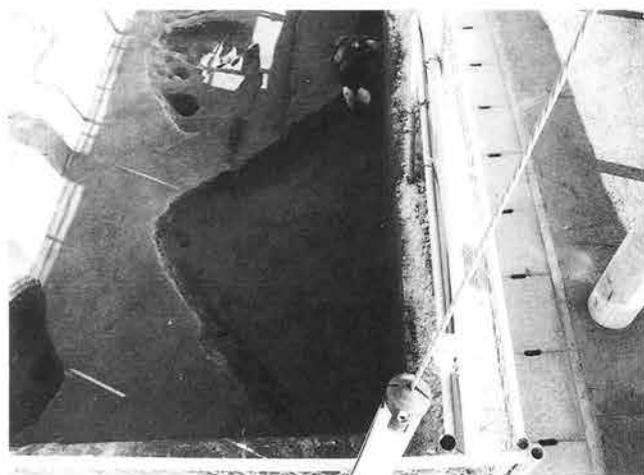
1区縄文時代面遺物出土状態 東→



1区縄文時代面遺物出土状態 南→



1区縄文時代面遺物出土状態 北→



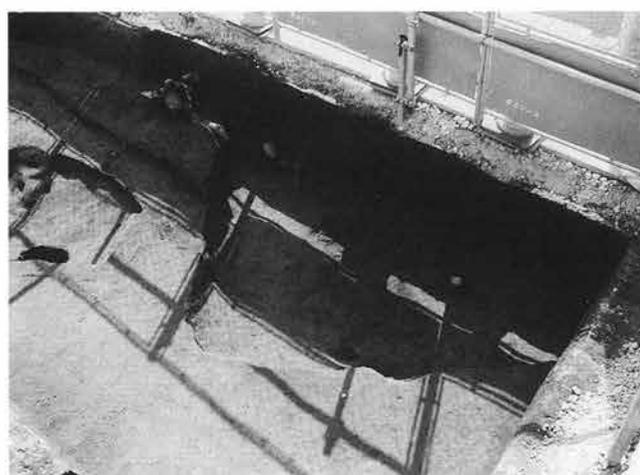
1区1号住居全景 西→



1区1号住居全景 北→



1区1号住居埋没土堆積状態 東→



1区1号住居遺物出土状態 北→



1区1号住居カマド全景 西→



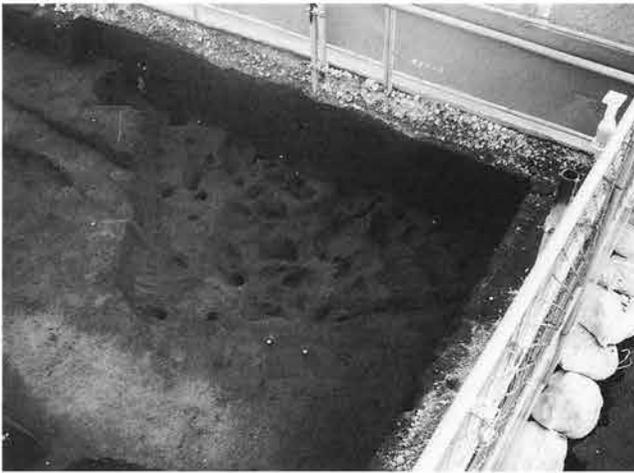
1区1号住居カマド土層断面 北→



1区1号住居カマド遺物・礫除去後 西→



1区1号住居カマド掘り方 西→



1区1号住居掘り方 西→



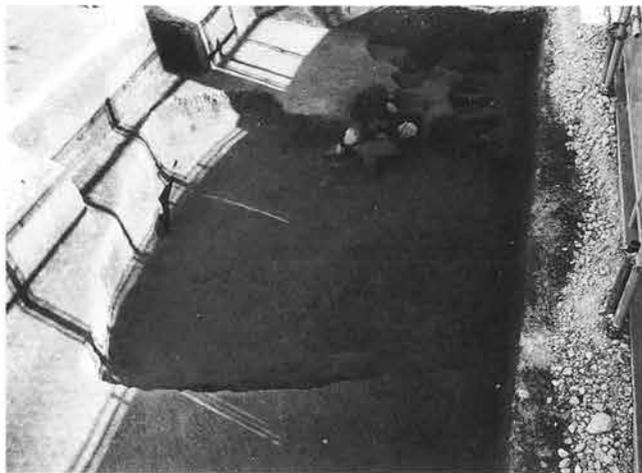
1区1号住居掘り方土層断面 東→



1区1号住居工事立ち会い時調査状況 西→



1区1号住居工事立ち会い時遺物出土状態 北→



1区2号住居全景 西→



1区2号住居埋没土堆積状態 西→



1区2号住居遺物出土状態 西→



1区2号住居カマド廃棄状態 西→



1区2号住居カマド天井部補強礫除去後 西→



1区2号住居カマド掘り方 西→



1区2号住居掘り方 西→



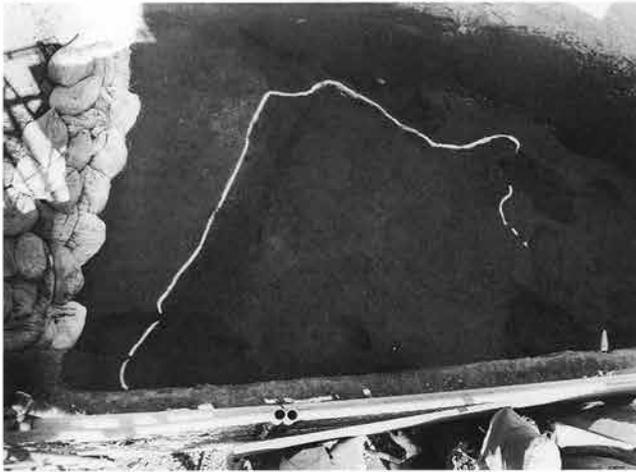
1区2号住居掘り方 北→



6区1号住居全景(拡張前) 西→



6区1号住居全景 南→



6区1号住居全景 南→



6区1号住居遺物出土状態 南→



6区1号住居貯蔵穴 北→



6区1号住居カマド 南→



6区1号住居掘り方 南→



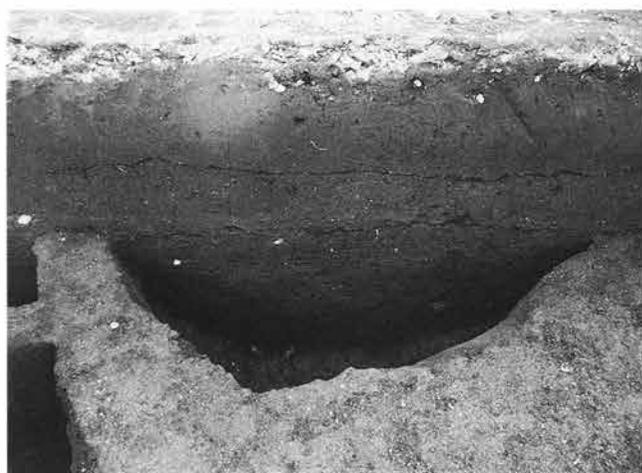
6区1号住居掘り方床下土坑NO.2 北→



6区2号住居全景（拡張前）北東→



6区2号住居全景（拡張後）東→



6区2号住居埋没土堆積状態 北→



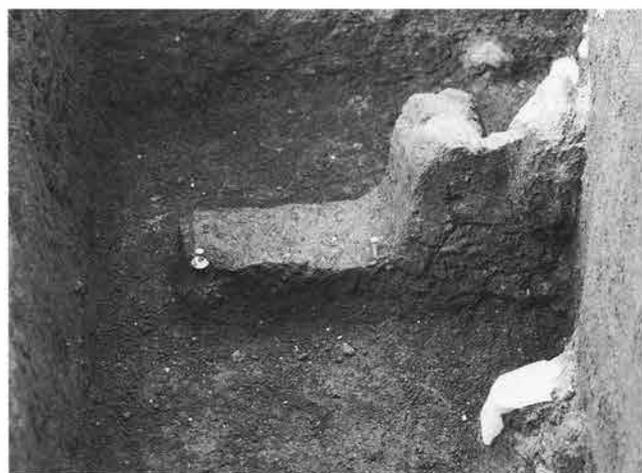
6区2号住居掘り方 北→



7区1号住居全景 北→



7区1号住居カマド付近土層断面 東→



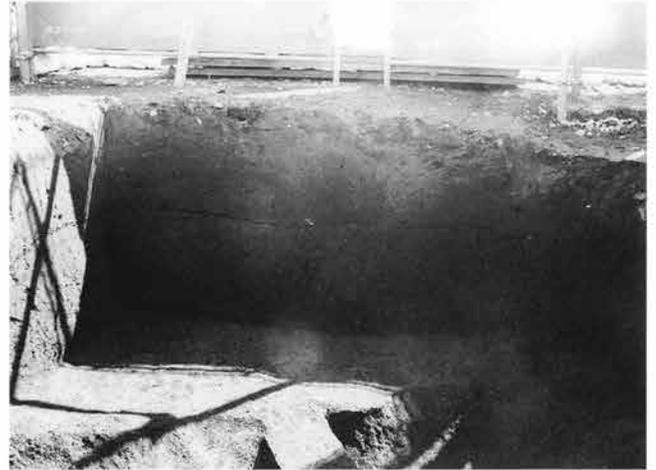
7区1号住居カマド付近土層断面 北→



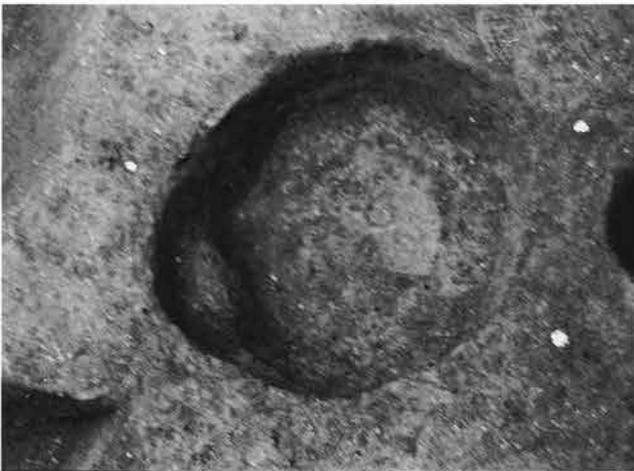
7区1号住居掘り方 北→



7区2号住居全景（床面のみ）北→



7区2号住居埋没土堆積状態 西→



7区2号住居掘り方床下土坑 南→



7区2号住居掘り方床下土坑土層断面 南→



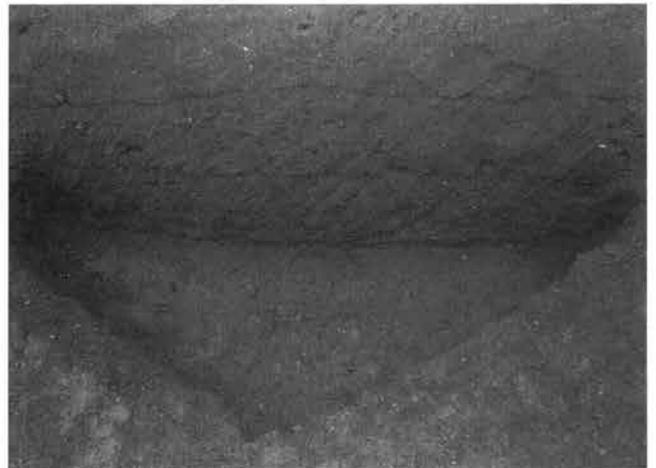
7区2号住居工事立ち会い時調査状況



6区～7区間住居工事立ち会い時調査状況



6区～7区間住居工事立ち会い時調査状況



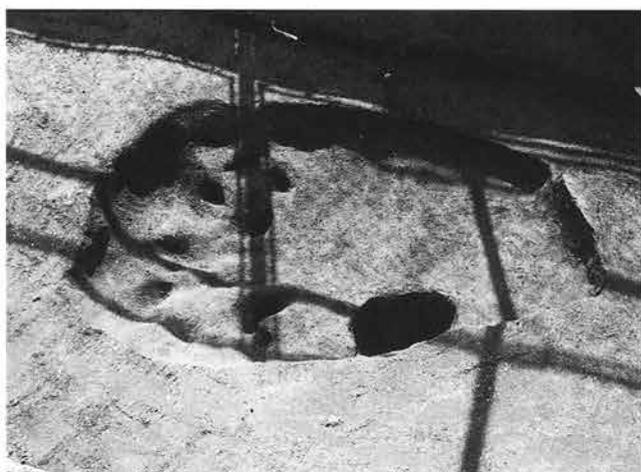
6区～7区間住居工事立ち会い時調査状況



1区1号土坑 東→



1区1号土坑土層断面 南→



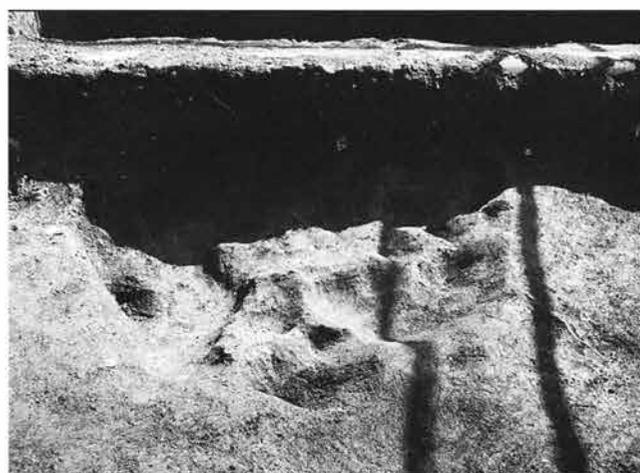
1区4号土坑 北→



1区4号土坑土層断面 西→



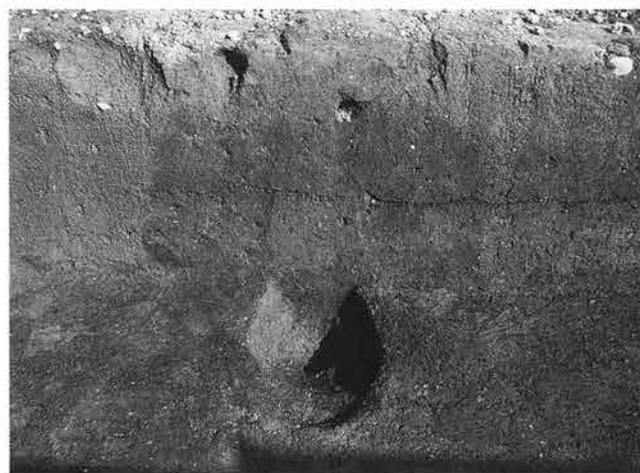
4区1号土坑集石確認状態 西→



4区1号土坑掘り方 西→



4区1号土坑土層断面 南西→



6区2号土坑 南→



6区3号土坑 南→



6区5号土坑 南→



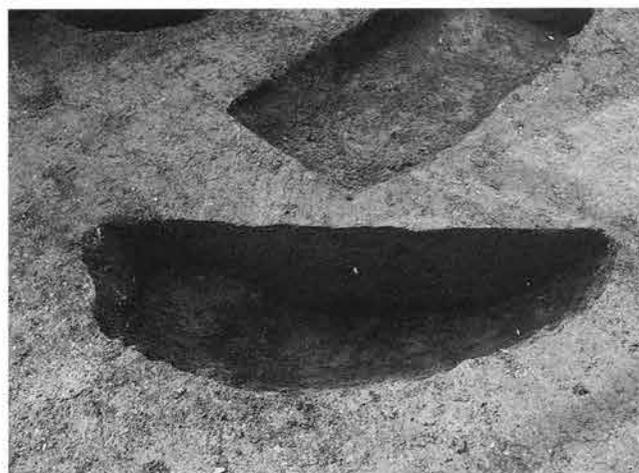
6区6号土坑 北→



6区7号土坑 北→



6区7号土坑遺物出土狀態 北→



6区7号土坑土層断面 北→



6区9号土坑 南→



6区9号土坑土層断面 西→



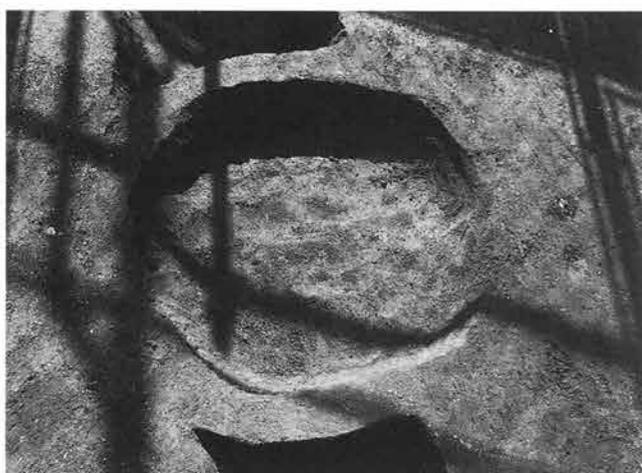
6区10号土坑 北→



6区10号土坑土层断面 北→



6区11号土坑 南→



6区13号土坑 北→



6区13号土坑土层断面 南→



6区14号土坑 西→



6区14号土坑土层断面 北→



6区15号土坑 東→



6区15号土坑土层断面 北→



6区16号土坑 南→



6区17号土坑 南→



6区17号土坑土层断面 南→



6区18号土坑·19号土坑 南→



6区20号土坑 北→



7区1号土坑 西→



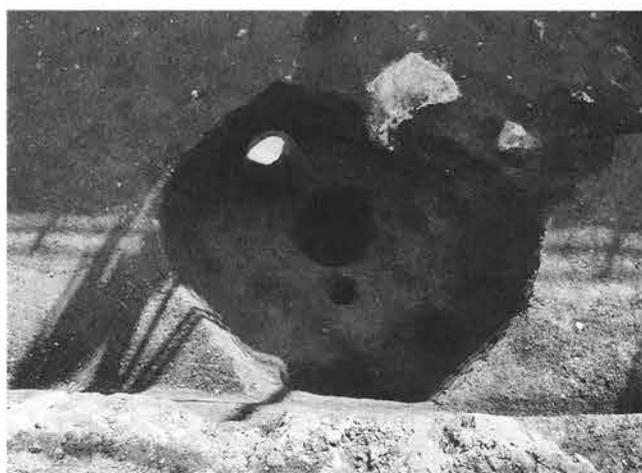
7区1号土坑土层断面 南西→



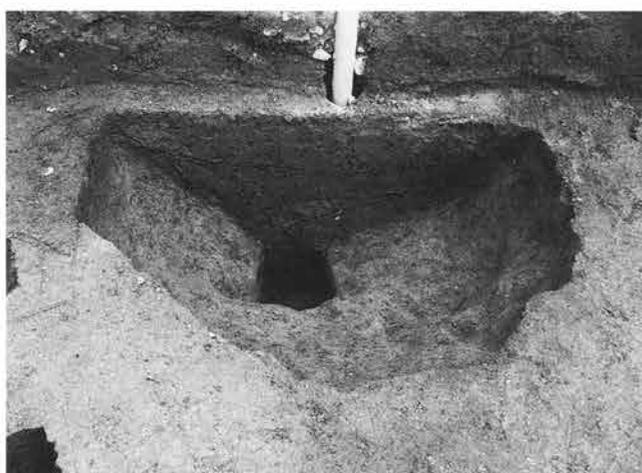
7区2号土坑 西→



7区2号土坑土层断面 西→



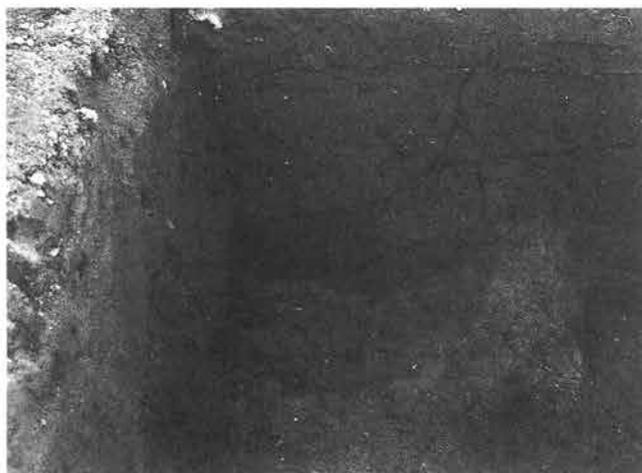
7区3号土坑 北→



7区4号土坑 北→



7区5号土坑 西→



7区6号土坑 北→



7区7号土坑 北→



7区7号土坑土层断面 西→



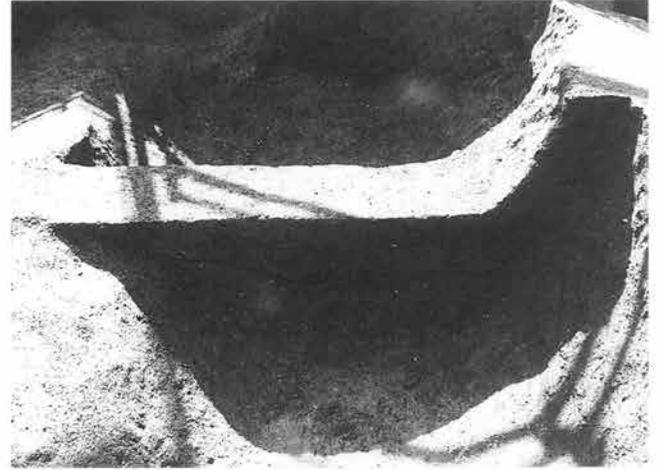
6区1号溝土層断面 南→



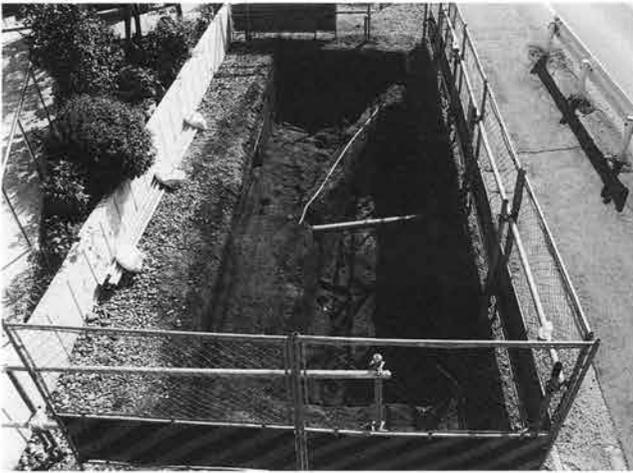
7区1号溝 北→



7区1号溝土層断面 北→



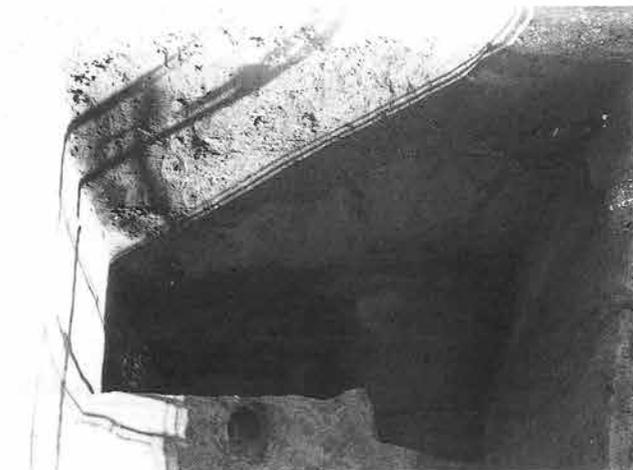
7区1号溝土層断面 北→



5区河道 西→



5区河道 東→



5区河道埋没土堆積状態 西→



5区河道埋没土堆積状態 東→



1区2号土坑 北→



1区3号土坑 北→



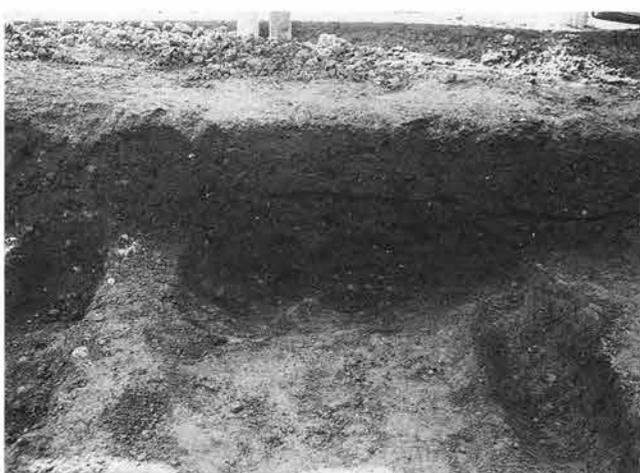
1区10号土坑 南→



1区11号土坑~16号土坑 南→



3区2号土坑 南→



3区5号土坑 北→



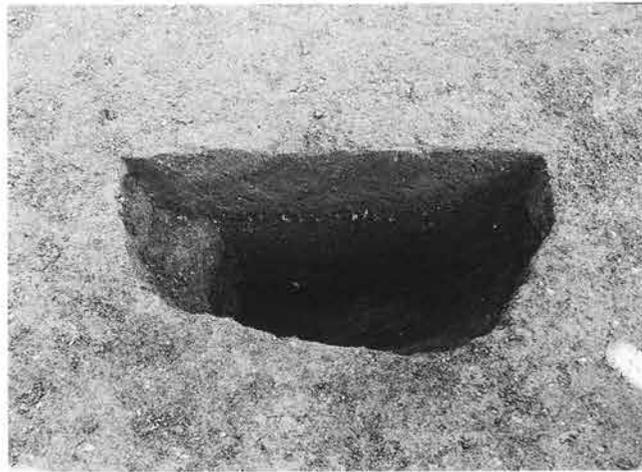
3区6号土坑 北→



3区7号土坑·8号土坑 北→



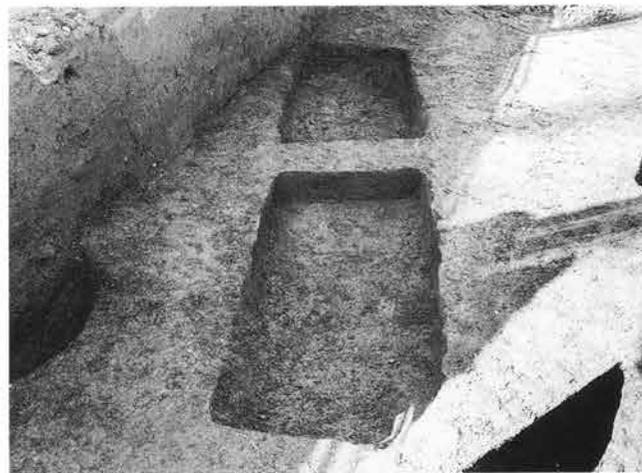
6区1号土坑 東→



6区1号土坑土層断面 南→



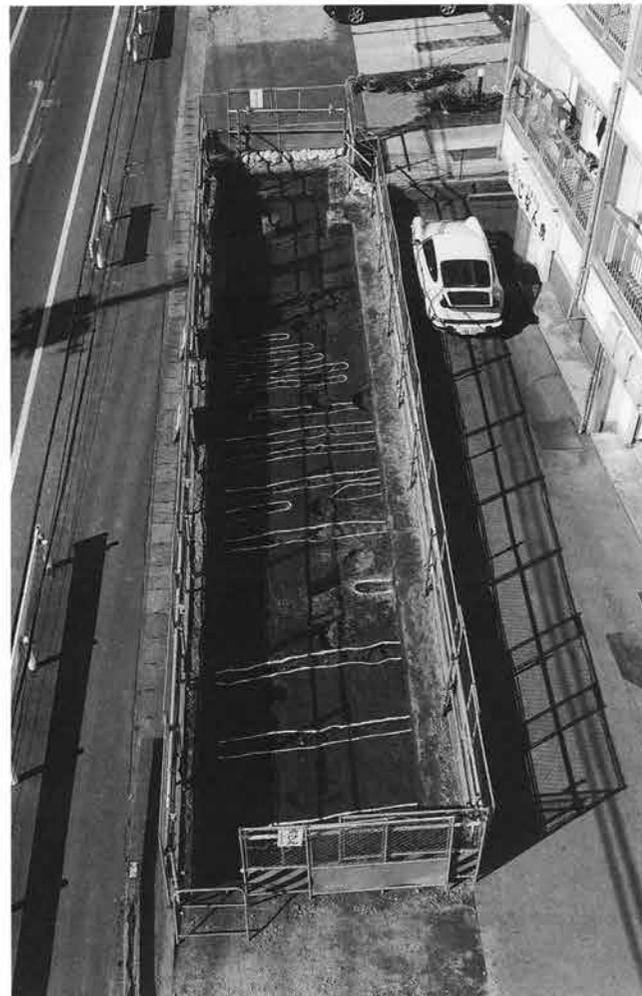
6区4号土坑 北→



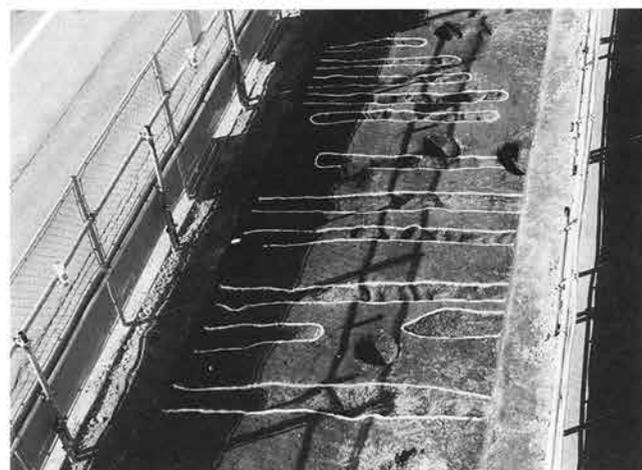
6区4号土坑土層断面 東→



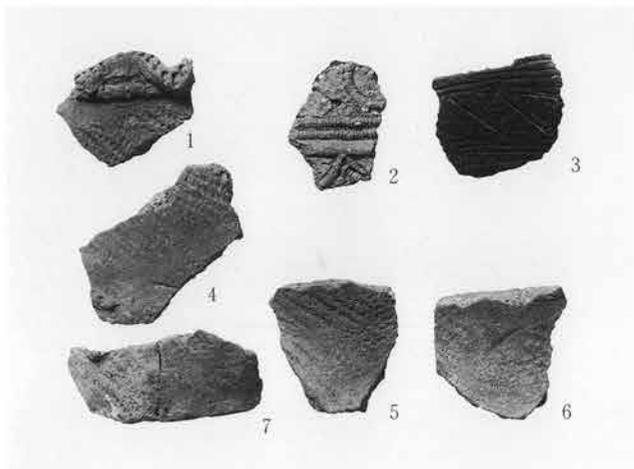
3区1号溝 北→



3区畑 全景 東→



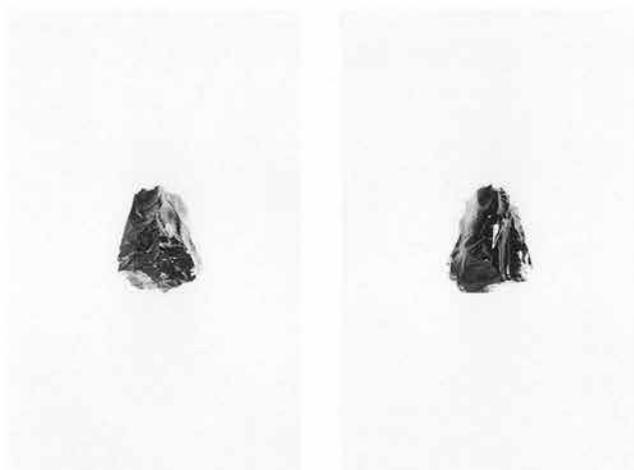
3区畑 近景 東→



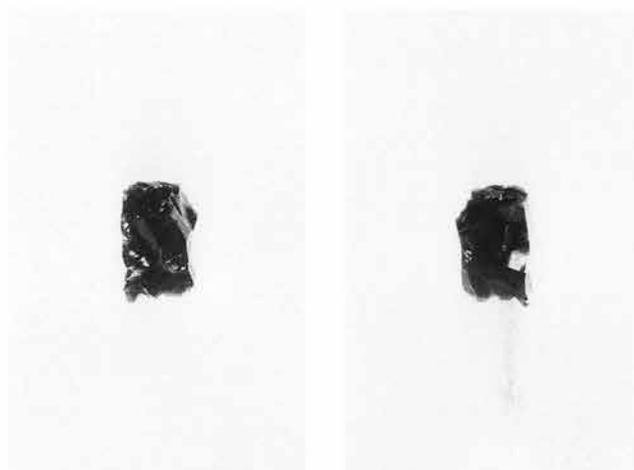
1区 縄文包含層 (1~7)



1区 縄文包含層-8



1区 縄文包含層-9



1区 縄文包含層-10



1区 縄文包含層-11



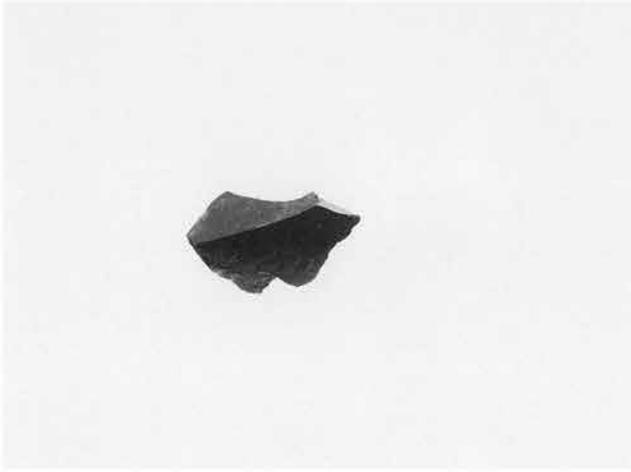
1区 縄文包含層-11



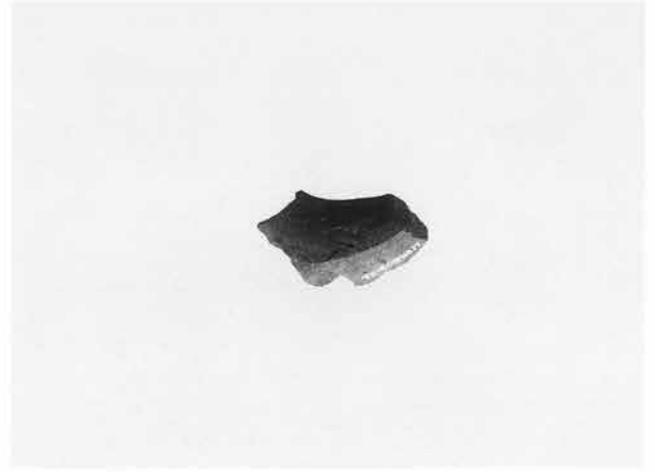
1区 縄文包含層-12



1区 縄文包含層-12



1区 縄文包含層-13



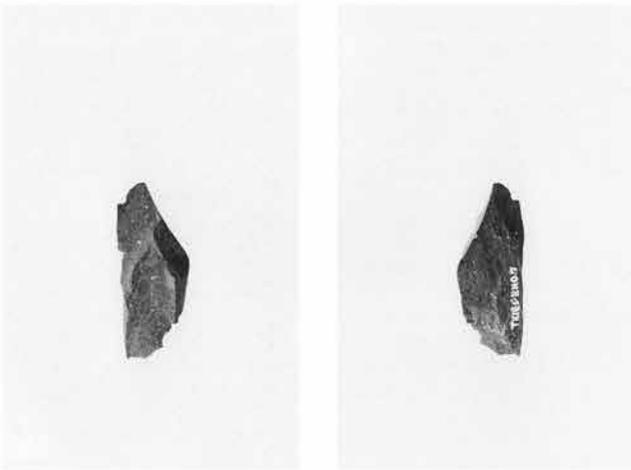
1区 縄文包含層-13



1区 縄文包含層-14



1区 縄文包含層-14



1区 縄文包含層-15



1区 縄文包含層-16



1区 1号住居-1



1区 1号住居-2



1区 1号住居-3



1区 1号住居-4



1区 1号住居-6



1区 1号住居-8



1区 1号住居-9



1区 1号住居-10



1区 1号住居-11



1区 2号住居-1



1区 2号住居-2



1区 2号住居-4



1区 2号住居-5



1区 2号住居-6



1区 2号住居-7



1区 2号住居-9



1区 2号住居-10



1区 2号住居-11



1区 2号住居-12



1区 2号住居-13



1区 2号住居-14



1区 2号住居-15



1区 2号住居-16



1区 2号住居-19



1区 2号住居-21



1区 2号住居-22



1区 2号住居-23



1区 2号住居-24



1区 2号住居-26



1区 2号住居-27



1区 2号住居-28



1区 2号住居-29



1区 2号住居-29



1区 2号住居-30



1区 2号住居-30



1区 2号住居-31



1区 2号住居-31



6区 1号住居-3



6区 1号住居-5



6区 1号住居-8



6区 1号住居-13



6区 1号住居-18



6区 1号住居-20



6区 1号住居-29



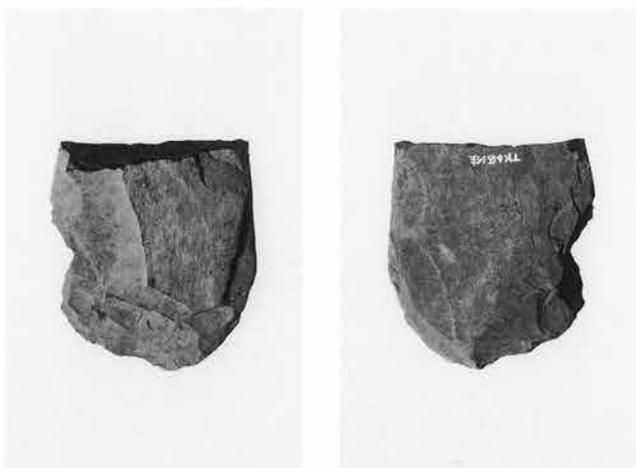
6区 1号住居-30



6区 1号住居-31



6区 1号住居-32



6区 1号住居-36



7区 2号住居-10



7区 2号住居-8



7区 2号住居-12



6·7区 1号住居-1



6·7区 1号住居-4



6·7区 1号住居-5



6·7区 1号住居-6



土坑-1



土坑-2 (6区7号土坑-4)



土坑-8 (6区7号土坑-5)



土坑-10 (6区7号土坑-7)



土坑-12 (6区9号土坑-1)



土坑-15 (6区9号土坑-4)



土坑-16 (6区9号土坑-5)



土坑-22 (6区18号土坑-1)



土坑-24 (6区18号土坑-3)



土坑-27 (6区18号土坑-6)



土坑-33 (7区3号土坑-3)



5·6区 河道-1



5·6区 河道-7



5·6区 河道-13



5・6区 河道-15



5・6区 河道-16



5・6区 河道-17



5・6区 河道-18



5・6区 河道-19



5・6区 河道-20



5・6区 河道-21



遺構外-1



遺構外-2



遺構外-3



遺構外-4

# 報告書抄録

書名ふりがな	たかいものきさんいせき
書名	高井桃ノ木Ⅲ遺跡
副書名	元景寺南線（南新井前橋線）街路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	385
編著者名	神谷佳明
編集機関	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20060925
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橋町下箱田784-2
遺跡名	高井桃ノ木Ⅲ遺跡
遺跡名ふりがな	たかいものきさんいせき
遺跡所在地	前橋市総社町高井
市町村コード	10201
遺跡番号	1038
北緯(日本測地系)	
東経(日本測地系)	
北緯(世界測地系)	362453
東経(世界測地系)	1390133
調査期間	20051001-20051228
調査面積	720
調査原因	道路整備
種別	集落
主な時代	縄文/奈良平安/中近世
遺跡概要	縄文-包含層/奈良平安-住居8+土坑+溝+河道/中近世-土坑+溝+畑
特記事項	高井桃ノ木遺跡、高井桃ノ木Ⅱ遺跡とは同一の遺跡

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第385集

高井桃ノ木Ⅲ遺跡

元景寺南線(南新井前橋線)街路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

---

2006年(平成18)9月15日 印刷

2006年(平成18)9月25日 発行

編集/発行 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北橋町下箱田784-2

電話 0279-52-2511 (代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷/杉浦印刷株式会社

---